

「国語に関する世論調査」問題別分析報告書

平成12年5月

国立国語研究所

国立国語研究所



100239728

目 次

はじめに	1
第1章 本報告書の概要	2
第2章 調査結果の概括	12
第1節 敬意表現を中心とした言葉遣いに関する問い	12
第1項 言葉遣いに関する項目について	12
第2項 敬語及び敬語表現に関する項目について	17
第2節 漢字に関する問い	30
第3節 国際化時代の日本語に関する問い	35
第3章 調査結果の分析	41
第1節 敬意表現を中心とした言葉遣いに関して	41
第1項 敬意表現についての留意点	41
第2項 敬語についての留意点	54
第2節 「異体字についての印象」に関して	67
第3節 国際化時代の日本語に関して	78
第1項 外来語の認知度	78
第2項 日本語とコミュニケーション	85
第3項 国際化にかかわる言葉意識の年齢特性	90
第4節 「多様性」から見た調査結果の分析	98
付録 文化庁文化庁国語課調査の集計結果	114
平成7年度調査	116
平成8年度調査	124
平成9年度調査	134
平成10年度調査	144
後 記	156

はじめに

国民が国語の個別の問題に関してどのような意識を抱いているかを調査することは、国語政策を立案する上で大切なことである。これまで、文化庁文化部国語課において平成7年から毎年「国語に関する世論調査」が実施されてきた。「国語に関する世論調査」は、文化庁に先立ち総理府においても昭和54年及び平成4年に実施されている。これらの調査では、同一の項目の質問も含まれているが、主にその年度に必要な問題に関する調査が実施されてきた。

そこで、これまでの国語に関する意識調査は、どういう項目に整理できるか、どういう結果が得られたかなどの見方でとらえ直すことが有用であると考えられる。また、異なる年度で同じ問題について調査している場合、どういう結果の違いが出ているかは興味を引かれることである。

国立国語研究所は、平成11年8月に、文化庁文化部国語課から、これまでの「国語に関する世論調査」に関する検討を依頼された。そこで、「国立国語研究所『国語に関する世論調査』分析のための調査研究協力者会議」を発足させて、調査研究に取り組んできた。外部からも2名の委員に加わっていただいた。

本報告書は、3章及び付録の構成になっている。第1章は全体の概要である。第2章は全6冊の報告書を内容の上で3節に分け、第2節は更に2項目に分けて、世論調査の主要な内容についての概要を提示している。第3章はこの調査研究会議の委員がそれぞれ大切な領域・項目を担当して、各人の問題意識に基づいた考察をまとめている。そして、「付録」として「文化庁文化部国語課調査の集計結果」を提示している。

本報告書は、第22期国語審議会に報告することを直接の目的としている。本報告書が第22期国語審議会に役立つことがあれば幸いである。

平成12年5月

国立国語研究所長

甲斐 陸朗

第1章 報告書の概要

1. 本調査研究の目的

文化庁国語課が平成7年度から平成10年度にわたって実施した「国語に関する世論調査」の報告書においては、主として集計結果（単純集計及び一部クロス集計）が報告されている。「国語に関する世論調査」は、総理府で昭和52年度、平成4年度に実施した報告書を含めると、これまでに6冊の報告書が刊行されている。

この調査研究では、これら6冊の報告書について、統計的手法を基本としつつ多面的かつ概括的な視点から分析を行うことを目的とする。また、文化庁国語課が行った「国語に関する世論調査」においては、比較対照の目的で同一あるいは類似の質問を行っている。これらの質問の結果の違いに関する分析も行う。

以上の調査研究・分析の結果をまとめることで、国語審議会の検討の資料に資するものとする。

2. 本調査研究の要点

本調査研究で指摘し、明らかにしたことの要点を、各章・各節・各項ごとにまとめると次の通りである。

第2章 調査結果の概括

第2章は、6回の調査結果をもとに、3種の問い4つの項目に分け、概括的な特徴を記述するものである。

第1節 敬意表現を中心とした言葉遣いに関する問い

第1項 言葉遣いに関する項目について

より広く言葉遣い全般について（敬語などの敬意表現を除く）の世論調査項目では、以下のような結果が得られている。

- ①自分自身の言葉遣いについては、約3分の2の人が「気を使っている」と答えていて留意度は高い。特に、「日常の言葉遣い・話し方」「敬語」についての留意度が高い。
- ②言葉が乱れているという意識は、約7割の人が持っている。特に、「話し方」「敬語」

「あいさつの言葉」について乱れを感じている人が多い。

- ③言葉遣いの改善のためには、「正確さ」「論理性」などよりも、「相手や場面の配慮」「心のこもった言葉」などが必要だと意識する人が多い。
- ④国語の将来について国の果たすべき役割として、言葉遣いの基準の提示、教育の充実、国語意識の涵養などが期待されている。これと並んで、家庭・社会・マスコミなどの果たすべき役割も期待されている。
- ⑤「ら抜き言葉」が気になるかどうかは、意見が分かれる。
- ⑥「言葉の男女差」は「あった方がよい」とする意見と「無くなるのはやむを得ない」とする意見とが同程度（4割程度ずつ）に分かれる。
- ⑦「方言と共通語の使い分け」は相手や場合によって使い分けることが支持されている。

第2項 敬語および敬意表現に関する項目について

尊敬語・謙譲語・丁寧語などの敬語を中心とする世論調査項目では、以下のような結果が得られている。

- ①日本語に敬語は必要だと思う人は9割を超える。敬語の対人関係調整機能を重視した必要性の認識は高い。
- ②新しい時代にふさわしい敬語は、豊かな表現であることと、簡単で分かりやすいことが期待されている。
- ③敬語を身に付けるためには、家庭のしつけや学校教育で敬語について十分指導することが大切だと考えられている。学校で教えるための、敬語の基準が必要だと思う人は過半数であり、一般の人が敬語を使うための目安が必要だと思う人は半数近い。
- ④敬語の規範意識は大きくゆれている。伝統的な敬語の規範にてらせば、誤用となる言い方も、気にならない人が多くなっている。特に、使い過ぎの誤りである二重尊敬や過剰丁寧については9～7割の人が「気にならない」としている。尊敬語の形式が正しくない言い方や、尊敬語を使うべきところに謙譲語を使う言い方についても8～5割の人が「気にならない」としている。
- ⑤地域や世代などの社会的属性によって規範意識がゆれていて、誤用を「気になる」とする意見に地域差・社会差がみられる。特に、尊敬語を使うべきところで使わない言い方、尊敬語の形式が正しくない言い方で差が大きい。
- ⑥敬語の形式や用法について理解が不十分なために、正誤の判断がゆれている。正しく使われていると思う人が多い誤用に、尊敬語の形式が正しくない言い方、尊敬語を使うべきところに謙譲語を使う言い方、謙譲語の形式が正しくない言い方がある。
- ⑦尊敬語を使うか使わないか、また、どんな形式を使うかは、地域・性・年齢・職業によって差がある。共通語の敬語に限定しても、その使用は地域差・社会差が大きい。共通語の敬語使用の地域差は、方言敬語が多彩に発達した地域であるか、簡素な地域であるかということと相関が高い。

- ⑧敬語の使い過ぎの誤りである二重尊敬「お召し上がりになりますか」「おっしゃられますか」は、東京都区部、政令指定都市、女性 20～40 代、商工サービス業・自由業、事務職、主婦などで比較的多くみられる。
- ⑨謙譲語の使用率は、目上の人と話す改まった場面では高く、一概に衰退の傾向にあるという指摘は当たっていない。
- ⑩謙譲語を使わない言い方は、地域・性・年齢・職業によって差がある。目上の人と話す場面で謙譲語を使わない言い方をするのは、東北、四国、男性 10～20 代、女性 10 代、農林漁業、学生などで比較的多くみられる。
- ⑪「～させていただきます」は、へりくだり過ぎと指摘されることもあるが、気にならない人が 8～9 割であり、許容される傾向にある。
- ⑫「さ入れことば」（「きょうはこれで帰らせてください」など）については、気になる人が 5～3 割であり、「～させていただきます」に比べて許容されていない。
- ⑬形容詞＋丁寧語「です」の形式「寒いです」「寒かったです」は、気にならない人が 9 割近く、許容される傾向にある。しかし、「寒いでした」は気になる人が 8 割近く、許容されていない。
- ⑭形容詞ウ音便形＋丁寧語「ございます」の形式「寒うございます」「寒うございました」については東西の地域差がある。気にならない人の方が多いのは九州・中国・近畿・四国の西日本である。気になる人の方が多いのは北海道・中部・北陸・関東・東北の東日本である。
- ⑮改まった場面で使う自称は、「わたし」がもっとも多く、次いで「わたくし」である。「わたし」は女性により多い。男性でも「自分」や「ぼく」は少ない。「ぼく」は 10 代男性のみ過半数である。
- ⑯改まった場面で使う対称は、「名字＋さん、名字＋さま」が約 4 割、「おたく、おたくさま」が約 2 割、「あなた、あなたさま」が約 2 割、「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名、それらの語＋さん・さま」が約 1 割の順になっている。
- ⑰男性が自分の配偶者のことを他者に言う場合、「家内」が 5 割、「女房」が 4 割の使用率である。
- ⑱女性が自分の配偶者のことを他者に言う場合、「主人」が 7 割以上を占めている。特に 30 代・40 代では 8 割以上の高率である。身内尊敬になる「父さん・お父さん」も 4 割以上の使用率である。
- ⑲職場での敬語使用では、相手の地位も年齢もともに重視される。職場に自分より地位が下で年上の人がいる場合、その人に対して「敬語を使う」が約 6 割、また逆に、自分より地位が上で年下の人がいる場合も、その人に対して「敬語を使う」が約 6 割と共に多い。地位か年齢のどちらかに片寄るところはない。
- ⑳課長に部下が呼び掛けるとき、一番望ましい呼び方は役職名の「課長」と考える人が約 6 割を占める。次が役職名に「さん」を付けた「課長さん」の約 2 割である。

第2節 漢字に関する問い

漢字に関する調査結果は、以下の五点にまとめられる。

- ①漢字や平仮名、片仮名など、ふだん使っている文字についての国民の関心度は高い。
- ②常用漢字に入っていない漢字の印刷文字として、例えば「鷗（辞書と同じ字体）」と「鷗（簡略字体）」のように異なった二つの字体が使われている場合があること（印刷文字の字体の不統一）について、「不統一は望ましくない」という人の方が多い。
- ③異体字に関する印象について、康熙字典体と略字体のどちらを多く見掛けるかは、字種によって異なる。
- ④「破綻」など常用漢字表にない漢字を含む語を「破たん」のように書く、いわゆる「交ぜ書き」は、支持率が高くない。
- ⑤ワープロやパソコンでの文書作成についての意識は、さまざまなものがある。

第3節 国際化時代の日本語に関する問い

国際化時代の日本語に関する問題は、世論調査の結果は、以下のようまとめられる。

- ①「日本語の中の外来語」については、年代に関係なく使用の多さを感じている人が多いが、その受け止め方はさまざまである。今後、使用が増えることについては、賛否と年齢が反比例的な関係にある。また、外来語の意味の理解には、その言葉に対する親密さ、接触度、必要性などが要因としてうかがえる。
- ②「外国人とのコミュニケーションと日本語」については、全体の約4割の人が外国人に話しかけられた経験がある。また、日本語については、日本人に関しては規範的な観点から、外国人に関しては意思疎通重視の観点からとらえる傾向がある。
- ③「国際機関や国際会議などでの日本語使用の推進」については、職種と年齢で差は見られるものの、全体の約4割の人が賛成している。また、賛否いずれも日本人の日本語力と外国語力に関心が高いことが示されている。
- ④「姓名のローマ字表記」については、平成7年度調査では「名姓」、平成10年度調査では「姓名」の回答が多い。ただし、平成7年度調査と平成10年度調査で質問文に違いがあり、単純に比較はできない。

第3章 調査結果の分析

第3章は、6回の調査結果をもとに、この調査研究会議の委員が、領域を分担して、各人の問題意識に基づいた分析を展開したものである。したがって、委員の責任による個人的な見解を含んでいる。

第1節 敬意表現を中心とした言葉遣いに関して

第1項 敬意表現についての留意点

世論調査の項目から敬意表現（狭義の敬語を除く）に関するものを選んで、様々な場で議論されるべき留意点を3点にわたって指摘した。

①丁寧語を中心とする敬意表現の働きについての国民の意識

尊敬語・謙譲語を敬語として認識する割合に比べて丁寧語・美化語を敬語と認識する割合が一般に低い。このことは、話し相手へのあらたまりや丁寧さを言葉の上に表現する機能を持つ敬語以外の敬意表現を議論する上で留意すべきである。

②「上下関係」という概念と敬意表現との関連についての国民の意識

敬語を「上下関係」と結びつけて考える人の割合が高い。従来「上下関係」という用語で概括されてきた様々な社会的関係を「親疎関係」「役割関係」「恩恵の授受関係」などの概念できめ細かくとらえて多面的に議論する必要がある。

③「敬意表現」という概念の範囲についての国民の意識

国語審議会で議論される「敬意表現」は広範囲で多様な言葉遣いに及んでいる。なんらかの範囲設定が必要であろう。世論調査の結果からは、国民が定型的な言葉遣いとしての敬意表現を他より強く意識していることが指摘できる。議論の範囲を画定する上で留意すべきである。

第2項 敬語についての留意点

世論調査の項目から尊敬語・謙譲語・丁寧語といった狭義の敬語に関する項目を選び、多様性の観点から分析を加えて、様々な場で議論されるべき留意点を指摘した。

①敬語および敬意表現の社会的・地域的な多様性をふまえて

敬語に関する項目を多様性の観点から分析すると、世代・性・職業などによる社会差や、敬語簡素地域・首都圏・敬語複雑地域による地域差がみえてくる。敬語使用や規範意識に社会差・地域差がある状況で、それが異なる人どうしが接触した場合、相手に不快感を与えたり、気持ちが行き違ったりして、円滑なコミュニケーションがはかれないおそれがある。特に、次の点については社会差・地域差が大きく、議論の留意点となる。

(a) 謙譲語「あげる」を美化語として使う「うちの子におもちゃを買ってあげたい」は、女性や首都圏に多い。しかし、敬語複雑地域ではこの美化語的用法を不適切とする率がきわめて高く8割前後である。

(b) 尊敬語を使うべきところで「〇〇さん、おりましたら御連絡ください」と言うのは、敬語複雑地域で気になる人が多く約7割である。敬語簡素地域では気にならない人の方が多く約6割である。

(c) 尊敬語を使うべき改まった場面での、尊敬表現の使用実態をみると次のような明確な地域差がある。

敬語簡素地域

- ・「あの本はもう読みましたか」など、尊敬語を使わない形式の比率が高い。

首都圏

- ・尊敬語動詞形式、「お～になる」形式の比率が高い。
- ・二重尊敬「お召しあがりになりますか」などの比率がほかの地域に比べて高い。
- ・尊敬語を使うべきところに謙讓語を使う「申されますか」の比率がほかの地域に比べて高い。

敬語複雑地域

- ・多彩な尊敬表現（「れる・られる」、尊敬語動詞、「お～になる」など）形式がそれぞれに比率が高い。
- ・尊敬語を使わない形式の比率がもっとも低い。

②尊敬表現の場面に応じた運用の指針について

尊敬語についての理解が不十分なために、尊敬語形式の誤用例を、正しく使われていると思う人が7～6割にのぼる。尊敬語の形式については、網羅的な標準の提示が必要と考えられる。また、「尊敬語は、他者の側を高めて言う敬語行動で使われる言葉である」ことの説明が必要と考えられる。

③謙讓表現の場面に応じた運用の指針について

謙讓語は世論調査全体で8～7割と高い使用率であるが、謙讓語の形式についての理解は不十分である。謙讓語形式の語用例を、正しく使われていると思う人が4割以上にのぼる。また、謙讓語を使うべきところで使わない人は、若い世代や敬語簡素地域で6～4割にのぼる。謙讓語の形式については、網羅的な標準の提示が必要と考えられる。また、「謙讓語は、自分の側を控えめに言う敬語行動で使われる言葉である」ことの説明が必要と考えられる。

④丁寧表現の場面に応じた運用の指針について

話し相手に敬意を表す丁寧語は、円滑な人間関係を築くコミュニケーションのための必須の敬語であるが、丁寧語を敬語だとは思わない人が8割以上にのぼる。「丁寧語は話し相手に配慮した敬語行動で使われる敬語である」ことに理解を深める解説が必要と考えられる。また、職域社会ではよく使われている丁寧語についても運用の指針を検討することが必要と考えられる。

⑤敬意表現の教育への提言にあたって

世論調査によれば、敬意表現の教育について学校教育への期待が高い。しかし、これまでの国語科教育では、敬語についても知識として教えることが中心で、人間関係を築く円滑なコミュニケーションのための敬語運用能力の育成については不十分であった。この現状を改善する具体性を備えた提言が必要と考えられる。敬意表現教育の課題や指針を示すだけでなく、コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育を設計し、その学習内容を精選する上で助けとなる具体性である。また、人々の多様化する社会の中での共生と、豊かな言語生活を図るための敬語行動モデルを示すことが必要と考えられる。

第2節 「異体字についての印象」に関して

平成10年度調査Q17「異体字についての印象」の調査項目の回答が、書籍で使用されている字体の使用頻度（以下、凸版頻度調査）と開きが見られる理由について、「麵（旧）－麵（新）」に焦点を絞って4つの側面から検討した。

①世論調査の位置づけ

Q17は「麵（旧）－麵（新）のいずれをより多く見かけると思うか」といった質問である。これは、それぞれの字体に対する「接触印象」を尋ねたものと解釈できる（図1）。

②両字体の量的側面

Q17の「接触印象」に関連する指標として、実際の印刷媒体における新旧字体の「使用頻度」、どちらの字体になじみを感じるかの「なじみ度」、ワープロで漢字を使用する場でどちらの字体を使いたいかの「使用希望」など、さまざまな調査データが存在する。それらを比較すると、数値に差があることが分かる。

③両字体の質的側面

新旧字体が印刷媒体のどのジャンルで採用されているかを一覧表にまとめた（表7）。

④両字体の印象をめぐる説明モデル

Q17の回答は、書籍だけではなく手書き文字を含むカップめんの包装やJIS漢字の字体など、さまざまなジャンルの印刷媒体に影響された個人の接触印象が反映されていると考えられる（図2）。一方、凸版頻度調査は書籍の印刷活字のみを対象としており、この点でQ17の結果と開きが生じたのではないかと考えられる。

第3節 国際化時代の日本語に関して

第1項 外来語の認知度

平成8,9,10年度調査では、それぞれ8つの外来語について、それを見たり聞いたりしたことがあるか、さらにその語の意味が分かるか、という観点からの同様の調査が行なわれている。また、平成10年度調査では、外来語と和語・漢語とではどちらがわかりやすいか、という質問が設けられている。この2点につき分析したところ、次の結果が得られた。

①全体的特徴として、見たり聞いたりする割合やその意味が理解されている割合は、語によりさまざまである。

②年齢や職業といった回答者の属性によって、理解に差がある。

ここで得られた教訓は、国民一般が知るべき事柄については、外来語使用に慎重な配慮が要るということであろう。今後とも、このような外来語関連調査を継続・発展させ、それをもとにして、その時々に応じた適切な判断が求められると思われる。

第2項 日本語とコミュニケーション

言葉と言葉の教育を重視する人は多いが、その基準については否定的な態度を示す人が

多い。言葉と言葉の教育については、特に日本人の日本語と外国語の習得についての問題認識がうかがえる。全体の約 30%強の人が外国人に対する日本語の教育について重要視している一方で、約 60%の人が外国人の日本語力より日本人の日本語力や外国語の力の育成を重視している。また、日本人がコミュニケーションを強く意識してきたことが分かる。回答者の属性により回答に差異が見られるが、外国人が話す日本語については、「意思が通じさえすれば、多少変な日本語でもかまわない」に「そう思う」と答えた人が多く、日本語に対する言語意識が外国人に対しては、コミュニケーション重視の態度が見られる。

日本人の言語の教育とコミュニケーション力の育成について多くの人が関心があることが分かったが、学校教育に依存する態度が見られることに留意する必要がある。

第 3 項 国際化にかかわる言葉意識の年齢特性

平成 4 年度、平成 7 年度、平成 10 年度調査における、日本語や外国語についての意識や姓名のローマ字表記についての意識を尋ねた問いに対する回答から、国際化にかかわる日本人の言葉意識の年齢特性について、次のようなことが読み取れる。

- ①若年層は、国語の将来を考えるに際して外国人も視野に入れ、日本語ができない外国人が日本に来ることに対して寛容であるなど、国際化に関する言葉の問題に開放的で柔軟な態度で臨む傾向を持つ。一方、経験の少なさから来る視野の限定性も指摘できる。
- ②高年層は、日本に来る外国人や国際会議などに対して日本語使用を求め、ローマ字表記であっても日本人の姓名は「姓名」の順に書くべきだとする人の割合が高いなど、外国人や国際社会に日本に合わせることを求める姿勢や、日本人としてのアイデンティティを主張する傾向を示している。その半面、外国人や外国語に対する閉鎖的、消極的な態度も指摘できる。

第 4 節 「多様性」から見た調査結果の分析

調査結果は、調査時の日本で生活する人々の日本語に関する感じ方などについての平均的な回答を表している。しかし、その回答は、回答者の属性による多様性の少ない回答である可能性と、何らかの属性による多様性を持つ回答である可能性がある。後者のような項目を「多様性」のある項目、と呼び、「多様性」という観点から、平成 7 年度調査から平成 10 年度調査の項目を横断的に概観した。概観の結果次のことが指摘できる。

- ①「年齢」と「職業」という属性がもっとも「多様性」に強く関わり、ついで「性」、場合によって「都道府県」「地域」が関わっている。
- ②これらは、地域差に基づく地域方言、年齢差・職業差・性差に基づく社会方言の存在を示したものと見える。
- ③そこから、地域による偏りを示す地域方言的な多様性よりも、「年齢」・「職業」・「性」による偏りを示す社会方言的な多様性をより示していることが推測される。
- ④このことから、「国語に関する世論調査」の調査項目が地域差の少ない「共通語」的な設

間が多いということをお案しても、地域方言から社会方言社会への移行、という実態があるといえるだろう。

3. 各調査の概要

本調査研究で、通覧、分析した、6回の「国語に関する世論調査」の概要は、以下の通りである。

(1) 文化庁文化部国語課による調査

①平成7年度調査

平成7年4月、全国16歳以上の3,000人に対して行われ、2,212人の有効回収を得ている。調査の目的を「国語をめぐる社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の在り方について調査し、今後の施策の参考とする」とし、「言葉遣いについての意識」、「敬語についての意識」、「話し方についての意識」、「外来語・外国語についての意識」「情報機器の発達が国語に及ぼす影響」の5項目にわたって20問(Sub Questionを含めると26問)を設定している。

②平成8年度調査

平成9年1月、全国16歳以上の3,000人に対して行われ、2,240人の有効回収を得ている。調査の目的は平成7年度調査と同じく、「国語をめぐる社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の在り方について調査し、今後の施策の参考とする」としている。「敬語についての意識」、「その他の言葉遣いについての意識」、「外来語の理解度」の3項目にわたって21問を設定している。

③平成9年度調査

平成9年12月、全国16歳以上の3,000人に対して行われ、2,190人の有効回収を得ている。調査の目的は平成7・8年度調査と同じく、「国語をめぐる社会状況の変化に伴う、日本人の国語意識の在り方について調査し、今後の施策の参考とする」としている。「敬語についての意識」、「その他、言葉遣いなどにかかわる意識」、「外来語などの理解度」の3項目にわたって24問(Sub Questionを含めると28問)を設定している。

④平成10年度調査

平成11年1月、全国16歳以上の3,000人に対して行われ、2,200人の有効回収を得ている。調査の目的は平成7・8・9年度調査と同じく、「国語をめぐる社会状況の変化に伴う、

日本人の国語意識の在り方について調査し、今後の施策の参考とする」としている。「敬語や言葉遣いに関すること」、「漢字の字体に関すること」、「外来語の理解度など」の3項目にわたって22問を設定している。

(2) 総理府内閣総理大臣官房広報室による調査

①昭和52年度調査

昭和52年8月、全国20歳以上の10,000人に対して行われ、8,170人の有効回収を得ている。調査の目的を「国民のことばについての意識を主として漢字を中心に調査し、今後の施策の参考とする」とし、「文字に関する関心」、「当用漢字及び人名用漢字」、「新漢字表試案の字種」、「ことばづかい」の4項目にわたって22問（Sub Questionを含めると28問）を設定している。

②平成4年度調査

平成4年6月、全国20歳以上の3,000人に対して行われ、2,284人の有効回収を得ている。調査の目的を「言葉づかいや話し方、文章の書き方等国語についての国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする」とし、「国語についての関心」、「言葉づかいについての意識」「国語の乱れについての意識」「敬語についての意識」「外来語・外国語についての意識」「国語を美しく豊かにするための方策」の6項目8問（Sub Question等を含めると15問）を設定している。

なお、本報告書では、6回の調査を、次のような略称で呼ぶことがある。

文化庁文化語課による調査

平成7年度調査	H7調査	H7
平成8年度調査	H8調査	H8
平成9年度調査	H9調査	H9
平成10年度調査	H10調査	H10

総理府内閣総理大臣官房広報室による調査

昭和52年度調査	S52調査	S52
平成4年度調査	H4調査	H4

第2章 調査結果の概括

第1節 敬意表現を中心とした言葉遣いに関する問い

第1項 言葉遣いに関する項目について

1. 言葉遣いへの留意度と関心

(1) 自分自身の言葉遣いについての留意度は高く、約3分の2の人が「気を使っている」と感じている。

[質問] H4調査Q2：あなたは、日常、あなた自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っていますか。(H9調査Q1も同文)

- ①非常に使っている ②ある程度気を使っている
③あまり気を使っていない ④全く気を使っていない

H4調査Q2 「非常に気を使っている」+「ある程度気を使っている」 70.9%

「余り気を使っていない」+「全く気を使っていない」 28.6%

H9調査Q1 「非常に気を使っている」+「ある程度気を使っている」 67.3%

「余り気を使っていない」+「全く気を使っていない」 32.6%

(2) 日常の言葉遣いに関心があると答えたうち、特に「日常の言葉遣い・話し方」「敬語」についての留意度が高い。

[質問] H4調査Q1：国語のどのような点に関心がありますか。選択肢の中から3つまで挙げて下さい。(回答の多かったものだけ抜粋)

「日常の言葉遣いや話し方」に関心あり 77.4%

「敬語の使い方」 58.5%

他(意味・文字表記・外来語などは各々 20~10%程度)

2. 言葉遣いの乱れについての意識

(1) 言葉が乱れているという意識は、各年度の同趣の質問を通じて、約7割の回答者に認められる。

[質問] S52調査Q17:ところで、最近、いろいろな人のことばづかいが乱れてきているという意見がありますが、あなたはそう思いますか、そんなことはないと思いますか。

(H4調査Q3もほぼ同文)

[質問] H7調査Q2:ここに挙げた(1)から(7)のそれぞれの意見について、あなたはどう思いますか。

「そう思う」か「そう思わない」かでお答えください。

(1)今の言葉は乱れている

S52調査Q17	「乱れていると思う」	69.2%
	「乱れているとは思わない」	21.9%
H4調査Q3	「非常に乱れていると思う」+「ある程度乱れていると思う」	74.7%
	「余り乱れているとは思わない」+「全く乱れているとは思わない」	19.7%
H7調査Q2	「そう思う」	73.6%
	「そう思わない」	19.6%

(2) 言葉遣いの中でも、「話し方」「敬語」「あいさつの言葉」について乱れを感じる人が多く、これらに比べて「発音やアクセント」「手紙や文章の書き方」「語句や慣用句の使い方」「外国語・外来語の使い方」などについて乱れを感じる人は少ない。

[質問] H4調査Q3:では、どのような点で乱れていると思いますか。選択肢の中から3つまで挙げてください。

「話し方」	72.4%
「敬語」	67.3%
「あいさつの言葉」	51.9%

他(新語・流行語、発音、手紙や文章などは各々 20~10%)

3. 言葉遣いの改善についての意識

言葉・国語の改善のために、「正確さ」「正しさ」「論理性」以上に、「相手や場面への配慮」「心のこもった言葉」「分かりやすい言葉遣い」が必要だと意識されている。

[質問] H4調査Q7:あなたは、国語を美しく豊かにするためには、一人一人がどのようなことに心がけたらよいと思いますか。選択肢の中から3つまで挙げて下さい。

(H7 調査Q1 もほぼ同文)

[過半数に選ばれた選択肢 (各年度複数選択)]

「相手や場面にふさわしい言葉遣いへの心がけ」	H4 Q7	56.7%
「相手や場面にふさわしい敬語への心がけ」	H7 Q1	59.8%
「心のこもった言葉への心がけ」	H7 Q1	59.7%
「平易で分かりやすい言葉への心がけ」	H7 Q1	54.5%

[選択された割合が比較的少なかった (3分の1程度以下の) 選択肢]

「正しい発声や発音」	H4 Q7	34.6%
「明瞭な発音, 適当な速度での話」	H7 Q1	34.2%
「正確な文章を書く力」	H4 Q7	30.6%
「漢字の読み書き能力」	H4 Q7	23.1%
「文字を正しく書く能力」	H4 Q7	18.8%
「論理的な話し方を身に付ける」	H4 Q7	14.4%
「ワープロなどの情報機器を使う能力」	H4 Q7	2.8%

4. 国・社会・家庭・マスコミ等の役割

国語の将来について国の果たすべき役割として、言葉遣いの基準の提示、学校教育・社会教育の充実、国語意識の涵養などが期待されている。また、家庭・社会・マスコミなどの果たすべき役割も期待されている。

[質問] H4 調査Q8 : あなたは、国語の将来を考えると、国や社会に対してどのようなことを望みますか。選択肢の中から3つまで挙げて下さい。

[質問] H7 調査Q2 : ここに挙げた(1)から(7)のそれぞれの意見について、あなたはどう思いますか。

「そう思う」か「そう思わない」かでお答えください。

	H4 Q8 (選択)	H7 Q2 (「そう思う」)
・学校教育・社会教育		
「学校での国語教育の充実」	44.6%	65.6%
「家庭・社会での言語教育の充実」	40.6%	
・基準・標準の提示と普及		
「言葉遣いについての標準を示し普及啓発する」	37.3%	46.5%
「文字や表記の標準を示し普及啓発する」	14.4%	
「発音・アクセントの標準を示し普及啓発する」	12.6%	
・国語意識の啓発		
「言葉の大切さについての啓発」	27.0%	67.8%
「国語の正しさや美しさの保持」		71.5%

「国語の伝統を大切にし、保存継承する」	32.8%
・マスコミの重要性	
「新聞や放送の影響を自覚すること」	88.4%

○なお、これらの積極的な役割を期待する意見と対比的な意見も次のように見られる。

H7 調査Q2	「そう思う」	「そうは思わない」
「言葉は時代とともに変わるものであり、 自然に任せた方がよい」	38.7%	48.6%
「国が言葉遣いについてゆるやかな基準を示す ことが必要だ」	46.5%	40.2%

5. 個別的な問題点

(1) [ら抜き言葉]

「見られる」（可能）を「見れる」, 「食べられない」（不可能）を「食べれない」などという言い方が気になるかどうかは、意見が分かれる。

[質問] H7 調査Q4: 例えば, 「見ることができる」という意味の「見られる」を「見れる」と言ったり, 「食べることができない」という意味の「食べられない」を「食べれない」と言ったりするような言い方があります。あなたは, このような言い方が気になりますか。この中ではどうでしょうか。

「非常に気になる」	10.1%
「ある程度気になる」	30.0%
「あまり気にならない」	47.0%
「まったく気にならない」	10.9%

○なお、この言い方を自分自身が言うかどうかは、当該の動詞によって変わる。

[質問] H7 調査Q10: (1) ~ (6) それぞれに挙げた二つの言い方のうち、あなたがふつう使うものはどちらですか。（[ら抜き言葉の例だけ抜粋]）

「食べられない」	67.3%	「食べれない」	27.2%
「来られますか」	58.8%	「来れますか」	33.8%
「考えられない」	88.8%	「考えれない」	6.7%

(2) [言葉の男女差]

言葉の男女差の存在は約4割の回答者に肯定的に受け入れられている。その一方で、

男女差のなくなるのはやむを得ないとする意見も同程度ある。

また、話し相手が異性である場合のほうが、同性である場合より言葉遣いが丁寧になると意識されている。

[質問] H7 調査Q7：男女の言葉遣いに違いがなくなってきたと言われますが、このことについて、あなたのお考えに最も近いものを一つ選んでください。

- | | |
|-------------------|-------|
| 「違いがある方がよい」 | 44.1% |
| 「自然の流れであり、やむをえない」 | 41.2% |
| 「違いがない方がよい」 | 9.8% |

[質問] H9 調査Q10：あなたは、相手が自分と同じ性（つまり男性）／（つまり女性）であるか違う性（つまり女性）／（つまり男性）であるかによって、自分の言葉遣いの丁寧さが変わると思えますか。それとも、そうは思いませんか。この中から選んでください。【調査員注：質問文は、男性か女性かによって読み方を変える】

- | | |
|------------|-------|
| 「変わらないと思う」 | 56.2% |
| 「変わると思う」 | 34.6% |

[質問] H9 調査Q10SQ：（Q10で「変わると思う」と回答した人に）それでは、あなたは、自分の言葉遣いの丁寧さがどう変わると思えますか。

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 「同性と話すときの方が、異性と話すときより丁寧な言葉遣いになると思う」 | 14.6% |
| 「異性と話すときの方が、同性と話すときより丁寧な言葉遣いになると思う」 | 80.5% |

(3) [方言と共通語の使い分け]

方言と共通語は相手や場面により使い分ければよいと意識する人が多数である。

[質問] H7 調査Q3：共通語と方言について、あなたのお考えはどちらに近いですか。

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 「相手や場面によって使い分ければよい」 | 75.1% |
| 「基本的には共通語を使い、方言はできるだけ使わない方がよい」 | 17.9% |

第2項 敬語および敬意表現に関する項目

1. 敬語および敬語使用の必要性

- (1) 日本語に敬語は必要だと思う人は9割を超える。敬語の対人関係調整・融和機能を重視した必要性の認識は高い。

[質問] H4 調査Q5 : あなたは、今後とも国語に敬語は必要だと思いますか。この中ではどうでしょうか。

「必要だと思う」 + 「ある程度必要だと思う」 93.7%

「あまり必要だと思わない」 + 「必要だと思わない」 3.7%

[質問] H4 調査Q5 S : では、敬語が必要だと思うのはどのような理由からでしょうか。

「相手を尊敬する気持ちを表せるから」 68.4%

「相手と自分の立場をはっきりさせて、けじめをつけることができるから」 50.1%

「表現がやわらかく、人間関係を円滑にすることができるから」 45.9%

- (2) 敬語を使って話す相手として、立場や年齢で上位にある相手だけでなく、尊敬の念を表したい相手や、対人関係の距離がある相手も意識されている。

[質問] H8 調査Q16 : あなたが敬語を使うのは、どんなときですか。

「目上の人と話すとき」 86.0%

「年上の人と話すとき」 79.2%

「尊敬する人と話すとき」 69.7%

「知らない人と話すとき」 57.7%

- (3) 敬語使用において、必ずしも上下関係だけが重視されるわけではない。さまざまな対人関係場面で円滑なコミュニケーションをはかるために必要と意識されている。

[質問] H7 調査Q6 : ここに挙げた敬語に関する(1)から(4)の意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。

(4)年下の人にも場合によっては敬語を使う方がよい

「そう思う」 71.4%

「そうは思わない」 21.0%

[質問] H9 調査Q5 : aにとってbは敬語を使って話すべきだと思いますか。それとも、そうは思いませんか。

(「敬語を使って話すべき相手だと思う」の回答の多かったもののみ抜粋)

a. 学生・生徒	→	b. 教師	83.7%
a. 店の人	→	b. 店の客	75.9%
a. ものを頼む立場の人	→	b. ものを頼まれる立場の人	75.8%
a. 患者	→	b. 医師	74.7%
a. 年下の人	→	b. 年上の人	68.5%

2. 新しい時代にふさわしい敬語

(1) 新しい時代にふさわしい敬語は、豊かな表現であることと、簡単で分かりやすいことが期待されている。

[質問] H9 調査Q21: あなたは、これからの時代の敬語はどうあるべきだと思いますか。ここに挙げた(1)と(2)について、あなたの考えが(a)と(b)のどちらに近いかをお答えください。

(1) (a) 「敬語は美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」	46.9%
(b) 「敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」	41.4%

(2) 新しい時代にふさわしい敬語を考えていくべきだという意見の方が、伝統的な言い方をできるだけ守っていくべきだという意見に勝っている。

[質問] H9 調査Q21: (同上)

(2) (a) 「新しい時代にふさわしい敬語を考えていくべきだ」	48.1%
(b) 「敬語は伝統的な言い方をできるだけ守っていくべきだ」	33.5%

3. 場面による敬語の使い分け

(1) 公的な場面で敬語を使って話す相手には、プライベートな場面であっても敬語を使うべきと意識されており、ときには無礼講もよいとする意見は少数派である。

[質問] H9 調査Q7: 会社に勤めている人が、上司である課長に対して、次の場面で敬語を使って話すべきだと思いますか。それとも、そうは思いませんか。

	敬語を使って話すべきだと思う	敬語を使って話す必要はないと思う
・「会社での工作中」	85.9%	5.8%
・「社員旅行に行つて、他の社員もいる部屋で話すとき」	52.6%	19.2%
・「仕事の後、二人で飲みに行った酒場で話すとき」	36.2%	29.5%
・「買い物先の店で出会ったとき」	57.2%	18.6%

(2) 親しい友人には、よほど公的な場面でないかぎり、ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと考えられている。同じ相手に対して、場面によって極端な使い分けをすることは好まれていない。

[質問] H9 調査Q8：近所の小売店に、店員の親しい友人が買物に来たとき、店員は敬語を使ってその人と話すべきだと思いますか。それとも、ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思いますか。

「敬語を使って話すべきだと思う」	23.0%
「ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思う」	65.5%

[質問] H9 調査Q9：デパートに、店員の親しい友人が買物に来たとき、店員は敬語を使ってその人と話すべきだと思いますか。それとも、ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思いますか。

「敬語を使って話すべきだと思う」	43.7%
「ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思う」	44.0%

4. 敬語習得の機会と敬語教育

(1) 敬語を習得する機会として過半数の人があげているのは、学校の国語の授業、家庭でのしつけ、職場の研修の三つである。

[質問] H8 調査Q17：あなたは、今まで敬語をどのような機会に身に付けてきたと思いますか。この中から幾つでも選んでください。(回答の多いもののみ抜粋)

「学校の国語の授業」	54.6%
「家庭でのしつけ」	54.5%
「職場の研修」	51.4%

(2) 敬語を身に付けるためには、家庭でのしつけや、学校で敬語について十分指導することが大切だと考えられている。また、学校で教えるための、敬語の基準が必要だと思う人は過半数であり、一般の人が敬語を使うための目安が必要だと思う人は半数近い。

[質問] H8 調査Q18：あなたは、ここに挙げた(1)から(4)の意見について、そう思いますか、それともそうは思いませんか。(「そう思う」の回答)

(2) 「敬語は、家庭でのしつけが大切だ」	84.4%
(1) 「学校で敬語について十分指導することが大切だ」	77.2%
(3) 「学校で教えるための、敬語の基準が必要だ」	54.1%
(4) 「一般の人が敬語を使うための、敬語の目安が必要だ」	45.0%

5. 敬語意識および規範意識のゆれ

- (1) 敬語は上下関係において使うものと狭く限定した意識を持つ人が多く、尊敬語の命令形、丁寧語、美化語、ことわりや前置きなどを敬語だとは思わない人が9～7割にのぼる。これら対等な関係でも相手の気持ちに配慮して使う敬語や敬意表現は、敬語とは意識されていない。

[質問] H8 調査Q15: だれかを尊敬したり、自分が謙遜したり、ものごとを丁寧に言ったりするときに使う言葉を敬語と言います。あなたは、ここに挙げる(1)から(10)の下線部分が敬語だと思いますか、それとも敬語だとは思いませんか。

(「敬語だとは思わない」回答が多いもののみ抜粋)

(7) 「そこに座りなさい」 (尊敬語の命令形)	93.0%
(1) 「私は野菜を食べます」 (丁寧語)	85.3%
(9) 「 <u>すまないが</u> 、その鉛筆を取ってくれないか」 (ことわり)	85.0%
(3) 「 <u>お茶を飲みましょう</u> 」 (美化語)	72.7%

- (2) 敬語の規範意識は大きくゆれている。伝統的な敬語の規範にてらせば、誤用となる言い方も、気にならない人が多くなっている。特に、使い過ぎの誤りである二重尊敬や過剰丁寧については9～7割の人が「気にならない」としている。尊敬語の形式が正しくない言い方や、尊敬語を使うべきところに謙譲語を使う言い方についても8～5割の人が「気にならない」としている。

[質問] H7 調査Q11: ここに挙げた(1)から(11)の文中の下線の部分の言い方は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。

(「気にならない」の回答が多いもののみ抜粋)

(9) 「どうぞ <u>おめしあがり</u> ください」 (二重尊敬)	85.4%
(6) 「お客様は <u>お帰り</u> になりました」 (二重尊敬)	73.2%
(7) 「先生が <u>おっしゃ</u> られたように」 (二重尊敬)	71.9%
(3) 「 <u>とんでも</u> ございません」 (過剰丁寧)	78.7%
(10) 「足元にお <u>気</u> をつけてください」 (尊敬語形式の誤り)	80.5%
(5) 「3時に <u>御</u> 出発される予定です」 (尊敬語形式の誤り)	60.8%
(2) 「お客様が <u>申</u> されました」 (謙譲語「申す」+尊敬語「れる」)	54.2%

- (3) 地域や世代などの社会的属性によって規範意識がゆれていて、誤用を「気になる」とする意見に地域差・社会差がみられる。特に、尊敬語を使うべきところで使わず丁寧語だけで済ませる言い方、尊敬語の形式が正しくない言い方で差が大きい。

[質問] H7 調査Q11:ここに挙げた(1)から(11)の文中の下線の部分の言い方は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。

(地域差・社会差の大きいもののみ抜粋)

(4)「〇〇さん、おりましたら御連絡ください」(尊敬語の不使用)

【「気になる」が7割以上の地域ブロック】

近畿(70.6%)、中国(72.3%)、九州(71.3%)

(1)「先生、こちらでお待ちしてください」(尊敬語形式の誤用)

【「気になる」が6割以上の性・世代】

男性 20代(63.6%)、30代(60.0%)

女性 10代(60.3%)、30代(70.7%)、40代(67.3%)

(4) 敬語の形式や用法について理解が不十分なために、正誤の判断がゆれている。正しく使われていると思う人が多い誤用に、尊敬語の形式が正しくない言い方、尊敬語を使うべきところに謙譲語を使う言い方、謙譲語の形式が正しくない言い方がある。

[質問] H9 調査Q17:ここに挙げた(1)から(8)の下線部分では、敬語が正しく使われていると思いますか。それとも、正しく使われていないと思いますか。

(「正しく使われていると思う」の回答が多いもののみ抜粋)

(3)「中村さんがお話しされたように」 72.6%

(尊敬語の形式の誤り。正しくは「お話しになった」「お話しなされた」)

(7)「この電車には御乗車できません」 63.2%

(尊敬語の形式の誤り。正しくは「御乗車になれません」)

(5)「会長が申されたことに」 56.7%

(尊敬語を使うべきところに謙譲語を使う誤り。正しくは「おっしゃった」「言われた」)

(4)「(高校生が担任の先生に)あす父がまいります、

お目に掛かっていただけませんか」 42.4%

(謙譲語の形式の誤り。正しくは「お会いいただけませんか」「会っていただけませんか」)

6. 尊敬語の使用における地域差・社会差

- (1) 尊敬語を使うか使わないか、また、どんな形式を使うかは、地域・性・年齢・職業によって差がある。共通語の敬語に限定した選択においても、その使用は地域差・社会差が大きい。共通語の敬語使用の地域差は、方言敬語が多彩に発達した地域であるか、簡素な地域であるかということと相関が高い。

[質問] H8調査Q9：目上の人にここに挙げた(1)から(5)のことを聞くと、下線部分について、あなたはどの言い方をしますか。言うと思うものを幾つでも選んでください。

- (1) 「テレビを見るか」ということについては、どうでしょうか。

[5割程度以上の使用率がみられる属性]

- ・「見ますか」（尊敬語を使わない言い方）

【地域】 東北（49.7%）

【性・年齢】 男性・10代（60.3%）

【職業】 農林漁業（50.0%）

- ・「見られますか」（尊敬語「られる」形式を使う言い方）

【地域】 近畿（47.0%）、中国（56.6%）、四国（55.9%）、九州（46.4%）

【性・年齢】 男性・60代（50.0%）

- ・「御覧になりますか」（尊敬語動詞形式を使う言い方）

【地域】 関東（57.8%）、中部（45.9%）、九州（45.3%）

【都市規模】 東京都区部（68.6%）、政令指定都市（52.6%）、
中都市人口10万以上（48.3%）

【性・年齢】 男性・30代（47.5%）、40代（48.8%）

女性・10代（46.2%）、20代（60.1%）、30代（64.4%）、
40代（48.7%）、50代（51.7%）、60代（45.8%）

【職業】 商工サービス業・自由業（47.3%）、管理・専門技術職（50.4%）、
事務職（54.8%）、主婦（54.4%）

- (2) 敬語の使い過ぎの誤りである二重尊敬「お召し上がりになりますか」「おっしゃられますか」は、東京都区部、政令指定都市、女性20～40代、商工サービス業・自由業、事務職、主婦などで比較的多くみられる。

[質問] H8調査Q9：目上の人にここに挙げた(1)から(5)のことを聞くと、下線部分について、あなたはどの言い方をしますか。言うと思うものを幾つでも選んでください。

- (3) 「今すぐ食べるか」ということについては、どうでしょうか。

「お召し上がりになりますか」（「お～になる」＋「召し上がる」）

[3割程度以上の使用率がみられる属性]

【地域】 北海道 (30.0%) , 関東 (29.1%) , 中国 (31.5%)

【都市規模】 東京都区部 (34.3%) , 政令指定都市 (34.3%)

【性・年齢】 女性・20代 (38.3%) , 30代 (44.1%) , 40代 (31.8%) ,
50代 (29.2%)

【職業】 商工サービス業・自由業 (36.5%) , 事務職 (30.6%) , 主婦 (30.8%)

(5) 「あしたの会議で意見を言うか」ということについては、どうでしょうか。

「おっしゃられますか」 (「おっしゃる」 + 「れる」)

[2割程度以上の使用率がみられる属性]

【地域】 関東 (18.8%) , 北陸 (17.5%)

【都市規模】 東京都区部 (18.6%) , 政令指定都市 (20.9%)

【性・年齢】 男性・30代 (19.4%) , 40代 (17.9%)

女性・20代 (26.8%) , 30代 (23.4%) , 40代 (17.2%)

【職業】 商工サービス業・自由業 (17.6%) , 管理・専門技術職 (20.1%) ,
事務職 (21.7%)

7. 謙譲語の使用および規範意識

(1) 謙譲語の使用率は、目上の人と話す改まった場面では高く、一概に衰退の傾向にあるという指摘は当たっていない。

[質問] H8調査Q10: それでは、目上の人にここに挙げた(1)から(3)のことを言うとき、下線部分について、あなたはどの言い方をしますか。言うと思うものを幾つでも選んでください。

(2) 目上の人に面と向かって「話を聞きたいと思う」と言うときの言い方

「お聞きしたい」 45.7%

「お伺いしたい」 33.5%

「伺いたい」 30.0%

「承りたい」 7.1%

[謙譲語を使わない] 「聞きたい」 15.0%

(3) 「その目上の人に言いたいことがある」ということについては、どうでしょうか。

「申し上げたい」 63.7%

「申したい」 15.8%

[謙譲語を使わない] 「言いたい」 26.8%

- (2) 謙讓語を使わない言い方は、地域・性・年齢・職業によって差がある。目上の人と話す場面で謙讓語を使わない言い方（「聞きたい」「言いたい」）をするのは、東北、四国、男性10～20代、女性10代、農林漁業、学生などで比較的多くみられる。

【質問】H8調査Q10：（同上）

- (2) 「その目上の人のお話を聞きたいと思う」ということについては、どうでしょうか。」

「聞きたい」 [3割以上の使用率がみられる属性]

【地域】 東北（31.8%）

【性・年齢】 男性・10代（39.7%）

【職業】 自営農林漁業（32.8%）

- (3) 「その目上の人のお話に言いたいことがある」ということについては、どうでしょうか。」

「言いたい」 [4割以上の使用率がみられる属性]

【地域】 東北（41.6%）、四国（50.0%）

【性・年齢】 男性・10代（63.8%）、20代（40.7%）

女性・10代（43.1%）

【職業】 自営農林漁業（48.3%）、従業農林漁業（43.8%）、学生（46.4%）

- (3) 「～させていただきます」は、へりくだり過ぎと指摘されることもあるが、気にならない人が8～9割であり、許容される傾向にある。

【質問】H8調査Q2：ここに挙げた(1)から(8)の文中の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。（「気にならない」の回答）

((1)～(4)が、「させていただきます」の例)

- | | |
|----------------------------------|-------|
| (1) 「（電車の車内放送で）ドアを閉めさせていただきます」 | 78.1% |
| (2) 「（会議で司会者が）これで会議を終了させていただきます」 | 89.3% |
| (3) 「（店の張り紙で）明日は休業させていただきます」 | 91.6% |
| (4) 「（店で店員が）この商品は、値引きさせていただきます」 | 78.5% |

- (4) 「さ入れことば」については、気になる人が5～3割であり、「～させていただきます」に比べて許容されていない。

【質問】H8調査Q3：ここに挙げた(1)から(3)の文中の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。（「気にならない」の回答）

- | | |
|-------------------------|-------|
| (1) 「あしたは休まさせていただきます」 | 64.6% |
| (2) 「きょうはこれで帰らせていただきます」 | 50.0% |
| (3) 「担当の者を伺わさせます」 | 58.7% |

8. 丁寧語の規範意識

- (1) 形容詞+丁寧語「です」の形式「寒いです」「寒かったです」は、気にならない人が9割近く、許容される傾向にある。しかし、「寒いでした」は気になる人が8割近く、許容されていない。

[質問] H8調査Q13:ここに挙げた(1)から(5)の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。(「です」の言い方のみ抜粋)

	「気になる」	「気にならない」
(1)きょうは <u>寒い</u> です	9.9%	88.6%
(4)きのうは <u>寒かった</u> です	9.1%	89.1%
(3)きのうは <u>寒い</u> でした	77.0%	20.6%

- (2) 形容詞ウ音便形+丁寧語「ございます」の形式「寒うございます」「寒うございました」については東西の地域差がある。気にならない人の方が多いのは九州・中国・近畿・四国の西日本である。気になる人の方が多いのは北海道・中部・北陸・関東・東北の東日本である。

[質問] H8調査Q13:ここに挙げた(1)から(5)の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。(「ございます」の言い方のみ抜粋)

- (2)「きょうは寒うございます」

「気にならない」九州(63.9%)、中国(55.9%)、近畿(53.6%)、四国(51.5%)

「気になる」北海道(60.0%)、中部(54.4%)、北陸(50.5%)、
関東(47.9%)、東北(43.4%)

- (5)「きのうは寒うございました」

「気にならない」九州(66.1%)、中国(59.4%)、近畿(52.7%)、
四国(50.0%)

「気になる」北海道(59.0%)、北陸(50.5%)、中部(49.7%)、
東北(42.2%)、関東(41.5%)

9. 呼称・敬称の使用および規範意識

- (1) あらたまった場面で使う自称は、「わたし」がもっとも多く、次いで「わたくし」である。「わたし」は女性がよく使う。男性でも「自分」や「ぼく」は少ない。「ぼく」は10代男性のみ過半数である。

【質問】 H7 調査Q8：あなたは、あらたまった場でそれほど親しくない相手に自分のことを言うとき、どんな言葉を使いますか。この中で、あなたが最も多く使うものを一つ選んでください。

	【全体】	【性・年齢】
「わたし」	58.0%	女性(72.3%)、男性(41.2%)
「わたくし」	20.3%	女性(22.4%)、男性(17.8%)
「自分」	9.2%	男性(18.0%)
「ぼく」	5.7%	男性(12.3%)・10代(54.4%)・20代(22.5%)

(2) あらたまった場面で使う対称は、「名字+さん、名字+さま」が約4割、「おたく、おたくさま」が約2割、「あなた、あなたさま」が約2割、「役職名・職業名・相手の所属する組織団体名、それらの語+さん・さま」が約1割の順になっている。「名字+さん、名字+さま」は男女とも10代～20代の若い世代で5割前後の使用率である。

【質問】 H7 調査Q9：あなたは、あらたまった場でそれほど親しくない相手のことを言うとき、どんな言葉を使いますか。この中で、あなたが最も多く使うものをひとつ選んでください。

	【全体】	【性・年齢】
名字+さん, 名字+さま	37.7%	男性10代(55.9%) 男性20代(46.5%) 女性10代(50.8%) 女性20代(51.4%)
おたく, おたくさま	21.8%	
あなた, あなたさま	18.5%	
役職名・職業名・相手の 所属する組織団体名(課 長・先生・〇〇銀行等)	10.4%	

(3) 小中学校の先生が生徒を呼ぶとき、男子には「名字+くん」、女子には「名字+さん」が一番望ましいと考える人が5割を超える。男子と女子を区別することなく「名字+さん」で呼ぶことや、「名字を呼び捨て」にすることを望ましいとする意見は1割前後と少ない。

【質問】 H8 調査Q6：小学校や中学校の生徒に、先生が名字で呼び掛けるとき、どういう呼び方をするのが一番望ましいと思いますか。この中から選んでください。

男子には名字に「くん」、女子には「さん」を付ける	52.6%
男子にも女子にも名字に「さん」を付ける	15.4%
男子、女子とも名字を呼び捨てにする	6.1%

- (4) 生徒どうしの呼び方については、男子が呼び掛ける場合も、女子が呼び掛ける場合ともに、男子には「名字+くん」、女子には「名字+さん」が7割前後を占めて一番望ましいと考えられている。

〔質問〕 H8 調査 Q7：小学校や中学校の生徒同士が、名字に「さん」や「くん」を付けて呼び合う場合、どういう呼び方をするのが一番望ましいと思いますか。

男子には名字に「くん」、女子には「さん」を付ける 72.9%

- (5) 男性が自分の配偶者のことを他者に言う場合、「家内」が5割、「女房」が4割の使用率である。女性が自分の配偶者のことを他者に言う場合、「主人」が7割以上を占めている。特に30代・40代では8割以上の高率である。身内尊敬になる「父さん・お父さん」も4割以上の使用率である。

〔質問〕 H10 調査 Q10：（男性に対して）あなたは、家族以外の人と話しているとき、あなたの配偶者（結婚相手）のことを、どう言い表しますか。ここに挙げた（ア）から（テ）の中から、あなたが使うと思う言い方を幾つでも挙げてください。（回答が多いもののみ抜粋）

「家内」…51.5%、「女房」…37.5%、「うちの」…25.3%、「名前」…24.1%、
「つま」…22.9%、「うちのやつ」…22.4% …北海道（55.3%）

〔質問〕 H10 調査 Q11：（女性に対して）あなたは、家族以外の人と話しているとき、あなたの配偶者（結婚相手）のことを、どう言い表しますか。ここに挙げた（ア）から（テ）の中から、あなたが使うと思う言い方を幾つでも挙げてください。

「主人」…74.6% …30代（82.1%）・40代（84.6%）、
「父さん・お父さん」…43.7%、「うちの人」…23.1%、「だんな」…22.2%、
「名前」…16.3%、「おっと」…14.3%

10. 職場の敬語

(1) 職場の序列意識と敬語使用

- (a) 自分の職場では、職場の地位による序列意識が「強いと思う」人は約4割、「弱いと思う」人も約4割と比率が同じである。「強いと思う」人が過半数に達するのは東北である。「弱いと思う」が過半数に達するのは北海道、および10代男性、30代男性、10代女性である。（H9調査Q11SQ1）

[質問] H9 調査Q11SQ1：あなたの職場では、地位による序列の意識が強いと思いますか。それとも、弱いと思いますか。

	【全体】	【地域】	【性・年齢】
「強いと思う」	41.7%	東北 52.9%	
「弱いと思う」	41.9%	北海道 51.1%	男性 10代 50.0% 30代 53.9% 女性 10代 50.0%

(b) 地位も年齢もともに重視した敬語使用が職場の常識となっている。職場に自分より地位が下で年上の人がいる場合、その人に対して「敬語を使う」が約6割、また逆に、自分より地位が上で年下の人がいる場合も、その人に対して「敬語を使う」が約6割と共に多い。地位か年齢のどちらかに片寄るところはない。

[質問] H9 調査Q11SQ2：あなたは、職場に自分よりも地位が下で年上の人がいる場合、その人に対して敬語を使いますか。この中から選んでください。

「敬語を使う」 61.9% 「敬語を使わない」 21.4%

[質問] H9 調査Q11SQ3：あなたは、職場に自分よりも地位が上で年下の人がいる場合、その人に対して敬語を使いますか。この中から選んでください。

「敬語を使う」 62.5% 「敬語を使わない」 19.0%

(2) 職場での望ましい尊敬語・謙譲語

(a) 課長に部下が呼び掛けるとき、一番望ましい呼び方は役職名の「課長」と考える人が約6割を占める。次が役職名に「さん」を付けた「課長さん」の約2割である。

[質問] H8 調査Q11：会社の課長に部下が呼び掛けるとき、どの呼び方が一番望ましいと思いますか。

「課長」 59.7% 「課長さん」 27.2%

(b) 会社で部長に対して、自分の上司である課長が、今、部屋にいないということを、社員が言う場合、「課長は今おりません」と課長を身内扱いして謙譲語を使うのが一番望ましいと思う人が約5割である。尊敬語を使う「課長は今いらっしゃいません」や、「課長は今おいでになりません」は約2～1割と低い支持率で、あまり望ましいとは考えられていない。

[質問] H8 調査Q12：会社で部長に対して、自分の上司である課長が、今、部屋にいないということを、社員が言うとしたら、どう言うのが一番望ましいと思いますか。

「課長は今おりません」	48.0%
「課長は今いらっしゃいません」	24.2%
「課長は今おいでになりません」	13.1%

第2節 漢字に関する問い

1. 文字への関心

(1) 文字への関心度は、高まりつつあるように見える。

[質問] H10 調査 Q12: あなたは、漢字や平仮名、片仮名など、ふだん使っている文字について、どの程度関心を持っていますか。この中から選んでください。

「非常に関心を持っている」 + 「ある程度関心を持っている」	65.8%
「余り関心を持っていない」 + 「全く関心を持っていない」	33.6%

[質問] S52 調査 Q4: あなたは、漢字やひらがな・かたかななど、ふだん使っている文字について、どの程度の関心をお持ちですか。この中ではどうでしょうか。

「非常に関心を持っている」 + 「ある程度関心を持っている」	29.9%
「あまり関心を持っていない」 + 「全く関心を持っていない」	70.2%

H10 調査において、無関心派（「余り関心を持っていない」と「全く関心を持っていない」を併せた層）はS52 調査の半数以下に減少し、3割程度になった。一方、「非常に関心を持っている」は12.5%、「ある程度関心を持っている」が53.3%と大きく増加した。

選択肢のうちS52 調査では「かなり関心を持っている」という箇所がH10 調査では「ある程度関心を持っている」と表現に微妙な違いがあるため、経年変化について明確な結論を導くことはできないが、「非常に関心を持っている」と回答した人が増えていることから、ふだん使っている文字への国民の関心が高まりつつあるといえよう。

(2) 「漢字は大切で便利な文字」という意見が7割を占める。

[質問] H10 調査 Q13: あなたは、漢字についてどのような意識を持っていますか。この中から、当てはまるものがあれば、幾つでも選んでください。

[過半数に選ばれた選択肢]

「日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である」	72.8%
「漢字を見るとすぐに意味が分かるので便利である」	61.7%
「ワープロなどがあっても、漢字学習はしっかりとやるべきである」	52.0%

[選択された割合が1割程度以下にとどまった選択肢]

「日本語の表記を難しくしている文字である」	12.2%
「漢字の使い方についてはかなり自信がある」	11.9%
「ワープロなどがあるので、これからは漢字を書く必要は少なくなる」	9.3%
「漢字を覚えるのは大変なので、なるべく使わない方がよい」	3.7%

漢字は大切な文字であり、電子メディアが普及しても漢字学習はしっかりとやるべきだ

という、漢字に対して肯定的なイメージが定着している。

漢字はなるべく使わない方がよいとか、将来は漢字を書く必要がなくなるという人は、1割にも満たない少数派である。

2. 印刷文字の字体

常用漢字に入っていない漢字の印刷文字として、例えば「鷗（辞書と同じ字体）」と「鷗（簡略字体）」のように異なった二つの字体が使われていることがあること（印刷文字の字体の不統一）について、「不統一は望ましくない」という人の方が多い。

(1) ワープロでの印字・表示については、「鷗」のような簡略化された字体を容認するか否かで意見が半々に割れている。

[質問] H7 調査 Q20：ここに挙げた漢字についてお尋ねします。これらはいずれも「常用漢字表」に入っていないものですが、ワープロを使って文書を作成（印刷）する場合、Aのような形をした漢字が出てくることがあります。これらはBのような辞書に用いられている形とは違っています。あなたは、このことについてどう思いますか。

A：鷗 B：鷗 A：摺 B：摺 A：麵 B：麵 A：黙禱 B：黙禱

「ワープロからAのような形の漢字が出てくることはかまわない」 42.0%

「ワープロからもBのような辞書に用いられているものと同じ形の漢字が出てくる方がよい」 41.3%

(2) 印刷文字の字体の不統一については、統一を望む意見が多い。

[質問] H10 調査 Q16：常用漢字表（一般社会における漢字使用の目安）に入っていない漢字には、これまで標準の字体が決められていませんでした。そのために、「かもめ」に対して「鷗」と「鷗」，「ほうとく」の「とく」に対して「冒瀆」と「冒漑」のように、一部の漢字に異なった二つの字体が使われています。このような印刷文字の字体の不統一について、あなたはどのように思いますか。

「不統一は望ましくない」 49.8%

「不統一でも構わない」 39.4%

「分からない」 10.8%

3. 異体字に関する印象

異体字に関する印象について、康熙字典体と略字体のどちらを多く見掛けるかは、字種によって異なる。

12組の異体字（いずれも常用漢字表に入っていない漢字）について、どちらの字体を見掛けることが多いと思うかの印象を尋ねた結果は以下のものであった。

(a)はいわゆる康熙字典体であり、(b)は手書き字体などに見られる略字体である。

〔質問〕 H10 調査 Q17：この中の(1)から(12)の漢字について、あなたは、ふだん、(a)と(b)のどちらの形を見掛けることが多いと思いますか。

「うさぎ」(a. 兔/b. 兎)	3.2% : 92.2%
「だえん」(a. 楢円/b. 楢円)	6.6% : 77.8%
「めん」(a. 麵/b. 麵)	24.5% : 61.8%
「あふ」(a. 溢/b. 溢)れる	24.5% : 59.8%
み「そ」(a. 味噌/b. 味噌)	57.3% : 31.6%
ぼう「とく」(a. 冒瀆/b. 冒瀆)	35.0% : 34.3%
「へそ」(a. 臍/b. 臍)	40.7% : 30.6%
「あめ」(a. 飴/b. 飴)	28.5% : 54.3%
「きゅう」しゃ (a. 廐舎/b. 廐舎)	7.2% : 69.3%
き「とう」(a. 祈禱/b. 祈禱)	40.3% : 41.7%
さか「だる」(a. 酒樽/b. 酒樽)	47.9% : 35.0%
「う」かい (a. 迂回/b. 迂回)	24.5% : 56.0%

4. 「交ぜ書き」についての意識

「破綻」など常用漢字表にない漢字を含む語を「破たん」のように書く、いわゆる「交ぜ書き」は、支持率が低い。交ぜ書きに対する意識は、S52 調査当時とは異なっているように見える。

〔質問〕 S52 調査 Q8：ここにあげてあることばは、ひらがなの部分の字が当用漢字でないために、新聞等で漢字とひらがなのまざった書き方が行われています。あなたは、このような書き方が読みにくいと思いますか、それとも別に読みにくいとは思いませんか。

「洗たく、消火せん、けい光燈、き裂、は握」

「読みにくいとは思わない」 61.9%

「読みにくいと思う」 28.9%

[質問] H7 調査 Q19:ここに挙げた下線の言葉の書き表し方についてお尋ねします。Aは「常用漢字表」に入っていない難しい漢字は使わないようにして、漢字と仮名を交ぜて書いたもの、Bは漢字で書いて振り仮名をつけたものです。あなたはA、Bのどちらがよいと思いますか。

A	B
真相を知って <u>がく然</u> とした	真相を知って <u>がくぜん</u> <u>愕然</u> とした
花模様の <u>刺しゅう</u>	花模様の <u>ししゅう</u> <u>刺繡</u>
動物の <u>はく製</u>	動物の <u>はくせい</u> <u>剥製</u>
経営が <u>破たん</u> する	経営が <u>はたん</u> <u>破綻</u> する
「漢字で書いて（交ぜ書きしないで）振り仮名をつける方がよい」	57.1%
「漢字と仮名を交ぜて書く方がよい」	35.2%

S52 調査と比較して、最近では交ぜ書きに対して、何らかの違和感をおぼえる人が増えている可能性もある。ただし、S52 調査とH7 調査では質問項目および言い回しが異なるため、注意が必要である。

5. ワープロ・パソコンによる文書作成

(1) ワープロやパソコンによる文書作成を経験した人は、H4 調査で3割、H7 調査では4割、H10 調査で5割と増加傾向にある。(F4はフェースシートの意)

[質問] H4 調査 F4:あなたは、ワープロやパソコンをつかって文章を作成したことがありますか。

「ない」 68.0% 「ある」 32.0%

[質問] H7 調査 Q18:あなたは、ワープロやパソコンを使って文書を作成したことがありますか。

「ない」 60.1% 「ある」 39.9%

[質問] H10 調査 Q14:あなたは、ふだん、文書作成のためにワープロやパソコンを使っていますか。

経験なし 52.2% 経験有り 47.6%

ニューメディアの普及により、パソコンや携帯電話などによる電子メールの利用を経験したことがある人は、H10 調査よりもさらに増加している可能性がある。

(2) ワープロやパソコンで文書を作成したことがある人 (39.9%) に感想を聞いたと

ころ、肯定的イメージと否定的イメージが交錯していることが分かった。

[質問] H7 調査 Q18：あなたは、ワープロやパソコンを使って文書を作成した経験から、どのような感想をお持ちですか。この中から三つまで選んでください。

(回答数の多いもののみ抜粋)

「視力を使うので、疲労しやすい」	48.4%
「文章の中で漢字を多く使うようになった」	38.7%
「漢字の書き方を忘れることが多くなった」	38.5%
「文章が速く作れるようになった」	22.1%
「文章を作るのに時間がかかるようになった」	18.3%

第3節 国際化時代の日本語に関する問い

1. 外来語の使用と理解について

(1) 現在の日本語における外来語・外国語の使用の多さについての受け止め方と、今後については異なるとらえ方が見られる。

[質問] S52調査Q21: あなたは、日ごろ読んだり聞いたりすることばの中に、外来語や外国語を使っている場合が多いと感じることがよくありますか、たまにはありますか、それとも、多いと感じることはありませんか。

「よくある」	32.5%
「たまにある」	32.8%
「多いと感じることはない」	27.6%

[質問] S52調査Q22: それでは、日常生活の中で、外来語や外国語をまじえて話したり、書いたりしていることをあなたは好ましいと感じますか、好ましくないと感じますか、別になにも感じませんか。それは、具体的にはどのような理由からですか。

「好ましいと感じる」	9.8%
「好ましくないと感じる」	33.6%
「別になにも感じない」	48.8%

[質問] H4調査Q6: あなたは、日ごろ読んだり聞いたりする言葉の中に、外来語や外国語がつかわれすぎていると言われていていることについて、どう思いますか。

「つかわれすぎていると思う」 + 「ある程度つかわれすぎていると思う」	69.9%
「あまりつかわれすぎているとは思わない」 + 「つかわれすぎているとは思わない」	24.9%

[質問] H7調査Q16: 最近、日常生活の中で、外来語や外国語を見たり聞いたりすることが多くなったという意見があります。今以上に外来語や外国語が増えることについて、あなたはどう思いますか。

「いくら増えてもよい」 + 「多少は増えてもよい」	57.9%
「今以上には、増えない方がよい」 + 「減る方がよい」	37.0%

(2) 外来語や外国語が多く使われていることの感じ方に、年齢差が認められる。

[質問] S52調査Q22: 日常生活の中で、外来語や外国語をまじえて話したり、書いたりしていることをあなたは好ましいと感じますか、好ましくないと感じますか、別になにも感じませんか。

	20代	30代	40代	50代	60以上
好ましいと感じる	14.2%	10.5%	8.8%	9.3%	5.6%
好ましくないと感じる	19.9%	29.9%	38.1%	39.1%	44.0%
別になにも感じない	61.5%	54.2%	46.9%	42.3%	31.3%

【質問】 H4 調査 Q 6 : あなたは、日ごろ読んだり聞いたりする言葉の中に、外来語・外国語がつかわれすぎていると言われていていることについてどう思いますか。この中ではどうでしょうか。

	20代	30代	40代	50代	60以上
「つかわれすぎていると思う」+					
「ある程度つかわれすぎていると思う」	54.5%	67.0%	72.9%	76.3%	72.4%
「あまりつかわれすぎているとは思わない」+					
「つかわれすぎているとは思わない」	42.3%	30.6%	24.1%	19.1%	16.4%

【質問】 H 7 調査 Q16 : 最近、日常生活の中で外来語や外国語を見たり聞いたりすることが多くなったという意見があります。今以上に外来語や外国語が増えることについて、あなたはどう思いますか。あなたのお感じに最も近いものを一つ選んでください。

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上
「いくら増えてもよい」+						
「多少は増えてもよい」	78.6%	77.7%	68.6%	58.7%	54.9%	36.1%
「今以上には、増えない方がよい」	17.6%	18.1%	22.5%	31.5%	32.4%	43.5%
「減る方がよい」	1.5%	1.4%	5.2%	5.7%	8.0%	11.3%

S52調査Q22では、好ましいと感じる人は、各年代で少数である。好ましくないと感じる人と別になにも感じない人の合計は、年齢とほぼ反比例の関係にある。若年層ほど何も感じない人が多い。H4調査Q6では、使われすぎていると感じる人と、使われすぎているとは思わない人とが、年齢と反比例の関係にある。H7調査Q16で、今後増えてもよいという人と、増えない方がよいという人とは、年齢とほぼ反比例の関係にある。

(3) 外来語や外国語の意味の理解と使用は、親密度、接触度、必要性、語の長さなど関係する。第3章第3節第1項で、親密度と接触度を中心に詳説する。

H8, H9, H10 調査で用いられた語は、以下のとおりである。

H8 調査: 「スタンバイ, ボランティア, アイデンティティー, パドック, バーチャル・リアリティー, インフォームド・コンセント, マスカラ」

H9 調査: 「アイテム, ディベート, エコロジー, ボーダーレス, Tゾーン, JA, ISDN, ODA」

H10 調査：「ストレス、カジュアル、コミュニケーション、アスリート、リテラシー、インターネット、アメニティー、オンブズマン」

H10 調査では、略語のもとを聞く形式、日本語との意味理解を比較する形式で、以下の語について質問している。

「ワープロ、リハビリ、セクハラ、エアコン、リストラ、ニーズ、イベント、メリット、スキーム、リスク、ビジョン、アカウントビリティ」

2. 外国人の日本語、外国人とのコミュニケーションについて

(1) 外国人から話しかけられた経験の有無は、生活地域の規模、職業と、それに伴う生活や行動の範囲に影響を受けると考えられる。

[質問] H7 調査Q12：あなたは、この1～2年の間に日本国内で、外国人から話しかけられたことがありますか。

【都市規模】	東京都区部	政令指定都市	中都市	小都市	町村
「しばしばある」	6.2%	8.2%	5.5%	4.4%	4.2%
「時々ある」	22.3%	12.0%	10.9%	13.6%	8.1%
「1～2度ある」	26.2%	23.7%	20.1%	17.8%	17.4%
「まったくない」	45.4%	56.2%	63.5%	64.2%	70.4%

【職業】	学生	自営の商工サー ビス・自由業	管理専門技術 ・事務職	主婦	自営の 農林漁業
「しばしばある」	11.8%	9.4%	6.6%	1.7%	1.4%
「時々ある」	15.0%	18.8%	15.0%	8.0%	4.1%
「1～2度ある」	31.4%	21.4%	27.7%	17.5%	5.5%
「まったくない」	41.8%	50.5%	50.7%	72.7%	89.0%

(2) 外国人の日本語力より、日本人の日本語力や外国語力を重視している人が多い。日本人の日本語力には言葉の正しさ、規範に関する視点、外国人の日本語力には意思疎通を重視する視点が見られる。

[質問] H7 調査Q13：外国人の話す日本語は、どのような日本語であるのが望ましいと思いますか。

あなたのお考えに最も近いものを一つ選んでください。

「外国人であっても、日本人と変わらない日本語を話すべきである」 12.7%

「外国人だから、意思が通じさえすれば、多少変な日本語でもかまわない」 58.6%

「外国人だから、意思が通じさえすれば、どんな日本語でもかまわない」 24.2%

[質問] H7調査Q14：ここに挙げた(1)から(6)の日本語や外国語に関する意見について、あなたは
どう思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。

「そう思う」 「そうは思わない」

(1)外国人が、日本語を話せるようになるための教育 を重視すべきである。	35.5%	47.2%
(2)日本人が、外国語を話せるようになるための 教育を重視すべきである。	67.5%	21.3%
(3)日本人が日本語を正しく使えるようになるた めの教育を重視すべきである。	80.6%	12.7%
(4)日本に来た外国人は、日本語を話すように努力すべきである。	59.8%	27.7%

実際に話しかけられた人が対応した言葉は、主に日本語44%、日本語と英語併用39%である。話しかけられたことがない人への場面想定による質問でもほぼ同じ比率である。年齢別と男女差から見ると、主に英語で応じる人は、若年層の男性が高く、年代が高くなるにつれ、主に日本語での対応が増える。また、外国人の日本語力について日本人と変わらない日本語を求めている人も、実際には日本語もしくは英語との併用で意思疎通を図っている人が多い。

[質問] H7調査Q12SQ2：あなたが、外国人から話しかけられたとき、どのように対応しましたか。

	10代男性	20代男性	30代男性	40代男性	50代男性	60以上男性
「主に日本語で応じた」	50.0%	31.9%	32.4%	41.6%	47.4%	63.6%
「主に英語で応じた」	21.4%	22.2%	10.8%	13.9%	11.8%	10.4%
「状況次第で日本語 または英語で応じた」	25.0%	41.7%	52.7%	39.6%	38.2%	18.2%
	10代女性	20代女性	30代女性	40代女性	50代女性	60以上女性
「主に日本語で応じた」	27.8%	26.3%	44.6%	43.8%	55.1%	65.1%
「主に英語で応じた」	13.9%	11.8%	10.9%	15.1%	4.3%	2.3%
「状況次第で日本語 または英語で応じた」	38.9%	56.6%	44.6%	39.7%	36.2%	23.3%

表1. H7 調査Q12SQ2「外国人に話しかけられて何語で対応したか」・H7 調査Q13「外国人にどのような日本語を望むか」(数値は%)

H7Q12「外国人に話しかけられて何語で対応したか」					
H7Q13 外国人が話す日本語	主に日本語	主に英語	日英語併用	応じない	応じないようにした
総計	44	12	39	2	2
日本人と変わらない	41	12	38	2	6
多少変な日本語でも	42	14	40	3	1
どんな日本語でも	48	10	40	2	—
分からない	64	—	18	—	18

3. 日本語の国際社会での使用について

日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張すべきであるかどうかについて、40代以下では賛否の差は小さいが、50代以上ではその差が大きい。

[質問] H7 調査Q15: 「日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張すべきである」という意見があります。このことについて、あなたはどのように思いますか。

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60以上
「そう思う」	41.2%	42.6%	38.7%	40.1%	44.6%	47.5%
「そうは思わない」	44.1%	43.4%	40.7%	38.7%	26.7%	20.6%
女性	10代	20代	30代	40代	50代	60以上
「そう思う」	41.3%	36.5%	33.6%	43.6%	42.3%	46.8%
「そうは思わない」	36.5%	37.8%	37.1%	31.3%	20.5%	13.3%

4. 姓名のローマ字表記

姓名のローマ字表記において、姓名のどちらを先にすべきかについては、H7 調査とH10 調査と異なる結果が得られた。

[質問] H7 調査Q17: あなたは、外国で使うためにローマ字書きの名刺を作る場合、その名刺には、御自分の姓と名のどちらを先に書くべきだと思いますか。

[質問] H10 調査Q22: 英文の新聞や雑誌の中で、中国人や韓国人の名前は自国での呼び名と同じ「姓一名」の順で書かれることが多いのに、日本人の場合、例えば山田花子は Hanako Yamada のように、「名一姓」の順で書かれるのが普通です。しか

し、近ごろでは、日本人の名前は「姓一名」の順なので、英文の中でも逆に
 するのはおかしいという意見も聞かれます。あなたは、このことについてど
 う考えますか。

	「姓を先にする」	「名を先にする」
H7調査Q17	24.6%	62.3%
H10調査Q22	34.9%	30.6%

		自営の 農林漁業	自営の商工サー ビス・自由業	管理・専門技術・ 事務職	学生
H7調査Q17	「姓を先にする」	31.5%	30.2%	23.3%	16.3%
	「名を先にする」	43.8%	56.3%	70.7%	79.7%
H10調査Q22	「姓を先にする」	40.0%	40.1%	31.0%	20.4%
	「名を先にする」	15.0%	26.7%	35.4%	47.6%

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
H7調査Q17	「姓を先にする」	16.1%	16.5%	22.2%	18.9%	25.2%	29.4%
	「名を先にする」	80.1%	76.9%	70.4%	68.6%	58.8%	45.2%
H10調査Q22	「姓を先にする」	17.0%	27.0%	18.1%	35.8%	38.9%	44.2%
	「名を先にする」	48.8%	38.3%	34.9%	30.2%	28.2%	27.7%

(注記) 残りは、「ふどちらとも言えない」「分からない」である。

H7調査では、相手に理解してもらおう意図があるという意味を持つ「外国で使うためにローマ字書きの名刺を作る場合」、H10調査では、相手の習慣に基づいている「英文の新聞や雑誌の中で」「中国人や韓国人の名前は時刻での呼び名と同じ姓名の順」という状況が述べられた質問であるため、回答者の判断が二つの調査で異なる可能性がある。そのため、H7H10両調査の結果を単純に比較することはできない。

H7調査の回答を見ると、いずれの職業でも「名を先にする」が「姓を先にする」を上回る。「名を先にする」は学生、管理・専門技術・事務職に多い。「姓を先にする」は自営業種に多い。また、すべての年齢において「名を先にする」が上回っているが、その差は年齢が高くなるとともに縮まっている。

H10調査では、「姓を先にする」が若干上回っているが、30代以下では「名を先にする」が逆転し、40代以上と異なる様相を示している。

第3章 調査結果の分析

第1節 敬意表現を中心とした言葉遣いに関して

第1項 敬意表現についての留意点

1. はじめに

本項では、第21期及び第22期国語審議会の審議の課題の一つである敬意表現を中心とする言葉遣いをめぐって、これに直接的に関連すると思われる世論調査項目を選んで検討する。具体的には以下の3点を選び、世論調査の結果を基にした場合に考えられる敬意表現についての議論上の留意点を指摘する。

- ①丁寧語を中心とする敬意表現の働きについての国民の意識
- ②「上下関係」という概念と敬意表現との関連についての国民の意識
- ③「敬意表現」という概念の範囲についての国民の意識

2. 敬意表現の働きについての再確認を

(1) 問題の所在 ----- 「です・ます」についての意識

第21期国語審議会『審議経過報告』には、次のような二つの記述がある。

「近年、尊敬語や謙譲語、とりわけ謙譲語衰退の傾向が指摘されているが、一方で丁寧語の使用は非常に普及し、話し言葉では『です・ます体』が一般的な文体として意識されていると言えよう。」(同報告 p.5)

「世論調査(平成9年1月)では『食べます』の『ます』を『敬語だと思わない』と答えた人が85.3%に上っている。このことから、尊敬語や謙譲語だけを敬語と思う傾向が強いということが言える」(同・注1)

この二つの記述は、狭義の敬語の範囲で言えば「です・ます」に代表されるいわゆる丁寧語に関する内容のものである点で共通する。

この二つの記述にいま言及する理由は、論点となっている丁寧語「です・ます」が、「話し言葉では一般的な文体として意識され」ていながら、尊敬語・謙譲語とは異なり「敬語」としては認識される場合が相対的に少ない、という国民の敬語意識のあり方が今後あらた

めて議論される必要があると考えるからである。「です・ます体」が一般的な文体として広く使用されていると認められるにしても、それは敬語として意識されてのことではないという事実は、丁寧語を含む敬語あるいは敬意表現の働きを考える上で重要な問題を含むものと考えられる。

(2) 世論調査及び関連する敬語調査の結果

後者の記述で言及された世論調査の結果は、次のようなものである。

H8調査Q15

だれかを尊敬したり、自分が謙遜したり、ものごとを丁寧に言ったりするときに使う言葉を敬語と言います。あなたは、ここに挙げる(1)から(10)の下線部分が敬語だと思いますか、それとも敬語だとは思いませんか。

(選択肢を抜粋して引用する)

		敬語だと思う	思わない
丁寧語	(1) 私は野菜を <u>食べ</u> ます。	10.9%	85.3%
美化語	(3) <u>お</u> 茶を飲みましょう。	24.1%	72.7%
尊敬語	(5) あの方は何でも <u>御存じ</u> だ。	62.9%	32.4%
謙讓語	(4) よろしく <u>お</u> 願い申し上げます。	89.2%	9.3%

選択肢のうち、(5)「御存じだ」(尊敬語)や(4)「お願い申し上げます」(謙讓語)は6割～9割の回答者が「敬語だと思う」と答えたのに対して、(1)「(食べ)ます」(丁寧語)や(3)「お(茶)」(美化語)については7～8割を超える多数の回答者が「敬語だとは思わない」と答えている。質問文で、内容的に丁寧語・美化語に該当する「ものごとを丁寧に言ったりするときに使う言葉」という説明を掲げているにもかかわらず、これらは敬語と意識されることが少ない。

世論調査のこの結果は、国立国語研究所が従来行っている別の敬語意識調査においても同様の傾向が見られたものである。地域社会における敬語意識調査、会社の中の敬語意識調査等を通じて、この傾向は一貫して指摘できる。このうち、愛知県岡崎市での敬語意識調査の結果は次の通りであった(文献1)。

Q これから私が言う言葉の中に敬語があるでしょうか？ あったらどこが敬語か おっしゃって下さい(下線部分を正解として扱ったもの)。

		敬語は無い
美化語	「今日はお野菜が安い」	55.8%
丁寧語	「ここに <u>あり</u> ます」	70.5%
尊敬語	「知事のお車」	31.0%
	「あの人は駅へ <u>行</u> かれた」	31.8%

	「一つお持ち下さい」	22.3%
謙譲語	「これはいただいたものだ」	33.0%

これらの調査結果は、丁寧語（美化語）を「敬語」と意識しない国民が多数派であることを明瞭に示している。

さらに、文化庁世論調査の結果には、丁寧語・美化語を敬語と見なさない上記のような敬語意識と関連すると思われる、敬語一般の働き（機能）についての意識のあり方を示す注意すべきデータも含まれている。次の調査結果である。

H4調査Q5

あなたは、今後とも国語に敬語は必要だと思いますか。

[追加質問：必要だと回答した人へ]

では、敬語が必要だと思うのはどのような理由からでしょうか。

[結果] 回答者の93.7%（2,139人）が「(ある程度)必要だと思う」と答えた。

その理由として5項目の選択肢について次のような回答があった（複数選択）。

ア	相手を尊敬する気持ちを表せるから	68.4%
イ	相手と自分の立場をはっきりさせて、 けじめをつけることができるから	50.1%
ウ	表現がやわらかく、人間関係を円滑 することができるから	45.9%
エ	敬語は国語の伝統的な要素だから	11.7%
オ	表現が美しく上品になるから	8.6%

ここで注目したいのは、選択肢オの選択率が1割に満たない少数であった点である。別の選択肢ア、イは、それぞれ「相手を尊敬する気持ち」「相手と自分の立場をはっきりさせられる」という人間関係を表現する敬語の機能を述べたものである。これらが過半数程度の多数に選ばれたのに対して、「表現が美しく上品になる」という丁寧語・美化語の機能を述べた選択肢オは、これらに対して支持率が極めて低い。

つまり、敬語の役割・機能のうち、人的要素や場面要素に関わるものが積極的に意識されているのに対して、言語表現を整えるという丁寧表現機能への意識は希薄だということが指摘できるのである。

(3) 言語表現そのものを丁寧にする敬語の機能への認識を

敬語の役割・機能がどのようなものであるかについては、従来さまざまに議論されたところであるが、それらを概括すれば次のような論点が挙げられよう。

①敬語はそもそも何を表現するか？

例えば、表現主体の対人的な配慮、場面や状況への配慮、話題や用向きへの配慮、言語表現そのものへの配慮など。

②敬語に込められる対人的な配慮は、その言語表現に関わる人的要素のどれに及ぶか？

直接の話し相手、脇にいる間接の聞き手、話題の登場人物、表現者自身など。

③対人的な配慮は人的要素の間どのような人間関係に及ぶか？

年齢・地位・役割などに関する上下・尊卑の関係、付き合い・面識の程度に関する親疎・遠近の関係など。

④人的要素への配慮や場面への配慮をどのような種類のものとして表現するか？

配慮の対象を、上げる・下げる、尊敬する・見下す・へりくだらせる、遠ざける・近づける。あるいは、場面を改まらせる・くだけさせる、など。

⑤言語表現そのものについての配慮をどのような種類のものとして表現するか？

言語表現を、丁寧にする・ぞんざいにする、あらたまらせる・くだけさせる、やわらかくする・かたくする、美しくする・汚くするなど。

これらは、単に言語研究や敬語研究の専門分野での論点であるばかりでなく、一般の国民の間での敬語や言葉遣いに関する議論の論点でもあったことは言うまでもない。従来、敬語や待遇表現の働きがこうした論点をめぐって議論され、敬語の種類に応じて重点の置き方はそれぞれに違いがあることをふまえつつ、多くの論点の内の限られた部分に偏らない敬語の幅広い働きが指摘されてきている。

こうした従来の議論を振り返る立場から、前項までに示した世論調査等の結果に現れた国民の敬語意識を見直すと、ここで取り上げた丁寧語・美化語に関するその意識のあり方は次のような意味において問題を含むものであることが指摘できる。

ア 「です・ます」に代表される丁寧語（及びこれに類似した機能を持つ「お」などの美化語）を敬語として意識する程度が極めて低い。

イ 丁寧語・美化語の重要な働きとされる、言葉遣いを丁寧にする（あらたまらせる、やわらかくする、美しく整える、などを含む）機能についての意識が、「です・ます」などの具体的な丁寧語に関して希薄である。

これらの問題点は、世論調査の結果に見られた丁寧語以外の敬語についての敬語意識のあり方との対比において、国民の敬語意識のあり方を議論する上で、とくに重点的に扱われる必要があるものと考えられる。

すなわち、話し手、話し相手、話題の人物などの人的な要素についての社会的関係（上下や親疎の関係、役割・立場の関係など）への配慮を表すという敬語の機能、及び、それを重点的に表現する尊敬語・謙譲語についての意識は多数の国民の間に定着していると言ってよい。これと対比して、人的要素の内でもとくに話し相手への丁寧さやあらたまりの配慮を表現すると同時に、言語表現そのもの（そのときどきの言葉遣い）を丁寧にすると

いう別の種類の（前掲の論点の中では⑤の項目の）機能についての国民の意識は希薄であると言わざるを得ない。

より一般的に現代語の敬語を考えると、話題の人物（動作主や動作の対象者など）への敬いやへりくだりを表現する「素材敬語」（尊敬語・謙譲語）と並んで、もっぱら話し相手へのあらたまりや丁寧さを表現する「対者敬語」（丁寧語）や自分自身の言葉遣いを美しく整える「美化語」の存在は無視することができない。日本語の敬語史をたどるとき、素材敬語から対者敬語への巨視的な移行が指摘され、現代敬語において「です・ます」を中心とする対者敬語としての丁寧語の機能はますます重要なものとなっている。

この点に関しての国民の敬語意識は、今後さらに重点的に議論され、従来の欠を補完する方向で喚起されるべきだと考えられる。特に、従来の敬語に止まらない様々な対人的な配慮を表現する「敬意表現」において、丁寧語及びそれらが表現する対人的な配慮のあり方は重要な意味を持つと考えられる。この点で、世論調査に見られた国民の敬語意識は、敬意表現をめぐる今後の議論の重要な論点の一つに位置づけることが必要である。

3. 「上下関係」の多様性の再吟味を

(1) 問題の所在 ----- 「敬語と言えは上下関係」という敬語意識

敬語ないし敬意表現の表す対人的な配慮がどのような人間関係に及ぶかについては、従来さまざまな研究や議論が重ねられている。概括すれば、年齢・地位・役割などに関する上下・尊卑の関係、付き合いや面識の程度に関する親疎・遠近の関係などが扱われてきた。

近世以前の敬語論においては、とりわけ上下・尊卑の人間関係が極めて重点的に扱われたと言ってよい。身分階級とか社会階層が固定的で強固であった言語社会を反映した敬語意識と言えるだろう。

こうした経緯の中、そうした身分階層社会から脱して民主化したはずの現代社会においても、一般の言語生活者は敬語と聞けばまず「上下関係」にまつわる敬語を意識すること、さらにはこれを積極的に支持する意見が多いことが指摘できる。それは、例えば、一般市民に対して敬語や待遇表現についての意識や意見を問う言語調査の場面や、新聞の投書欄における敬語論議においてしばしば観察される。「目上の人には敬語を使いますけどね」

「上下関係を一番気にしますね」などに代表される敬語意識についての概括的な語り口がそれである。

(2) 世論調査及び関連する敬語調査の結果

こうした状況を見ると、敬語ないし敬意表現の選択条件としての人間関係・社会関係に

ついて、とりわけ「上下関係」に関しての議論が整理される必要があると思われる。

文化庁世論調査の内には、この論点に直接関連すると思われるものとして、敬語の使い分けの条件として意識することがらを選択させる質問項目がある。そして、その調査結果においては、「上下関係」ないしこれと関連のある選択肢が「意識する」ものとして相対的に多く選ばれていることがわかる。

H7 調査Q6

ここに挙げた敬語に関する(1)から(4)の意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。

	そう思う
(1) 親しい人に敬語を使うのはよそよそしい感じがする。	73.7%
(2) あまり親しくない人には敬語を使う方がよい。	62.3%
(3) 目上の人には敬語を使う方がよい。	91.3%
(4) 年下の人にも場合によっては敬語を使う方がよい。	71.4%

H8 調査Q16

あなたが敬語を使うのは、どんなときですか。この中から幾つでも選んで下さい。

(1) 知らない人と話すとき	57.7%
(2) 年上の人と話すとき	79.2%
(3) 目上の人と話すとき	86.0%
(4) 意識的に改まった感じを出したいとき	44.2%
(5) 尊敬する人と話すとき	69.7%
(6) ものを頼みたいとき	42.1%
(7) 上品さを表したいとき	20.6%

これらの調査で、「目上の人には敬語を使う方がよい」(91.3%)、「目上の人と話すとき」(86.0%)、「年上の人と話すとき」(79.2%)、「尊敬する人と話すとき」(69.7%)などのように、それぞれ何らかの意味で「上下関係」を含むと解釈される選択肢が高い度数で選ばれている。これらに対して、「あまり親しくない人」「知らない人」など親疎関係にかかわる選択肢や、「改まった感じを出したいとき」「ものを頼みたいとき」「上品さを表したいとき」など、言葉遣いそのものや表現内容にかかわる選択肢は、相対的に度数が低い。こうした調査結果からは、いわば「敬語と言えば上下関係」という意識を持つ回答者の多いことが把握できる。

また、国立国語研究所が行った敬語意識調査のうち、一般企業の社員を対象にした企業内敬語調査では次のような質問をしている(文献2)。

Q 次の二つの意見のうち、あなたの意見に近い方を選んで下さい。

- ア 敬語は上下の規律が守れ、仕事を進める上で不可欠だ。
- イ 敬語は堅苦しく面倒だから、会社ではかえって邪魔になる。

回答結果は、「上下の規律が守れ」という文言を含む選択肢Aが極めて優勢に選ばれた。同一の企業の社員でも事業所の種類（本社事務部門・工場現場系部門・営業部門など）によって幅はあるものの、いずれにおいても約70%から93%という多数の回答者が「上下関係の規律が守れる。不可欠だ。」という選択肢を支持している。

（3）「上下関係」の多様性の再吟味を

以上のような調査結果を踏まえるならば、敬語が「上下関係」という人間関係を表現する役割を果たすと一般に意識されていること、敬語を選択する際の条件として「上下関係」が想起される度合いの高いことは、少なくとも一般国民の敬語意識のありかたとして、現代社会においても否定すべきでない。

一方で、例えば国立国語研究所での調査を実際に進める過程で、前掲の質問項目の「上下」という文言について、「現代社会（例えば企業社会や学校社会）には望ましくない旧来の人間関係のあり方を示唆するので避けるべきである」というような批判的な意見が関係者から寄せられたことも思い出される。

これらを対比して考えるとき、より一般的な用語（ないし概念）としての「上下関係」が敬語・敬意表現の働きを議論する上で不可欠なものであることは明らかだと言える。必要なのは、「上下関係」という用語でどのような範囲や内容のことがらを表すかということ、また、この用語が必ずしも旧来の身分階層社会の固定的な人間関係を直接意味するものでないことを明示しながら用いていく姿勢であろう。

以上のような点を前提としてここで指摘したいのは、そのように意識される「上下」の関係の内容や種類が今後もっときめ細かく議論される必要があるということである。

すでに見たように、世論調査の回答者の中には、ただちには「上下関係」とは呼びにくい人間関係・社会的関係を、敬語選択の条件として意識する回答者が少なくない。例えば、前掲の「尊敬する人」などがこれに該当するだろう。「尊敬する人」という人間関係と「上下関係」とは、より詳しく吟味して区別する態度があつてよいのではないか。こうしたものをも、「上下関係」の用語で一括する説明や議論の姿勢が従来あつたことは否めない。今後の議論においては注意深く避けるべきだと考える。

別の年度の世論調査を参照すると、H9調査に次のような質問項目があつて、その結果はここでの問題を考える上で大切なデータを示しているように思われる。

H9 調査Q5

ここに挙げた①から⑩で、aはbにとって敬語を使って話すべき相手だと思いますか。それとも、そうは思いませんか。

a	b	そう思う
① 子	→ 親	22.9%
② 年下の兄弟	→ 年上の兄弟	15.0%
③ 学生・生徒	→ 教師	83.7%
④ 学校のクラブの後輩	→ 同じクラブの先輩	60.4%
⑤ 年下の人	→ 年上の人	68.5%
⑥ 店の人	→ 店の客	75.9%
⑦ 店の客	→ 店の人	26.5%
⑧ 患者	→ 医師	74.7%
⑨ 医師	→ 患者	42.7%
⑩ ものを頼む立場の人	→ ものを頼まれる立場の人	75.8%

ここには、「親子」「兄弟」「師弟」「先輩・後輩」「年長者と年少者」「客と店員」「医師と患者」など、もっとも概括的にまとめるとすれば「上下関係」という用語で従来一括されることのあった人間関係が並んでいる。しかしながら、それらは敬語を使うべきかどうかの判断にかかわる人間関係として、回答者たちから相当の幅をもって意識されている。これらを一括して「上下関係」と呼ぶことが不適切であることをあらためて知らせてくれるデータであると言える。

これらのうち、「先輩・後輩」の関係については、世論調査とは別の国立国語研究所による企業の中の敬語意識調査において、つぎのような知見が得られている。その調査で、一口に言えば「上下関係」とまとめられそうな二つの人間関係、具体的には「年齢の上下」と「先輩・後輩の上下」とについての敬語使用への働き方を問う質問をしたところ、両者は異なる働き方をする要因であるらしいことが分かった。次のような対比である。

- 年齢の上下関係は、相手が年上に離れるにつれて言葉がより丁寧になり、相手が年下であればよりぞんざいになる。言わば単純な「上下関係」である。
- 在社年数から生まれる先輩後輩の関係は、先輩に向けてはより丁寧になる一方、最もぞんざいなのは同輩相手であって、「下」と言うべき後輩に対しては同輩より丁寧になる。つまり単純な「上下関係」ではない。同期に入社した同輩が最も近い「親」の関係となり、先輩であれ後輩であれ異なる年次に入社した人はそれぞれに「疎」の関係にあたりと解釈され、これは「上下」でなく「親疎」の関係である。

こうした例を挙げるまでもなく、現代社会で経験するもっと多様な人間関係の中には、

一口には「上下関係」だと言えそうな関係であっても、より詳細に見れば「上下」とは異なる働きを敬語に及ぼすものがあるのではないかと考えられる。先に調査項目とされていたような、親子の関係、兄弟姉妹の関係などの血縁関係、医師と患者、店員と客などの立場役割の関係などの中には、「上下関係」でなく「親疎の関係」「恩恵を与える側と受ける側の関係」、「仕事や立場などの役割関係」、「経験や能力に違いのある者同士の関係」などのように、別の概念やとらえ方によってきめ細かく議論すべきものが含まれていると思われる。敬語が表現する人間関係そのものの多様性は、今後、従来に増して注意深く議論することが必要である。

こうした議論を通じてこそ、従来の調査結果に垣間見られる「敬語と言えば上下関係」という旧来の国民の敬語観を乗り越えた、より幅広い人間関係を表現する「敬意表現」についての議論が実現すると考える。

4. 定型表現の中の「敬意表現」への留意喚起を

(1) 問題の所在 ----- 「敬意表現」という領域の広がり

敬語を中心とする言葉遣いについて諮問を受けた第 21 期国語審議会は、この論点について『審議経過報告』において次のように述べている。

「従来主として扱われてきた敬語（狭い意味の敬語。以下「敬語」という。）は、いわゆる尊敬語、謙譲語、丁寧語などであるが、これらを正しく使えばコミュニケーションが円滑に進むというものではない。（中略）現実のコミュニケーションにおいては、敬語のほかにも相手や場面に応じた様々な配慮の表現が使われており、これらが敬語を含みつつ、全体で敬意の表現（以下「敬意表現」という。）になっていると考えられる。すなわち、コミュニケーションを円滑にするという目的のためには、狭い意味の敬語だけでなく、敬意表現という大きなとらえ方をする必要がある。」（第1 前文 p.1）

また同報告は上に言う「相手や場面に応じた様々な配慮の表現」のありかたの例として

「例えば、相手に話し掛けるときの礼儀に関するものとしては、自分の名前や所属を告げ、場合によっては相手を確認すること、また、相手が自分にかかわってくることへの感謝及び相手に与える負担や迷惑の謝罪、話の切り出し方や前置き、相手と話を理由や事情の説明などを表現するか省略するか、表現するとすればどのように言うかというようなことがある。」（(3)様々な配慮と敬意表現 p.7）

のような例を掲げ、さらにより具体的な「敬意表現」の表現例として「付2(2)」で次のような分類の枠組みで具体例を掲げている（表現の具体例は一部だけを引用する）。

- | | |
|------------------|--|
| ①自己紹介, 相手確認 | 「私は〇〇社の山田と申します。」 |
| ②天候, 時刻や伝達方法への配慮 | 「夜分, 突然のお電話で申し訳ございません。」 |
| ③感謝の表現 | 「お世話になっております」「こちらこそ」 |
| ④謝罪表現 | 「(お忙しいところ) 申し訳ございません」 |
| ⑤話の切り出し方や前置き等 | 「ちょっと, よろしいでしょうか」 |
| ⑥事情説明 | 「あいにく先約がありまして (欠席いたします)」 |
| ⑦断定・断言の主導権 | 「そろそろ・・・」 (相手が)「・・・行こうか」 |
| ⑧話題の選択 | 避けられる話題 (年齢, 既婚か未婚かなど) |
| ⑨文末表現 | 終助詞の使い方 |
| ⑩相手を立てる表現 | 積極的に相手の言動や持ち物を褒める |
| ⑪敬語回避 | 文末の敬語を省略する |
| ⑫疑問表現・否定表現 | 「貸してもらえますか」「貸してもらえませんか」 |
| ⑬語種・文体の選択 | 和語～漢語, 現代語～文語, 一般用語～専門用語 |
| ⑭音声表現 | 声の調子, 高低, 音量, 速度, 抑揚など |
| ⑮書き言葉 (主として手紙文) | 手紙文の慣用的な形式の採否の判断。用紙, 筆記具, 文字 (楷書～行書, 手書きかワープロか等) |
- (pp.12～13)

これらを見ると、議論の新たな領域として提示された「敬意表現」が文字通り広く言葉遣いの多面にわたるものであることがわかる。このことは、別の見方をすれば、どのような言語表現が「敬意表現」であるのかという範囲画定の困難さも示しているとも言える。

『審議経過報告』は、敬語を含む敬意表現についての次期 22 期国語審議会の議論の方向性として「現実に行われる様々な敬意表現を整理して、平明な言い方を中心に複数の選択肢を掲げ、(中略) 想定される場面に応じた運用の指針を掲げることになろう」(p.9) という課題を掲げて終わっている。この課題にとっては、この「敬意表現」の範囲画定の問題が基本的な論点になる。

(2) 世論調査の結果

世論調査の調査項目及び結果を見ると、前述のような「敬意表現」の範囲画定にかかわると思われる次のようなものがあり注意される。

H9調査Q3

あなたは、ふだん、ここに挙げた(1)から(4)のようになりますか。それぞれについて、「する」「しない」でお答えください。

	する	しない
(1)人に贈物をするときには「つまらないものですが」などと謙遜する。	51.4%	26.0%
(2)人に贈物をするときには「苦労して選びました」「とてもおいしいんですよ」などと、その者の良さを表す言葉を添える。	18.4%	57.9%
(3)会議などで提案するときには、「もし皆さんがよろしかったら・・・したいと思いますが」などと言い、自分を強く出さないようにする。	47.6%	20.3%
(4)会議などで提案するときには、「私はこうすべきだと思います」などと、自分の考えをはっきり言う。	33.7%	27.0%

このうち、「する」と回答された割合の高い(1)及び(3)は、他に比べて言語表現としての定型性の高い前置き表現であることが注目できる。

H10調査Q1

人との付き合いを滑らかに進めるために、私たちは、相手や場面に応じていろいろと気配りをしています。あなたは、ここに挙げた(1)から(4)の下線部分の言い方に気配りを感じますか。それとも、特に気配りは感じませんか。又は、かえって煩わしいと感じますか。

	気配りを 感じる	感じない
(1) 悪いけど、この本貸してくれない?	39.1%	53.0%
(2) お待たせいたしました。鈴木でございます。	75.7%	20.2%
(3) 夜分すみません。林ですが、・・・。	78.7%	17.7%
(4) もしよかったら、あした私の家に来ない?	49.2%	44.5%

この質問では、(1)～(4)の全てが定型的な前置き表現として日常生活で繰り返し現れるものである。それらが、少ない場合でも4割～5割程度の回答者から、また多い場合には7割以上の回答者から、それぞれ「敬意を感じる」と回答されていて、「敬意表現」だと意識されていることがわかる。

H10調査Q8

ここに掲げた(ア)から(セ)は、いろいろな場面での気配りを表す言葉です。この中から、あなたが使うことがあると思う言い方(似た言い方を含む)を幾つでも挙げてください。

	使う (複数選択)
(ア) (断り) お役に立てなくて、すみません。	72.0%
(イ) (食事勧め) お口に合うかどうかわかりませんが	55.0%
(ウ) (鑑賞) おかげさまで、目の保養になりました	41.9%
(エ) (断り) お伺いしたいのは山々ですが	35.0%
(オ) (褒められて) お恥ずかしゅうございます	18.3%
(カ) (贈物) つまらないものですが	67.8%
(キ) (料理) お粗末でございました	36.5%
(ク) (歌や演奏) お粗末でございました	20.1%
(ケ) (上達を認められ) おかげでございます	53.2%
(コ) ご無沙汰しております	85.5%
(サ) (誘う) よろしかったら	64.3%
(シ) どうぞお気になさらないでください	41.4%
(ス) もし、お手すきでしたらお電話口まで・・・	27.7%
(セ) 僭越でございますがご指名によりまして	37.8%

この質問項目においても、前と同様に、言語表現として日常生活に定型的に繰り返し現れる度合いの強いと思われるものが「使う」と意識されている傾向が指摘できる。比較的选择度数の小さい(オ)「お恥ずかしゅうございます」(18.3%)、(ク)「(歌や演奏を終わって)お粗末でございました」(20.1%)、(ス)「もし、お手すきでしたらお電話口まで」(27.7%)などは、それぞれにへりくだりや遠慮の気持ちを表している表現であることは認められるものの、その定型性は他より低いものだと言うべきである。

以上のような世論調査の回答状況からは、一般国民にとって「敬意表現」だと意識されやすい言葉遣い、また敬意表現として「自分自身でも日ごろ言いそうだ」と意識される言葉遣いの多くは、日常生活の中で繰り返し現れることの多い定型的な言葉遣いであるということが指摘できる。

(3) 定型表現としての「敬意表現」への留意の喚起を

本節冒頭(1)で見たように、第21期国語審議会の「敬語」から「敬意表現」への課題領域の拡張は、「敬語を正しく使えばコミュニケーションが円滑に進むというものではない。敬語のほかにも相手や場面に応じた様々な配慮の表現が使われており、コミュニケーションを円滑にするという目的のためには、狭い意味の敬語だけでなく、敬意表現という大き

なとらえ方をする必要はある。」というものであった。端的に言えば、「人への気配りを表現するのは、なにも敬語に限ったことではない」というこの基本的な認識は、そのまま、一般の言語生活者のものである。

そのように拡張して課題に掲げられた「敬意表現」は、まことに幅広い範囲の多様な言語事象にかかわるものである。言語行動研究の立場からは、敬語を初めとする言語表現形式を含みつつ、言語行動（話したり書いたりする具体的なコミュニケーション行動）の諸側面に及ぶ配慮の表現として多様な「敬意表現」が指摘される。話題の選択、談話・文章の組み立て方（話の進め方など）、言葉の調子などの言語そのものの選択だけでなく、言語行動の時間、場所、道具など言語以外のものごとの選択（いつ、どこで、何を用いて伝達するかなど）にも対人的な配慮は及んでいる。さらに、一般には言葉遣いという範疇に入らない、身振り、表情、ものごし、身体距離、座席、服装、もてなしなど、非言語的なことがらにまつわるマナーとか礼儀作法というべき領域においても、同様の配慮が行われて、総体としての「敬意表現」を構成しているのが日常生活であろう。

しかしながら、繰り返すことになるが、他方において、そうした広がりの中で「敬意表現」と呼んで議論すべきことがらの範囲の画定が不可欠なこともまた確かである。

その際に、前項(2)で見た世論調査の結果に現れた一般国民の意識は、有力な手がかりとなると考えられる。すなわち、日常の言語生活に繰り返し現れることの多い定型的な言葉遣いとしての「敬意表現」への意識の強さである。今後、そうした言語表現に範囲を中心として（少なくともそうした範囲に関しては過不足無く）議論を進めることが妥当であり、また必要であることを世論調査は示していると考ええる。

文献一覧

1. 国立国語研究所報告 77『敬語と敬語意識－岡崎における 20 年前との比較』
（昭和 58 年。三省堂刊。昭和 46～47 年度の第 2 回調査結果を抜粋した。）
2. 国立国語研究所報告 73『企業の中の敬語』（昭和 57 年。三省堂刊。）

（杉戸清樹）

第2項 敬語についての留意点

1. はじめに

今期の国語審議会では、敬意表現の在り方に関して、具体的な敬意表現とその運用の指針を掲げることが予定されている。その基本方針について、第21期国語審議会の審議経過報告の「敬意表現の理念と標準の在り方」(p.8~9)には、次のことに配慮すべきとする記述がある。

一つは、敬意表現の多様性についての配慮である。

現実には人々が使っている敬意表現は既に述べたとおり実に多様である。「I コミュニケーションと言葉遣い」で展望したように、現代社会が多様な側面を持ち、人間関係も多層的になっている以上、様々な敬意表現を時と場合によって使い分けなければならなくなるのは当然であろう。敬意表現の多様性は、国語の豊かさとして積極的に評価されるべきであろう。

いま一つは、運用面の適切性について扱っていくときの配慮である。

国語審議会では次期の審議で具体的な敬意表現の標準を示すことに取り組むことが予定されているが、その場合も語形面での誤りを正すだけでなく、運用面の適切性についても扱っていくことが必要と思われる。すなわち、現実に行われている様々な敬意表現を整理して、平明な言い方を中心に複数の選択肢を掲げ、併せて頻度の高い誤用例についてはそれが誤りとされる理由を説明しつつ、想定される場面に応じた運用の指針を掲げることになる。

敬意表現の中でも、尊敬語・謙譲語・丁寧語といった狭い意味での敬語について検討するにあたって、以上の側面に配慮した審議がなされることが重要と考えられる。そのためには、国民各層の敬語使用や敬語意識の実態に基づいて、問題の所在を明らかにすることが求められる。「国語に関する世論調査」の分析結果をふまえて、本節では以下の項目に関して留意点を指摘する。

- ①敬語および敬意表現の社会的・地域的な多様性をふまえて
- ②尊敬表現の場面に応じた運用の指針について
- ③謙譲表現の場面に応じた運用の指針について
- ④丁寧表現の場面に応じた運用の指針について
- ⑤敬意表現の教育への提言にあたって

2. 敬語および敬意表現の社会的・地域的な多様性をふまえて

(1) 敬語使用と規範意識の社会差・地域差

現代社会では、さまざまな対人関係場面で、話し言葉コミュニケーションによって相互理解を深めることが重要となった。円滑なコミュニケーションによって、意思や情報を効果的に伝え、良好な人間関係を築きたいと、国民の多くが願っていることが世論調査で分かる。より良い言葉遣いの心がけに「相手や場面にふさわしい敬語を使うようにする」とことや、「心のこもった言葉を使うようにする」ことをあげる人が多いのは、円滑なコミュニケーションのための敬語行動を重視していることの現れである。

身近でない人や異なる社会的関係の人と対面するあらたまった場面でも、気後れすることなく話すことは、現代の社会生活に必要なコミュニケーション能力である。敬語を使いこなす円滑なコミュニケーションによって、人間関係を築きたいと思いつつながら、敬語を使うのは苦手と意識する国民や、敬語使用の適切性について判断に迷う国民は少なくない。

さまざまな社会的関係の人々の交流で、円滑なコミュニケーションが成り立つには、話し言葉（方言を含む）の敬意表現の多様性（豊かさ）についての理解が、各地域、各社会層に行き届いて、互いに受容し合えることが望ましい。しかし、現実には、暮らしている地域、所属する社会によって敬語の習慣に差異があるために、敬語使用と規範意識に地域差・社会差が生じている。敬語使用や規範意識がゆれている状況で、それが異なる人どうしが接触した場合、相手に不快感を与えたり、気持ちが行き違ったりして、円滑なコミュニケーションがはかれない障害が起こるおそれがある。

敬語使用と規範意識にみられる地域差・社会差は、敬語習得にかかわる言語環境の差でもある。その一つに地域社会の言語環境がある。地域社会の言語生活で使われる言語レパートリーの中に敬語の変種が豊富に含まれているか、そうでないかは、敬語行動の習熟や規範意識の形成に少なからぬ影響を及ぼすと予想される。

(2) 敬語変種の地域差

日本語の方言敬語は西日本で多彩に発達し、東日本は簡素である。敬語の変種の豊かさは、九州方言、西部方言、東部方言、北日本方言の順になる。九州西部や近畿中央部ではさまざまなレベルの敬語形式が併存し、とりわけ尊敬表現が発達している。これらの地域には方言では一般に発達していない謙讓表現も存在する。一方、北海道・東北・関東・山梨・静岡の東日本一帯や、西日本でも高知・大分あたりは敬語変種が簡素である。大都市や城下町から発展した都市を除いて、尊敬表現の無敬語地域である。また、東京語を基盤とする共通語の敬語は、東京・神奈川・千葉・埼玉の首都圏で発達している。

以上のような敬語変種の地域差に基づいて、「国語に関する世論調査」の被調査者の地域を次の三つに区分し、分析を加えた。

[簡素地域]=方言敬語簡素地域

北海道・東北・関東（東京・神奈川・千葉・埼玉を除く）・山梨・静岡・高知・大分

[首都圏]=共通語敬語発達地域

東京・神奈川・千葉・埼玉

[複雑地域]=方言敬語発達地域

中部・北陸・近畿・中国・四国（高知を除く）・九州（大分を除く）

(3) 敬語使用と規範意識に社会差・地域差がみられる項目

(a) 謙讓語「あげる」の美化語的用法

H7調査Q12

(1) ~ (6) それぞれに挙げた二つの言い方のうち、あなたがふつう使うものはどちらですか。
(一部を抜粋)
(2) 「うちの子におもちゃを買ってやりたい/うちの子におもちゃを買ってあげたい」

表1. ふつうに使うのは「うちの子におもちゃを買ってやりたい/あげたい」 (数値は%)

	やりたい	あげたい	どちらも使う	分からない	被調査者数
簡素地域	56.6	35.8	5.7	1.8	27.0
首都圏	42.6	51.4	4.7	1.2	22.0
複雑地域	66.4	29.1	3.5	1.0	51.0
総計	58.5	35.8	4.3	1.3	

「あげる」を謙讓語と考えるか、美化語的用法を認めるか、ゆれているところである。謙讓語と考えれば、行為者である自分がへりくだり、行為の受け手であるうちの子に敬意を表すことになる。人前で我が子に敬意を表すのは、現代の敬語では不適切な使用とされる。美化語的用法は、「やる」では品がないと考えて、美化語のつもりで「あげる」を使ったものである。

「あげたい」を使う率は全体では35.8%と、まだ少数派である。しかし、性・世代別にみると、男性(29.3%)より女性(41.4%)がよく使う。中でも10代女性(71.4%)の使用率をもっとも高い。地域別にみると、[首都圏](51.4%)で抜きんでて半数を超えている。美化語的用法は世代・性・地域で差が大きい用法と言える。

一方、自分の子どもに対する行為を言うところに「やりたい」を使う率は、[複雑地域](66.4%)がもっとも高く、[簡素地域](56.6%)でも6割近い。これらの地域では「あげる」を謙讓語と考える規範意識が保たれているためである。

なお、謙讓語の美化語的用法についての規範意識は、方言敬語発達地域の一つである熊本県域を対象とした調査(文献1)でもみている。

文献1調査Q

下線部分の言い方は「よい」と思いますか、「よくない」と思いますか。
母親が担任の先生に「うちの子はいつも7時に起こしてあげます」

この場面での「あげる」の美化語的用法を不適切（よくない）とする率は 40～50 代（89.5%）や 20～30 代（88.2%）できわめて高く、60 代以上（75.4%）や中高生（63%）も高い。方言敬語発達地域も規範意識では許容されない用法と言えよう。

(b) 気になる敬語

H7 調査Q11

ここに挙げた(1)から(11)の文中の下線の部分の言い方は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。 (一部を抜粋)
 (4) 「〇〇さん、おりましたら御連絡ください」

表2. 「〇〇さん、おりましたら御連絡ください」気になるか、気にならないか？ (数値は%)

	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない	被調査者数
簡素地域	37.7	59.0	2.3	1.0	27.0
首都圏	49.8	49.2	0.6	0.4	22.0
複雑地域	68.3	29.6	1.3	0.8	51.0
総計	56.0	41.8	1.4	0.8	

伝統的な敬語の規範では、話題の人物「〇〇さん」に対して「いる」の尊敬語を使うべきところである。「おりましたら」という言い方は、気になるか、気にならないかで地域差が大きい。「気になる」が格段に多いのは[複雑地域]（68.3%）である。それに対して、「気にならない」は[簡素地域]（58.9%）で多く、[首都圏]（49.2%）でも半数に達している。[複雑地域]では、例えば「父は家におります」のような形で謙讓表現として使用される実態があるため、尊敬語を使うべきところで使われたら「気になる」のである。

(c) 共通語の尊敬表現

広範囲な人々の交流で、良好な人間関係を維持するためには、全国的に通用する共通語によって意思疎通を図ることが必要になる。しかし、共通語の敬語に限っても、国民各層の使用実態には多様性がある。

H8 調査に、共通語の尊敬表現を選択肢にあげて、尊敬語を使うか使わないか、また、どんな形式を使うかを尋ねた項目がある。次のような明確な地域差がみられる。

H8 調査Q9

目上の人にここに挙げた(1)から(5)のことを聞くととき、下線部分について、あなたはどの言い方をしますか。言うと思うものを幾つでも選んでください。

- (1) 「テレビを見るか」ということについては、どうでしょうか。
- (2) 「あの本をもう読んだか」ということについては、どうでしょうか。
- (3) 「今すぐ食べるか」ということについては、どうでしょうか。
- (4) 「あしたは仕事をするか」ということについては、どうでしょうか。
- (5) 「あしたの会議で意見を言うか」ということについては、どうでしょうか。

表3. 目上の人に「テレビを見るか」と聞く言い方 (数値は%)

	見ますか	見られますか	御覧になりますか	御覧になられますか	被調査者数
簡素地域	44.4	26.0	43.0	13.6	24.9
首都圏	31.9	26.5	61.7	18.7	25.1
複雑地域	22.9	48.0	42.9	17.1	50.0
総計	30.5	37.1	47.7	16.7	

表4. 目上の人に「あの本をもう読んだか」と聞く言い方 (数値は%)

	読みましたか	読まれましたか	お読みになりましたか	お読みになられましたか	被調査者数
簡素地域	41.6	31.2	39.8	14.0	24.9
首都圏	27.4	35.4	56.4	22.6	25.1
複雑地域	20.5	51.6	37.5	21.2	50.0
総計	27.5	42.5	42.8	19.7	

表5. 目上の人に「今すぐ食べるか」と聞く言い方 (数値は%)

	食べますか	食べられますか	お食べになりますか	お召上がりになりますか	お召上がりになりますか	お上がりになりますか	被調査者数
簡素地域	38.0	20.4	12.9	33.0	19.9	3.4	24.9
首都圏	23.1	20.5	20.1	48.2	31.3	7.5	25.1
複雑地域	19.7	39.4	17.2	30.9	22.9	8.8	50.0
総計	25.1	29.9	16.9	35.8	24.3	7.1	

表6. 目上の人に「あしたは仕事をするか」と聞く言い方 (数値は%)

	しますか	されますか	なさいますか	被調査者数
簡素地域	42.1	34.8	38.9	24.9
首都圏	23.6	38.6	61.2	25.1
複雑地域	22.6	55.1	41.6	50.0
総計	27.7	45.9	45.8	

表7. 目上の人に「あしたの会議で意見を言うか」と聞く言い方 (数値は%)

	言いますか	言われますか	おっしゃいますか	おっしゃられますか	申されますか	被調査者数
簡素地域	31.9	34.8	28.9	14.2	10.8	24.9
首都圏	18.0	38.6	43.8	19.9	14.1	25.1
複雑地域	15.5	55.1	39.6	13.4	9.2	50.0
総計	20.2	45.9	37.9	15.2	10.8	

共通語の尊敬表現の使用実態を地域別にみると、各地域で以下のような特徴を指摘できる。

[簡素地域]

①尊敬語を使わない形式の比率が高い。

- (1)「見ますか」(見るか) 44.4%
- (2)「読みましたか」(読んだか) 41.5%

(3) 「食べますか」 (食べるか)	37.9%
(4) 「しますか」 (するか)	42.1%

②例外的に「言う」だけは、尊敬語「レル」を使う形式が尊敬語を使わない形式を僅かに上回っている。

(5) 「言われますか」 (言うか)	34.7%
「言いますか」 (言うか)	31.9%

[首都圏]

①尊敬語動詞形式（「御覧になる」など）や、「お～になる」形式の比率が高い。

(1) 「御覧になりますか」 (見るか)	61.7%
(2) 「お読みになりましたか」 (読んだか)	56.4%
(3) 「召し上がりますか」 (食べるか)	48.2%
(4) 「なさいますか」 (するか)	61.2%
(5) 「おっしゃいますか」 (言うか)	43.8%

②二重尊敬の比率がほかの地域に比べて高い。

(3) 「お召しあがりになりますか」 (食べるか)	31.3%
(5) 「おっしゃられますか」 (言うか)	20.0%

③謙譲語「申す」+尊敬語「レル」の比率がほかの地域に比べて高い。

(5) 「申されますか」 (言うか)	14.1%
--------------------	-------

[複雑地域]

①尊敬語助動詞「れる・られる」を使う形式の比率が高く、尊敬語動詞形式や、「お～になる」形式の比率もそれに次いで高い。

(1) 「見られますか」 (見るか)	48.0%
「御覧になりますか」 (見るか)	42.9%
(2) 「読まれましたか」 (読んだか)	51.6%
「お読みになられましたか」 (読んだか)	37.5%
(3) 「食べられますか」 (食べるか)	39.4%
「召し上がりますか」 (食べるか)	30.9%
(4) 「されますか」 (するか)	55.1%
「なさいますか」 (するか)	41.6%
(5) 「言われますか」 (言うか)	55.1%
「おっしゃいますか」 (言うか)	39.6%

②尊敬語を使わない形式の比率がもっとも低い。

共通語の尊敬語を使うか使わないか、また、どんな形式を使うかは、敬語変種の地域差と相関が高いことが分かる分析結果である。

方言敬語の変種が簡素な地域では、目上の聞き手の行為を面と向かって尋ねるあらたま

った場面でも、共通語の尊敬語を使わない形式がもっとも多くみられる。敬語簡素地域という言語環境が敬語行動の習慣にも影響していることがわかる。

共通語の敬語が発達している首都圏では、尊敬語動詞や「お～になる」形式を用いた共通語で敬意の高い尊敬表現がもっとも多くみられる。敬意の高い共通語敬語形式を多く使う敬語行動の習慣は、二重尊敬の形式がほかの地域に比べて多いという傾向も生んでいる。

方言敬語の変種が多彩に発達している地域では、方言敬語にも敬意の高い形式があり、あらたまった場面でも、方言敬語と共通語敬語の両方が使われる実態がある。しかも、年齢の高い世代になるほど、敬意の高い形式が求められる場面で方言敬語を使う傾向がみられる（文献2）。敬意の高い形式として必ずしも共通語敬語を選択する習慣がないために、共通語に限った選択肢を与えられると、尊敬語助動詞「れる・られる」を使う形式がもっとも多く、尊敬語動詞形式や、「お～になる」形式がそれに次いで多い。逆に、尊敬語を使わない形式は三地域の中でもっとも少ない。つまり、多彩な尊敬表現が併存していて、その使用率も高い地域と言える。

3. 尊敬表現の場面に応じた運用の指針について

第21期国語審議会の審議経過報告によれば、今期の審議で示す予定の、具体的な敬意表現の標準や、場面に応じた運用の指針は、国民の一人一人が「敬意表現の選択能力や運用能力を身に付け、それを適切に用いていく」ための助けとなることが求められている。そのためには国民各層の敬語使用や規範意識の多様性に配慮した審議が行われ、だれにも分かりやすく、納得できる指針が示されることが重要となろう。

現実に行われている様々な敬意表現を整理して、平明な言い方を中心に複数の選択肢を掲げ、尊敬表現の標準を示すにあたっては、国民各層の敬語使用と規範意識にみられた社会差・地域差をふまえて、以下のことに配慮することが求められよう。

(1) 方言敬語を含む尊敬表現の多様性についての理解を

共通語の尊敬表現に限って、様々な敬意表現を整理するとしても、方言敬語を含む尊敬表現の多様性は、敬語の豊かさとして積極的に評価することが明示されるべきであろう。

広範囲な人々の交流がある現代社会では、各地の方言敬語を含む敬意表現の多様性についての理解が、各地域、各社会層に行き届いて、互いに受容し合えるようになることが望ましい。人々の多様化する社会の中での共生と、豊かな言語生活を図るためにも、多様性について理解を深める解説は不可欠と考えられる。

(2) 尊敬語の形式については、網羅的な標準の提示を

正しく使われていると思う人が多い誤用に、尊敬語の形式が正しくない「中村さんがお話しされたように」（72.6%）、「この電車には御乗車できません」（63.2%）や、尊敬語を使うべきところに謙讓語「申す」+尊敬語「れる」を使う「会長が申されたことに」（56.7%）がある。これらは、共通語の標準的な形式についての理解が不十分なための誤用である。

尊敬語は、人のこと、人に属する物事、人の行為や状態を言い表すのに用いる。人の行為や状態を言う尊敬語の形式は、尊敬語動詞形式、「お～になる」「お～なさる」「ご～くださる」などの形式、尊敬語助動詞形式など、敬意の度合いに応じて多彩である。平明簡素な言い方にしぼった「これからの敬語」のような提示では、理解が行き届かないと考えられる。現代社会の使用実態をふまえた網羅的な標準の提示が必要となろう。

(3) 「尊敬語は、他者の側を高めて言う敬語行動で使われる言葉である」ことの説明を審議経過報告には「尊敬語は、話題になっている人（多くは相手や相手側の人）を高めて言うときに用いられる言葉である」と説明されている。しかし、現実に運用するとなると、これだけの説明では不十分である。世論調査の分析結果から、尊敬語の選択能力や運用能力に関して問題点にあげられるのは、「〇〇さん、おりましたら御連絡下さい」「先生、こちらでお待ちしてください」「お客様が申されました」など、尊敬語を使うべき話題の人物に謙讓語を使う誤用、あるいは尊敬語を使わず丁寧語だけで済ませてしまう誤用である。これらは場面の人間関係把握と、それに応じた適切な運用について、理解が不十分なための誤用である。

その場面の自他（ウチ・ソト）の人間関係の把握に基づいた素材敬語（尊敬語・謙讓語）の使い分けについて理解を深める説明が必要と考えられる。自他の関係把握による具体的な用法を示した上で、「尊敬語は、他者の側を高めて言う敬語行動で使われる言葉である」ことの以下のような説明を加える必要があろう。

尊敬語の用法は、大きく分けて二つある。(A)話し手が友人である聞き手に「先生は明日いらっしやるそうだよ」と言ったときに使われている「先生」や「いらっしやる」である。これは話し手が話題にのぼった他者（先生）を高めて表現することによって、その場に居ない他者に敬意を表すものである。(B)話し手が聞き手に「映画を御覧になりますか」と言ったときに使われている「御覧になる」である。これは話し手が面と向かっている他者（聞き手）の行為「見る」を尊敬語「御覧になる」で高めて表現することによって、目の前に居る他者に敬意を表すものである。(B')話し手が聞き手に「こちらはお嬢様のお車ですか」と言ったときに使われている「お嬢様」や「お」である。これは話し手が面と向かっている他者（聞き手）の側に属する人（聞き手の娘）を尊敬語「お嬢様」で、また、その人の車に尊敬語「お」を付けて高めて言うことによって、他者の側の人に敬意を表すものである。(A)(B)(B')いずれの用法においても、尊敬語は、他者の側を高めて言う敬語行動で使わ

れる言葉である。

敬語使用の変化傾向として、(A)のように、その場に居ない話題の人物に尊敬語を使うことが少なくなりつつあることが指摘される。しかし、世論調査の結果によれば、(B) (B')のように目の前に居る他者や他者の側の人物に言及する場面では、尊敬語がよく使われている。現代社会の敬語の習慣として、目の前に居る他者に対しては尊敬語の使用が必要だからである。敬語をめぐる摩擦やトラブルが多いのも(B)の方である。それだけ人はどういふ尊敬表現で待遇されるかが気になるのである。

(4) 尊敬語の使い過ぎに注意喚起を

使い過ぎの誤りである二重尊敬の「どうぞおめしあがりください」「お客様はお帰りになされました」「先生がおっしゃられたように」「3時に御出発される予定です」などについては、世論調査によると気にならない人が多くなっている。また、それらの使用率は首都圏で2～3割程度である。しかし、共通語普及の発信地とも言うべき首都圏で比較的多いということは見過ごせない問題である。尊敬語の使い過ぎに注意を喚起する必要がある。

4. 謙讓表現の場面に応じた運用の指針について

(1) 謙讓語の形式については、網羅的な標準の提示を

世論調査によれば、謙讓語の形式の誤用である「(高校生が担任の先生に) あす父がまいります、お目に掛かっただけませんか」を、正しく使われていると思う人が4割以上にのぼる。また、目上の人と話す場面で謙讓語を使わない言い方をするのは、若い世代(男性10～20代、女性10代、学生)や、敬語が簡素な地域(東北・四国)で6～4割みられる。

これらは、謙讓語の形式について、国民の理解が不十分であることを示す結果である。

謙讓語は、人のこと、人に属する物事、人の行為や状態を言い表すのに用いる。人の行為や状態を言う謙讓語の形式は、謙讓語動詞形式が多彩であるだけでなく、「ご～申し上げる」「ご～いただく」「お～申す」「お～いたす」「お～願う」「お～する」などの形式も、敬意の度合いに応じて多彩である。また、これら多彩な謙讓語は、目上の人と話す改まった場面では世論調査全体で8～7割と使用率が高く、一概に衰退の傾向にあるという指摘は当たっていない。平明簡素な言い方にしぼった標準の提示では、理解が行き届かないと考えられる。現代社会の使用実態をふまえた網羅的な標準の提示が必要となろう。

(2) 「謙讓語は、自分の側を控えめに言う敬語行動で使われる言葉である」ことの説明

を

審議経過報告には「謙讓語は、話題になっている人（多くは自分や自分の側の人）を低めて言うことによって、話題になっているもう一方の人（多くは相手や相手側の人）を高める言葉である」と説明されている。謙讓語の運用能力を身に付けようとする人にとっては、やや分かりにくい説明である。謙讓語の運用では、話題の人物の相対関係において、行為者を低めて言うことによって、行為の受け手あるいは行為の及ぶ相手に敬意を表す、という複雑な操作を要する。それだけ対人的配慮の表し方が複雑で習得が難しいのである。

その場面の自他（ウチ・ソト）の人間関係の把握に基づいた素材敬語（尊敬語・謙讓語）の使い分けについて理解を深める説明が必要と考えられる。自他の関係把握による用法を示した上で、「謙讓語は、自分の側を控えめに言う敬語行動で使われる言葉である」ことの以下のような説明を加える必要がある。

謙讓語の用法は、大きく分けて三つある。(A)話し手が友人である聞き手に「母が先生に申し上げるそうだよ」と言ったときに使われている「母」や「申し上げる」である。これは話し手が自分の側の人である「お母さん」のことを謙讓語「母」で、その行為「言う」を謙讓語「申し上げる」で控えめに言うことによって、その行為の受け手である他者（先生）に敬意を表すものである。(B)話し手が聞き手に「お話を承ります」と言ったときに使われている「承る」である。これは話し手が自分の行為「聞く」を謙讓語「承る」で控えめに言うことによって、その行為の及ぶ相手である他者（聞き手）に敬意を表すものである。(C)話し手が聞き手に「夜分にお電話で恐縮ですが」と言ったときに使われている「お」である。これは話し手が自分からかけた「電話」に謙讓語「お」を付けて「お電話」と控えめに言うことによって、その電話の受け手である他者（聞き手）に敬意を表すものである。この「お」は他者が受け手になる物事に付ける謙讓語である。(A)(B)(C)いずれの用法においても、謙讓語は、自分の側を控えめに言う敬語行動で使われる言葉である。

(3) 謙讓語の美化語的用法「あげる」に注意喚起を

世論調査によれば、謙讓語の美化語的用法「あげる」の使用率は全体では35.8%であるが、性・世代・地域で差が大きく、女性(41.4%)、10代女性(71.4%)、[首都圏](51.4%)で使用率が高い。敬語の社会的・地域的な多様性として容認する方向も考えられる。しかし、「あげる」を謙讓語と考える規範意識を保っている方言敬語発達地域では、美化語的用法を不適切とする率が9～6割と高い。使用と規範意識に地域差・社会差が大きいことは見過ごせない問題である。謙讓語の美化語的用法「あげる」は、不適切と感じる地域や社会層もあるので、使う場面に配慮するよう注意を喚起する必要がある。

(4) 「さ入れことば」に注意喚起を

世論調査によれば、「きょうはこれで帰らせていただきます」（「帰らせていただき

ます」にさらに「さ」を入れた謙讓表現)などの「さ入れことば」については、気になる人が5～3割である。「～させていただきます」については気にならない人が9～8割であるのと比べると、許容されていないと言えよう。

へりくだり過ぎる謙讓表現の使用に注意を喚起する必要があるだろう。

5. 丁寧表現の場面に応じた運用の指針について

(1) 「丁寧語は話し相手に配慮した敬語行動で使われる敬語である」ことの説明を

世論調査によれば、「私は野菜を食べます」の丁寧語「ます」を敬語だとは思わない人が85.3%にのぼる。敬語は上下関係において使うものと狭く限定した意識を持つ人が多く、丁寧語のように対等な関係でも相手の気持ちや場面に配慮して使う対者敬語は、敬語とは意識されていない。広範囲な人々の交流がある現代社会では、話し相手に敬意を表す丁寧語「です・ます・ございます」は、円滑な人間関係を築くコミュニケーションのための必須の敬語と意識されるべきである。相手にていねいな気持ちを伝える場面の用法を示した上で、「丁寧語は話し相手に配慮した敬語行動で使われる敬語である」ことに理解を深める解説が必要となろう。

(2) 職域社会ではよく使われている丁寧語の見直しを

敬意表現の多様性に配慮するならば、あらたまった気持ちを伝える丁寧語も審議の対象にあげる必要があるだろう。例えば、「こちらでよろしいでしょうか?」と言う場合の「こちら」や「よろしい」などがある。謙讓語から転用されたものでは「(電車が)まいり(ます)」などがある。これらの丁寧語は場所柄や状況をわきまえて、あらたまった気持ちを伝えるとともに、その場の聞き手に敬意を表すものである。職域社会ではよく使われていて、特に接客・サービス業では必須の敬語とされている。具体的な敬意表現の標準を示す中で、取りあげることが必要となろう。

6. 敬意表現の教育への提言にあたって

○ 国語科でコミュニケーション能力を育てる敬語行動の教育を

審議経過報告「付1. 敬意表現の教育」の「(1)学校等における敬意表現の教育」は、学校教育の問題点を的確に把握した上で、敬意表現の選択能力・運用能力を触発・育成することを求めた重要な提言を行っている。この提言は、学校教育関係者、とりわけ国語科の先生に納得して受け止められる具体性を備える必要があるだろう。

現在、国語科教育が言語の教育として取り組むべき課題に、話し言葉による表現力や、円滑なコミュニケーション能力の育成ということがあげられている。言葉の機能の中でも、意思や情報を伝え合う伝達機能、さらに、伝え合うことによって他者との社会的なつながりを築く人間関係構築機能の面で、児童生徒の運用能力の育成を目指すものである。このような言語能力は、児童生徒の話し方や対人接触の実情を知る先生方からは危機的に不足していると指摘される。その危機感から指導の必要性が提唱されているが、国語科の先生の間で、話し言葉や話し方がもっとも指導しにくい項目として挙げられることも事実である。

従来の国語科教育では、敬語についても知識として教えることが中心で、人間関係を築く円滑なコミュニケーションのための運用能力の育成については不十分であった。敬語の知識はあっても、また、敬語習得の必要性は痛感していても、敬語を使うのは苦手と意識する生徒は少なくない。高校生を対象にした調査（文献3）で、敬語を使って話すのが苦手とする理由を尋ねたところ、「言葉は知っているが、場面に合った使い方がわからない」という回答がもっとも多かった。このような苦手意識を克服するには、国語科でコミュニケーション能力を育てることを目的とした敬語行動の教育を行うことが求められる。その内容は以下のことを考慮する必要がある。

人が敬語行動を実現するには、まず、その場面にかかわる人物の人間関係に配慮する。どんな立場の話し手が、どんな関係の聞き手に、どんな関係の人のことを話題にして話すかといった人物同士の人間関係である。また、その場面の状況や場所柄、話題にあがることからや伝える内容などにも配慮する。そうした配慮に基づいて、広範な言語表現や言語行動様式などの言語的要素、および非言語的要素の中から、その場面に最適と思う要素を選択する。選択した言語的要素の構成によって談話を組み立てていく。談話は参加者の相互作用によって常に再構成される。学校で敬語について指導するには、このようなプロセスで実現する言語行動であることをふまえて、その各段階に配慮して、コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育を設計しなければならない。その学習内容は人に対する配慮の及ぶ敬意表現を広く見渡した上で精選する必要がある。また、意思や情報を適切に伝達し、良好な人間関係を築くという目的に沿って、言語行動を最適化するプロセスを学習するのであるから、対人接触能力・対人認知能力などを含めた言語能力の育成も考慮する必要がある。

世論調査でも、学校で教えるための、敬語の基準が必要だと思う人は54.1%にのぼる。運用能力の育成を目的とするなら、その基準は、対人的な配慮に基づくコミュニケーション行動である敬語行動レベルの基準が求められる。

7. おわりに

日本語の敬語は煩雑すぎるのではないかというので、昭和 27 年の国語審議会建議「これからの敬語」では簡素化の方向が示された。しかし、現実の社会での敬語は簡素化の方向に進まなかった。国立国語研究所が昭和 27 年・47 年と 20 年間隔で地域社会の敬語を調査した結果（文献 4）によれば、改まった場面ではよりていねいに、くだけた場面ではよりぞんざいにと、使い分けの幅が広がる傾向が指摘される。多様化する社会生活の中で、敬語が複雑化するのとは当然のことである。世論調査（H 8 調査 Q 9 (1)～(5)）の結果によれば、一般には使い過ぎの誤りとされる二重尊敬「お召し上がりになりますか」「おっしゃられますか」が、首都圏で 3～2 割の使用率であることも複雑化の方向の一端であろう。

敬語の選択能力や運用能力を身に付けようとするときに、壁となるのは敬語の表現形式の多彩さと使い分けのルールの複雑さであろう。今期の審議では、国民の一人一人が「敬意表現の選択能力や運用能力を身に付け、それを適切に用いていく」ための助けとなる指針が求められている。そのためには国民各層の敬語使用や規範意識の多様性に配慮した審議が行われ、だれにも分かりやすく、納得できる指針が示されることが重要となろう。そのためには、国民各層の敬語使用や敬語意識における問題の所在を明らかにした上で、具体的な敬意表現の標準や、場面に応じた運用の指針が検討される必要がある。また、その標準や指針は、人々の多様化する社会の中での共生と、豊かな言語生活を図るためのモデルとなることが求められる。

文献一覧

1. 吉岡泰夫「敬語行動と規範意識」国立国語研究所報告 110 『研究報告集』16, 平成 7 年 3 月
2. 吉岡泰夫「敬語行動と規範意識の地域差」『言語』26-6, 平成 9 年 6 月
3. 吉岡泰夫「フォーマル・コミュニケーションの壁：若者の談話行動」『言語』19-8, 平成 2 年 8 月
4. 国立国語研究所『敬語と敬語意識：岡崎における 20 年前との比較』, 昭和 58 年 3 月
(吉岡泰夫)

第2節 「異体字についての印象」に関して

1. はじめに

「国語に関する世論調査」の、H10調査Q17の「異体字についての印象」に次のような質問がある。

H10調査Q17

この中の(1)から(12)の漢字について、あなたは、ふだん、(a)と(b)のどちらの形を見掛けることが多いと思いますか。(1)から(12)のそれぞれについて聞く)

- | | |
|-----------------|------------------|
| (1)うさぎ(兔/兎) | (2)だえん(楕円/橢円) |
| (3)めん(麵/麵) | (4)あふれる(溢れる/溢れる) |
| (5)みそ(味噌/味噌) | (6)ぼうとく(冒瀆/冒瀆) |
| (7)へそ(臍/臍) | (8)あめ(飴/飴) |
| (9)きゅうしゃ(廐舎/厩舎) | (10)きとう(祈禱/祈禱) |
| (11)さかだる(酒樽/酒樽) | (12)うかい(迂回/迂回) |

この質問に対する回答に現れた国民の意識と、凸版印刷株式会社(以下、凸版印刷)で印刷された書籍で使用されている字体の使用頻度(文献1, 2)とを比較してみると、数値に開きがある。

この節では、世論調査と凸版印刷の頻度調査との間で、数値に差が発生した原因について解釈を試み、両者の数値には異なる意義が存在し、その中間及び周辺には、人間をとりまく文字使用環境に関するさまざまな現象が存在していることを明らかにしたい。

以下、上記の2つの漢字頻度調査を、それぞれを区別する際には、凸版頻度調査A、凸版頻度調査Bとする。

2. 世論調査の回答が、凸版頻度調査と異なる原因

多く見掛けると思う字体についての世論調査の結果は、印刷書籍で使用されている字体の頻度調査の成果(文献1, 2)と比べると、数値に相違が見られるものがあった。

この数値の開きが発生する理由について、調査項目「めん a. 麵(旧)/b. 麵(新)」における「麵(旧)一麵(新)」を例に取り、その解釈を試みる。それとともに、世論調査の回答の背景やそれに関する広がりをおさえながら、その位置付けを試みる。

「麵(旧)一麵(新)」に関しては、次のような結果を示した。なお、世論調査の百分比の合計が100にならないのは、半々ぐらい見掛ける、両方とも余り見掛けない、分からないという回答があったためである。

表 1. 世論調査と凸版調査の比較 (数値は%)

	麵 (旧)	麵 (新)
世論調査	24.5	: 61.8
凸版頻度調査A	96.5	: 3.5
凸版頻度調査B	78.0	: 22.0

凸版頻度調査がAとBとで数値が異なるのは、経年的な変化のほかに、主にBにおける単行本での「麵 (新)」の使用数の多さが影響しているようである。雑誌でも「麵 (新)」の比率が「麵 (旧)」に迫っているが、用例数が少ない。以下、この世論調査と両凸版頻度調査との数値の開きについて、その理由を考察する。

(1) 世論調査の位置

「国語に関する世論調査」は、新規の調査項目を空前の規模で質問した画期的な調査であり、2度の頻度調査も史上最大規模の調査である。前者は、印刷字だけでなく、手書き字を含む意識を尋ねるものとなっている。両者は、国民の個人レベルでの意識における字体に対する客観的な印象をとらえたものと、さまざまな母集団を有する社会的な文字集合における字体の使用頻度の一つを把握したものであり、図1のように位置付けられると考えられる。

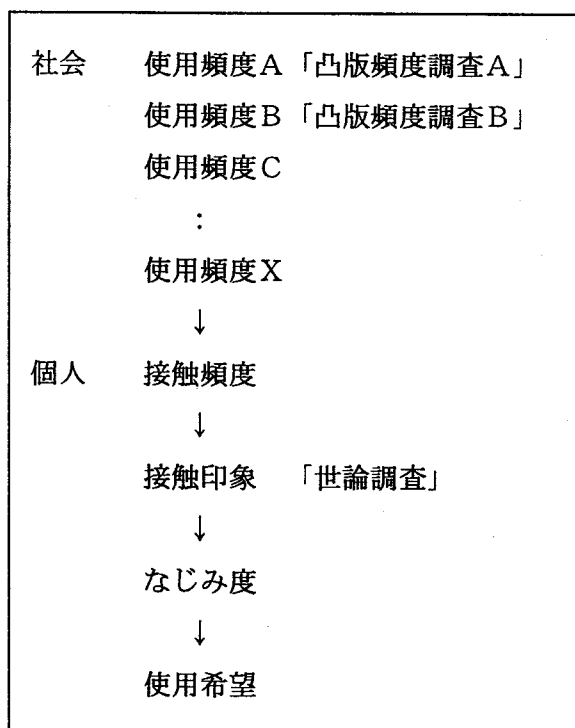


図 1. 世論調査と関連が深いと考えられる諸要因

(2) 両字体の量的側面

(a) 使用頻度

実社会における媒体別の使用頻度データを表2に示す。

表2. 両字体の「使用頻度」の媒体別比較（数値は%と実数。以下，%は，小数点以下を四捨五入）

	%		実数（回）	
	麵(旧)	麵(新)	麵(旧)	麵(新)
読売新聞	100	0	108	0
凸版印刷書籍（A）	96	4	245	9
凸版印刷書籍（B）	78	22	149	42
カップめん	38	62	11	18
朝日新聞	0	100	0	50

凸版印刷の書籍（凸版頻度調査A）では，名簿では両字体とも頻度は0である。

ここでカップめんとあるのは，文献3によるものであり，その包装は印刷物であるが，手書き風の字をも含んでいる。

『読売新聞』の頻度は，文献2による数値である。『朝日新聞』の頻度は，朝日新聞の漢字字体に対する調査（文献4）のデータに，字体調査などに基づく補訂を加えたものである。

『朝日新聞』の文字データによる紙面頻度は，両字体を合わせて48であったが，そのほかに紙面上に確認できたものが2例あり，それを追加した。

なお，文献5によると，新聞では，「麵（旧）」を使う新聞社が33社，一方，「麵（新）」を使う新聞社が38社である。

以上のように，媒体によって，使用する字体がまちまちであることが分かる。

(b) 接触頻度

上記の使用頻度は，実際に人々の目に触れている頻度，つまり接触頻度とは違いがあることが分かっている。女子学生を対象とした調査（文献6）から，ここでは印刷字体であることが明らかなものに限った集計を，表3に媒体別に示す。

テレビとパソコンは数が少ないが，これに印刷字体であったと思われるものと手書き字体とを足すと，テレビでは「麵（旧）—麵（新）」は1%対15%，パソコンでは同じく0%対12%となり，ほとんど傾向は変わらない。

表3. 両字体の「接触頻度」の媒体別比較（数値は%と実数（回数））

	%		実数（回）	
	麵(旧)	麵(新)	麵(旧)	麵(新)
書籍	92	8	47	4
看板	75	25	6	2
めん類の包装	57	43	104	80
新聞	54	46	26	22
雑誌	50	50	43	43
チラシ	30	70	37	88
メニュー	29	71	2	5
テレビ	0	100	0	2
パソコン	0	100	0	9
ほか				
合計	51	49	290	275

たしかに、書籍では「麵（旧）」がほとんどである。しかし、媒体によって、実際に人が目にする印刷字体もまちまちであり、合計するとほぼ拮抗している。手書き字をも含めると旧字体と新字体の割合が46%対54%と逆転する。

(c) 接触印象アンケート

同様の傾向は、接触印象（主観頻度）に関するアンケート（平成11年7月 日本の社会人男女17人（23～65歳）、同年9月・10月 日本人女子学生87人、計104人 笹原実施）にも現れている。これは、世論調査と異なり、単字のペアを、読みを与えずに呈示して、それを見らると思う方を選んでもらい、その場面や文字列について記述してもらったものである。世論調査の回答者が、どのような意識を持って回答したのかについての一つの手掛かりとなると思われる。それらの記述によると、新字体、旧字体を問わず、「ラーメン屋で見た」というものが最も多く、ほかに「めん類の袋・容器」や「めん類の名前」などがあつたが、読書時に見たという回答はほとんど見られなかった。この字は、読書以外の生活の場面で目にしている印象が強いことがわかる。これらが、各個人の意識に影響し、世論調査の数値につながっていると考えられる。

(d) なじみ度

人は、字体になじみ（心理学用語では親密度：familiarity）を感じることもある。日本人女子学生がどの字体になじみを感じるのかを実証的に究明するために、263組の異体字ペアを呈示した先行研究がある（文献7，8）。そこでは、次のような教示が与えられた。

「これから字の形は違いますが、読みと意味がまったく同じ漢字のペアをお見せします。たとえば「断」と「斷」は、同じ読みで同じ意味の漢字のペアです。あなたは、どちらの字になじみを感じるか判断し、よりなじみを感じる方の字に○をつけてください。」

この調査で得られた結果のうち、「麵（旧）－麵（新）」の異体字ペアについての数値を表4に示す。

表4. 両字体の「なじみ度」の比較（数値は%と実数（人数））

%		実数（人）	
麵（旧）	麵（新）	麵（旧）	麵（新）
15	85	15	83

(e) 使用希望

次に、複数の字体が存在するときに、人はいずれかの字体を使いたいと思うことがある。その字体とは、いかなるものかを探るために、日本人女子大学生に次のような教示を与えて263組の異体字ペアに関する調査を行った（文献7，8）。

「これから字の形は違いますが、読みと意味がまったく同じ漢字のペアをお見せします。たとえば「断」と「斷」は、同じ読みで同じ意味の漢字のペアです。あなたがワープロを打っているとしたら、どちらの字を使いたいか、教えてください。より使いたいと思う方の字に○をつけてください。」

この調査で得られた結果のうち、「麵（旧）－麵（新）」の異体字ペアについての数値を表5に示す。調査の教示においては、ワープロで漢字を使用する場面を想像して回答するように求めたため、手書きする際の書記労力などは、回答に影響していない。

表5. 両字体の「使用希望」の比較（数値は%と実数（人数））

%		実数（人）	
麵（旧）	麵（新）	麵（旧）	麵（新）
15	85	13	72

表4と表5とを比較すると、使用希望（好み度）となじみ度の数値がほぼ一致することが分かる。これらは、接触頻度や接触印象にもまして、「麵（新）」に数値が偏っている。その理由としては、後述するように解字すなわち字の構造の分析が容易な「麵（新）」の方に、なじみや好みを感じられるためだとも考えられる。

（3） 両字体の質的側面

両字の属性は、ともに常用漢字表外字である。その関係は、「康熙字典」体（いわゆる旧字体）：新字体（「拡張新字体」）とされる。字体差の大きさからみると、字体差が大きい異体字ペアといえる。字体差のある要素の属性を取り出すと、常用漢字表内字体「麦」：表外字体「麥」となる。

この字は、義務教育の国語科において新出漢字として学習することのない漢字である。そのため、世の中での使用実態が個々人に影響を与えていると考えられる。なお、構成要素から見ると、学習した漢字からの類推が働く字体は「麵（新）」である。後述の70歳代以降は、構成要素の「麦」は、「麥」で学習した世代である。

以下、現代の媒体ごとに、その実態を記述する。

まず、学校教科書（文部省検定済み）では、JCS（符号化文字集合）委員会や笹原の調査によると、「麵（旧）」の方が使用されている。

国語辞典でも、尚学図書『日本国語大辞典』，見坊豪紀ほか『三省堂国語辞典』（第3版，平成2年）などで「麵（旧）」のみであるが，JIS漢字に対応するものには「麵（新）」が併記されている。

漢和辞典も，諸橋轍次『大漢和辞典』，上田万年ほか『大字典』（16刷，昭和52年）などでは「麵（旧）」しか載せていないが，JIS漢字対応の漢和辞典には「麵（新）」も多く俗字，通用字体などと注記のうえ，収録されている。

日本工業規格（『JIS X 0208』，昭和53年初版，昭和58年以後改正）では，初版に「麵（旧）」のみが掲出された。その字体は，昭和58年の改正により，「麵（新）」に改められ，「JIS X 0212」（補助漢字，平成2年）では，「麵（旧）」が改めて採用された。これらは，国際規格（ISO）にも登録されている。これらの字体は，平成9年の改正により，「互換規準」によって「包摂」されており，ともに第1水準で表現されるものとされた（文献9）。さらに，「JIS X 0213」（第3水準・第4水準 平成12年）では，「麵（新）」が第1水準，「麵（旧）」が第3水準とされた。この経緯をまとめると，表6のようになる。

表6. JIS漢字における両字体の変遷

昭和53年	麵 (旧)	第1水準	掲出字体
昭和58年	麵 (新)	第1水準	掲出字体の変更
平成2年	麵 (旧)	補助漢字	追加
平成9年	麵 (旧) 麵 (新)	第1水準	互換規準
平成12年	麵 (新)	第1水準	
"	麵 (旧)	第3水準	追加

JIS漢字で掲出字体が変更された影響を受けて、メインフレームの外字に「麵 (旧)」ないし「麵 (新)」が作られているケースがある。

次に、字の用法の面から見ると、普通名詞と商品名としての使用例がほとんどであり、他の地名や人名などの固有名詞にはほとんど使用されていない。姓（『NTTハローページ』，文献10など）に、「素麵 (新)」(そうめん)と「素麵 (旧だが來は夾)」(そうめん)があるが、これらは、本人への照会を行った文献11に「素麵 (旧)」とあるように、戸籍では「麵 (旧)」とあるものか。ただし、法務省による文献12では、JIS規格に従って「麵 (旧) — 麵 (新)」が挙げられており、「麵 (旧)」を「麵 (新)」に「更正」できるとされている。新聞については先に述べたとおりである。

以上をまとめると、表7のようになる。○は存在が確認できたことを、△は存在しているが数が少ないこと、—は存在が確認できなかったことを示す。

表7. 両字体の採用実態のジャンル別比較

	麵 (旧)	麵 (新)
教科書	○	—
国語辞典	○	△
漢和辞典	○	△
新聞	△	△
J I S	△	○
固有名詞	○	○
法務省通達	○	○
メインフレーム外字	○	○

(4) 両字体の歴史

両方の字体の、終戦直後までの概括的な歴史をとらえておく。実際の字形では、「麦」「麥」が繞(にょう)ではなく偏のようになっているものがあるが、ここでは繞の形で示す。

まず、『康熙字典』で音義などの注が付けられた見出し字は、「麵(旧)」である。明朝体活字でも、文献13によると、「麵(旧)」のみであったが、昭和21年の朝日新聞活字に「麵(新)」が現れる。実際に、その明朝体活字で「麵(新)」が使用されていた(文献14)。なお、この字は、いずれの字体でも「当用漢字表」には採用されていない。

手書きでは、「麵(旧)」(『倭名類聚抄』元和3年古活字版、「來」の部分は「夾」)よりも「麵(新)」が使用されたことが、『書道大字典』(崩し字)、『宋元以来俗字譜』(文化書房影印、「麦」が「丨」からそのまま「ノ」につながる)、山田美妙『豎琴草紙』(手稿本、明治18年 文献15)、『漢字要覧』(国語調査委員会、明治41年 文献16、「麵」(新)を「麵」(旧)と誤植)などによってわかる。

戦前の漢字に関する施策案としては、戦前の国語審議会「標準漢字表」(昭和17年 文献16)において、「準標準漢字」として「麵(新) (麵(旧))」と掲げられ、「麵(新)」が「一般ニ使用セラルベキ」「簡易字体」とされた。

以上の歴史をまとめると、表8のようになる。○△—の意味については、前述参照。
表8. 両字体の歴史

	麵(旧)	麵(新)
「康熙字典」	○	—
明朝体活字	○	△
手書き	△	○
戦前施策案	○	○

以上の経緯は、高年齢層に影響を与えている可能性がある。男女ともに、「麵(旧)」と回答した率が最も高いのは、70歳代以降(男性29%、女性36%)である。

なお、現代の明朝体活字やワープロフォントなどにおける字体は、旧字体(正字体)と新字体(拡張新字体)とが使われている(文献10・17)。凸版印刷のシステムでは、標準変換の一つで「麵(新)」が出るとされるが、使用頻度では「麵(旧)」が高くなっている(前述)。

「表外漢字字体表試案」(文献18)では、「麵(旧)」が「印刷標準字体」とされ、「麵(新)」は「簡易慣用字体」となっていないが、第22期国語審議会において、引き続き検討されている。

(5) まとめ

以上の点をまとめ、冒頭に示した図1に実際の数値を加えると、次のようになる。

なお、なじみ度などのデータに近づけるように、図2の世論調査の結果を16~19歳の女性に限定すると「麵(旧)ー麵(新)」は31%対48%、20~29歳の女性とすると同じく31%対53%となり、接触頻度に数値が近づく。合計が100にならないことについては、前述参照。

			麵(旧)	麵(新)
社会	使用頻度A	「読売新聞」	100	0
	使用頻度B	「凸版頻度調査A」	96	4
	使用頻度C	「凸版頻度調査B」	78	22
	使用頻度D	「カップめん」	38	62
	使用頻度E	「朝日新聞」	0	100
:				
	使用頻度X			
↓				
個人	接触頻度 (印刷字体のみ)		51	49
	接触頻度 (手書きを含む)		46	54
↓				
	接触印象	「世論調査」	25	62
↓				
	なじみ度		15	85
↓				
	使用希望		15	85

図2. 両字体の印象をめぐる説明モデル (数値は%)

個人の意識における数値の変化を見ると、個人の意識内では、上段から下段にかけてその程度が極端化していくことがうかがえる。また、調査における選択肢の数など、調査方法に違いがあることも反映している可能性がある。

結論として、世論調査と凸版頻度調査との間で、数値に差が生じた原因は次のようにまとめられよう。

- ・凸版印刷の書籍は、社会的な性質の高い印刷媒体の一つであった。
- ・世論調査で質問したものは、さまざまな媒体からの接触や類推などによって形成され

た個々人の意識であった。

そのさまざまな媒体の中には、書籍だけでなく、ワープロ画面や食品の包装、手書きされた看板やチラシなども含まれるのであり、さらに既知の字からの解字、類推などの心的な働きも加わっているようである。

図1と図2で示したモデルからは、永い目で見ると、施策によってある方針が決まれば、それが社会的な使用頻度に影響を及ぼし、それがさらに個々人の接触頻度、なじみ、好みへと投影していくことが読みとれる。

念のために付け加えるならば、ここで取りあげた例は、使用頻度（凸版頻度調査）と接触印象（世論調査）の結果の方向性が一致しないものであるが、両者の方向性が一致するものも少なくない。若者を対象にした一連の「使用希望調査」の結果（文献7・8・19）によれば、ワープロやパソコンで常用漢字表外字を表示、印字する場合、新字体よりも旧字体を使用したいと答える人も存在する。

例えば、「灌（旧）－灌（新）」のペアのうちいずれを使いたいかを20代女性100名程度に尋ねると、85%が旧字体の「灌（旧）」を選択し、新字体の使用を希望するのは少数派である。これと同様に、旧字体の使用希望が新字体よりも高い異体字ペアには、以下のようなものがあつた。

「頸（旧）－頸（新）」 「籠（旧）－籠（新）」 「壺（旧）－壺（新）」
「檜（旧）－桧（新）」 「鶯（旧）－鶯（新）」 「賤（旧）－賤（新）」
「葛（旧）－葛（新）」 「鷗（旧）－鷗（新）」 「摺（旧）－摺（新）」
「祇（旧）－祇（新）」 「榊（旧）－榊（新）」 「剥（旧）－剥（新）」

一方、新字体の支持率が旧字体のそれよりも明らかに高い異体字ペアは、「麵（旧）－麵（新）」などの例を除けば、各種メディアに登場する頻度の低い字がほとんどである。

同じような結果は「なじみ度調査」においても見られ、使用頻度の高い旧字体になじみを感じる国民が少なくないことを示している。

3. おわりに

以上、世論調査の数値と凸版頻度調査の数値の差異の生じた原因に関して、「麵（旧）－麵（新）」を例に取って解釈を試みた。本稿では、さまざまなデータを使用したものの、いずれも凸版頻度調査や世論調査に相当する大規模な調査結果に基づくものではなかった。

今後、より確実な論拠を得るためには、そうした規模の大きく、かつ全国的な実態調査を実施し、各種の基礎データを十分に踏まえた調査研究を進めることが必要であると考えられる。

文献一覧

1. 文化庁文化語課『漢字出現頻度数調査』，平成9年
2. —————『漢字出現頻度数調査（2）』，平成12年
3. 伊藤英俊「カップめんの文字使用調査」国語施策懇談会，平成10年
4. 横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング『新聞電子メディアの漢字 朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表』（国立国語研究所プロジェクト選書1），平成10年，三省堂
5. 日本新聞協会「表外字字体調査」，平成11年
6. 笹原宏之「漢字字体に対する大学生の接触頻度」『計量国語学』22-2，平成11年
7. ———・横山詔一「異体字選択に影響する要因」『計量国語学』21-7，平成10年
8. ———・—————・野崎浩成「異体字に対する「好み」と「なじみ」の相関関係」，統計数理研究所シンポジウム予稿集，平成10年
9. 日本規格協会『7ビット及び8ビットの2バイト情報交換用符号化漢字集合 JIS X 0208：1997』，平成9年，日本規格協会
10. 芝野耕司編『JIS漢字字典』，平成9年，日本規格協会
11. 竹之内信男『珍姓・難訓姓読み方実例集』，平成10年，私家版
12. 法務省「氏又は名の記載に用いる文字の取扱いに関する整理通達」「別表2」，平成10年
13. 文化庁文化語課『明朝体活字字形一覧』，平成11年，大蔵省印刷局
14. 朝日新聞社新聞用語改善委員会『新聞用語研究』20，昭和23年9月25日
15. 山田俊治・十重田裕一・笹原宏之『豎琴草紙 本文の研究』，平成12年，笠間書院
16. 文化庁文化語課『漢字字体資料集 諸案集成I』，平成8年
17. —————『字体・字形差一覧』，平成9年
18. 文化庁『第21期国語審議会 新しい時代に応じた国語施策について（審議経過報告）』，平成10年
19. 横山詔一・笹原宏之「文字・図形の認知 一字体と感性一」『日本語学』，平成11年8月

（笹原宏之・横山詔一）

第3節 国際化時代の日本語に関する問い

第1項 外来語の認知度

1. はじめに

「国語に関する世論調査」の H8, H9, H10 調査では、それぞれ8つの外来語について、それを見たり聞いたりしたことがあるか、さらにその語の意味が分かるか、という観点からの同様の調査が行なわれている。ここでは、この3回の調査で尋ねられた24語についてまとめて分析する。さらに、H10 調査のみに設けられた、外来語と和語・漢語とではどちらがわかりやすいか、という質問に対する回答についても言及する。

2. 接触率と理解率

H8 調査Q20

H9 調査Q23, H10 調査Q18 もほぼ同文。

あなたは、ここに挙げた(1)から(8)の言葉を聞いたこと、または見たことがありますか。
(見たことがあると答えた者に) それでは、その言葉の意味が分かりますか。

各調査における調査語

H8 調査Q20 (1)スタンバイ (2)ボランティア (3)アイデンティティー (4)パドック
(5)マスカラ (6)ブティック (7)バーチャル・リアリティー (8)インフォームド・コンセント
H9 調査Q23 (1)アイテム (2)ディベート (3)エコロジー (4)ボーダーレス (5)Tゾーン
(6)JA (7)ISDN (8)ODA
H10 調査Q18 (1)ストレス (2)カジュアル (3)コミュニケーション (4)アスリート
(5)リテラシー (6)インターネット (7)アメニティー (8)オンブズマン

まず、全体的特徴として、見たり聞いたりする割合（以下「接触率」）やその意味が理解されている割合（以下「理解率」）は、語によりさまざまであり（図1参照）、また回答者の属性によっても接触率や理解率に差のあることがわかる（第4節参照）。

*ここでの「接触率」は、世論調査で、その語を「見たり聞いたりしたことがあるか」という問いに、「ある」と答えた人の割合を言う。また、「理解率」とは、「その言葉の意味が分かりますか」という問いに、「分かる」と答えた人の割合を言う。

(1) 調査語の特徴

各調査語の接触率と理解率を表した図1から言えることは次のようなことである。

- ① 接触率と理解率の順位はほぼ対応していると思われるが、Tゾーンやパドックなどいくつかの例外も認められる。

- ② 接触率が、7.9 (リテラシー) から 99.5 (ボランティア) までほぼまんべんなく散らばっているのに対し、理解率は、70.9 (マスカラ) より上位のグループと、39.1 (エコロジー) より以下のグループに二分されている。
- ③ ②と関連して、接触率と理解率の差は、一般に、理解率の高いものでは小さく、逆に低いものでは大きくなる傾向にある (接触率上位語では、8割~9割の理解率を有するが、下位語では約5割の理解率に止まる)。つまり、ある程度の接触率にならないと理解率がそれに対応して増加しないことがわかる。ただし、これは調査語に由来した偶然の現象かもしれない、調査語を増やして検討する必要がある。

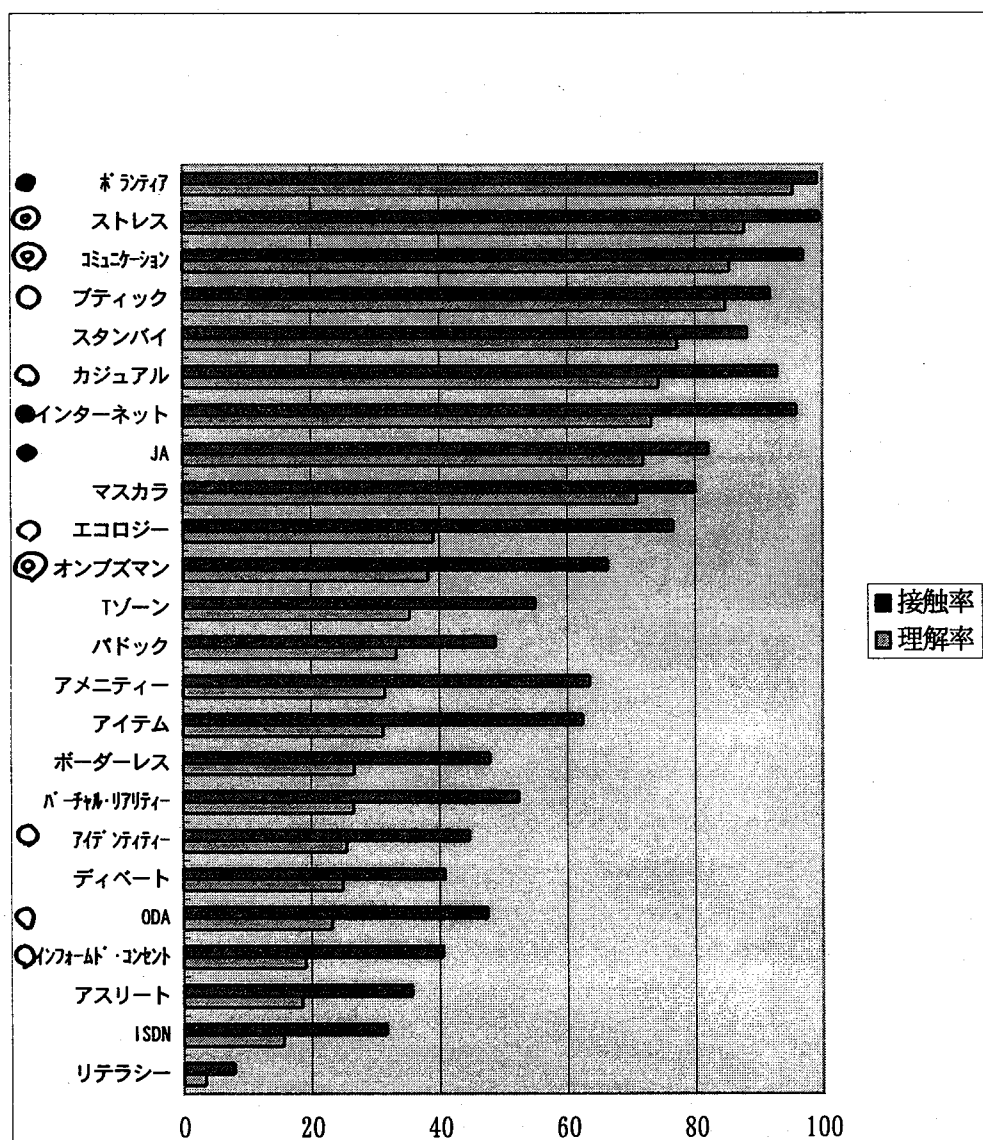


図1. 外来語の接触率と理解率 (理解率順) (H8, H9, H10 調査, 横軸は%)
電子記事データベース出現数 (1984年8月~1999年11月, 単位は回)

<凡例>

- 10,000~ ◎ 5,000~9,999 ○ 1,000~4,999 無印 0~999

以上のような傾向を考慮しながら、個々の調査語を検討してみる。なお、語の接触率を見る際に、その語がどの程度新聞記事に出現しているかを参考にするのが便利である。朝日新聞社が提供している電子記事データベース（以下、データベース）を用いて、それぞれの語の出現数を分析の参考にする。なお、検索対象記事は1984年8月から1999年11月までのものである。

前ページの図1に示したデータベース出現頻度の凡例により、接触率の高い語は一般的にデータベース頻度も高く、逆に接触率の低い語はデータベース頻度も低いことがわかる。ただし、この中で、データベース頻度の極めて少ないスタンバイ（データベース出現頻度131）が上位にあるのは、これがもっぱら話し言葉として使われているためであろう。またそれほど出現数の高くないブティック（1,798）やカジュアル（1,368）が上位にあるのも、より日常生活に密着した言葉として流布していることが原因と思われる。一方、中位から下位の語の例外となっている、オンブズマン（7,018）、ODA（4,226）、アイデンティティ（2,308）、インフォームド・コンセント（1,073）などは、日常生活とは縁の薄い行政レベルの用語であったり、抽象的な概念であったりすることが分かりにくさや記憶の負担となっているようで、頻度の割には接触率や理解率が低いという結果になっている。

（2）回答者の属性による特徴

調査語24語を全体的に見ると、回答者の年齢と職業によって回答に差が出ているものがほとんどであり、また性差を反映したのも一部ある。（第4節参照）

① 年齢差

一般に、20代から30代をピークに、歳を増すにつれ接触率・理解率ともに下降する。例えば、スタンバイの場合は以下のようなものである。

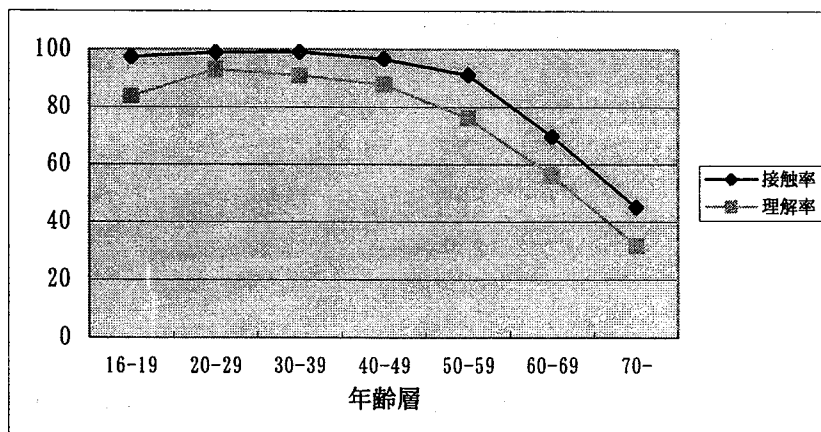


図2. 「スタンバイ」の接触率・理解率（縦軸は%，横軸は年齢層）

この一般的傾向の例外となっているのは、ボランティア、ストレス、インフォームド・

コンセント、ODA、オンブズマンである。前二者は極めて高い接触率・理解率によるものであろう。一方、残りの語については、若い世代でもなじみが薄いためと思われる。

② 職業差

ほとんどの調査語に関して、「農林漁業」従事者に低接触率・低理解率が見られ、無職中の「その他の無職」がそれに次ぐ。この両者が職業的有意差をもたらす主要因と思われる。「スタンバイ」を例に取ってみる。

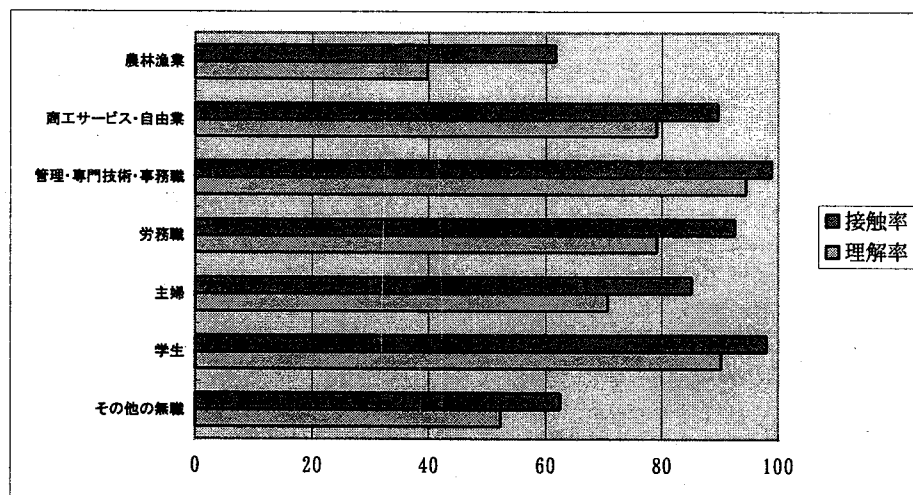


図3. 「スタンバイ」の接触率・理解率（職業別，横軸は%）

職業差と関りの薄い例外的な語として、ボランティア、ストレス、インフォームド・コンセント、JA がある。前三者は「年齢差」と同様の理由であろうし、JA については、まさに農林漁業従事者に関係の深い語であるため差が出なかったと思われる。

③ 性差

性差と関わるものは少ないが、相関の強かった、パドック、マスカラ、Tゾーン、ODA の4語についての接触率・理解率は以下の通りである（単位は%）。

表1. 接触率・理解率の性差

	男性		女性	
	接触率	理解率	接触率	理解率
パドック	60.7	46.4	38.9	22.2
マスカラ	66.9	52.1	91.1	86.6
Tゾーン	43.4	22.6	64.6	45.9
ODA	57.1	34.1	39.1	14.3

前三者はそれぞれの性に密着した語として当然の結果と思われるが、ODA に関しては、30 歳以上において性差が顕著であり、この分野での関りや関心の違いが反映されている。

なお、ODAについては、データベース頻度が比較的高かったにもかかわらず（出現数 4,226で上位から7位）理解率が下位から5番目にあるのは、30歳以上の女性によるものである。

3. 外来語か和語・漢語か

H10 調査では、同じ意味でカタカナ語と和語・漢語（訳語も含まれる）が併用されている8つのペアを取り上げ、Q20「どちらが分かりやすいか」とQ21「どちらに親しみを持つか」という観点からの調査がなされている。

H10 調査

Q20 ここに挙げた(1)~(8)で、(a)の言葉と(b)の言葉は同じ意味で使われますが、あなたは、(a)と(b)ではどちらの方が意味が分かりやすいと思いますか。
 (1)a.必要性/b.ニーズ (2)a.催し/b.イベント (3)a.利点/b.メリット
 (4)a.合意/b.コンセンサス (5)a.計画/b.スキーム (6)a.危険性/b.リスク
 (7)a.展望/b.ビジョン (8)a.説明責任/b.アカウンタビリティ
 Q21 それでは、(a)と(b)ではどちらの方が親しみやすい言葉だと感じますか。

両者の結果は非常に類似しているため、ここでは、Q20のみ取り上げ考察をする。ただし、調査語が少ないこと、意味の対応が必ずしも一対一ではないことなどは考察の際に考慮しなければならない。

(1) 調査語の特徴

まず、結果は以下の通りである。外来語（カタカナ語）について、その率の高い順に並べている。数値を見るに当たって注意しなければならないことは、これがあくまでも「どちらが分かりやすいか」という、比較的・相対的な値だということである（単位は%）。

表2. 外来語か漢語・和語か

1	メリット	54.2	利点	30.7
2	イベント	51.2	催し	33.0
3	リスク	27.5	危険性	56.0
4	ビジョン	24.7	展望	60.7
5	ニーズ	24.2	必要性	62.8
6	コンセンサス	6.8	合意	86.7
7	アカウンタビリティ	2.3	説明責任	88.0
8	スキーム	2.0	計画	94.1

この8つのペアは、太線で区分したように、1, 2/3, 4, 5/6, 7, 8という、3つのグループに分けられる。

- ① 外来語の方が50%強のポイントを獲得し、和語・漢語をしのぐもの：1, 2
- ② ①とは逆に、和語・漢語の方が60%前後を獲得したもの：3, 4, 5
- ③ 外来語の方が極端に低いポイントのもの：6, 7, 8

①の外来語2語は、定着したと言えるであろう。イベントについては、別の調査でもこれを支持する声が圧倒的に高かった（文献1）。②の外来語3語は、とりわけ管理・専門技術職でポイントが高く、和語・漢語と拮抗した状態であるが、一般にはまだ浸透していないと見るべきであろう。③の3語は、外来語に最も強い管理・技術職でも低く、圧倒的に和語・漢語が優勢である。出現が比較的新しいことにくわえて、抽象的な意味の語であることや、語形の長いことも影響していると思われる。

(2) 回答者の属性による特徴

①年齢差

前節の24語調査と同様に、一般には、30代あたりに外来語支持のピークがあり、年齢を増すごとに下降する。必要性/ニーズのペアの場合は図4の通りである。

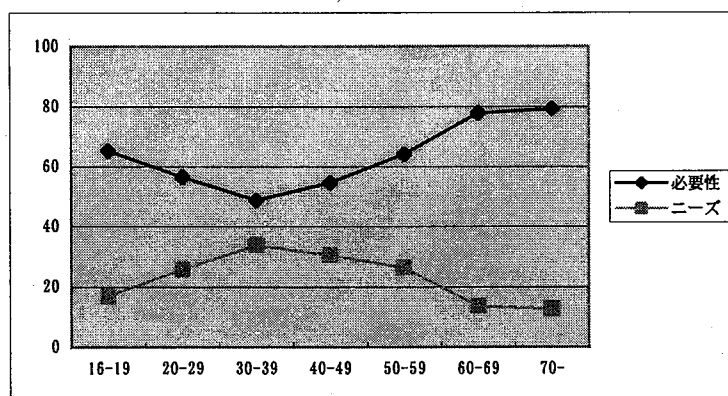


図4. 「ニーズ」か「必要性」か（縦軸は％，横軸は年齢層）

② 職業差

前節24語調査と同様に、農林漁業従事者や「その他」の無職で外来語支持が低く、管理・専門技術職で外来語支持が高いという結果である。

③ 性差

調査語8語全てについて、外来語を支持する割合は男性の方が高いが、とくに、ニーズ、コンセンサス、リスク、ビジョンなどでは顕著な差がある。日常生活用語ではなく、職場（ビジネス）場面や行政レベルで用いられていることがその大きな要因であろう。

4. おわりに

外来語は現代日本語の中で大きな役割を果たしていることは疑いないが、一方、外来語のために意思疎通が困難な場合も生じている。現に、H8調査Q21によれば、「外来語（カ

タカナ語)の意味がわからなくて困ることがあるか」という質問に対し、「よくある」または「時々ある」と答えた人は54.6%に上っている。本節では、この内情を探るための分析を行なったのであるが、その結果、外来語の認知度は、語により、回答者の属性により、多様であることがわかった。

ここで得られた教訓は、国民一般が知るべき事柄については、外来語使用に慎重な配慮が要るということであろう。今後とも、このような外来語関連調査を継続・発展させ、それをもとにして、その時々に応じた適切な判断が求められると思われる。

文献一覧

1. 陣内正敬『「役所カタカナ語」意識調査』文部省科研報告書，平成11年3月

(陣内正敬)

第2項 日本語とコミュニケーション

1. はじめに

人が言葉のことを考えるとき、

- ・自分は表現のどこに注意を払っているかなど、自分が使う言葉について（自意識）
- ・人のどのような表現に注意がいくかなど、他者が使う言葉について（現状認識）
- ・自分の中にある母語や他の言語についての規範について（規範意識）

の三つの観点がある。自意識や現状認識は、日常生活や職務遂行で見られる。しかし、日本語を国際社会に広めるとき、あるいは日本語が広まっていくとき、日本人にとって規範意識も重要となる。例えば、英語が世界中の人に使用されるようになったとき、英国を母語とする人たちは、母語話者と非母語話者の英語とコミュニケーションを、何らかの態度をもってとらえてきた。

現在、社会の国際化による日本語使用の拡大は、日本語学習（平成11年7月1日時点で、116か国・地域、国際交流基金調査）という形で示されている。日本人は、国際社会に広まりつつある日本語及び言語コミュニケーションをどのように見ているのであろうか。

世論調査で行われた国際化時代の日本語に関する問いは、S52調査Q21・Q22、H4調査Q6、H7調査Q12～Q17、H8調査Q20・Q21、H9調査Q23、H10調査Q18～Q22である。これらのうち、国際化時代の日本語に関する質問が多かったH7調査結果に特に焦点を当てて、日本語力とコミュニケーションについて考察する。

2. 日本人の日本語と教育について

H7Q2の七つの質問のうち、6つの質問への回答をしてみる。Q2-2の「学校における国語の教育の充実」についての質問、Q2-3の「国が日本語の正しさや美しさの保持に努めること」についての質問、Q2-4の「国が国民の意識が高まるように努めること」のいずれの質問においても、「そう思う」の回答が約3分の2を占めている。Q2-6の「新聞や放送などの自覚」に関しては、圧倒的多数の人が、その自覚の必要性を求めている。

一方、Q2-7の「言葉は時代とともに変わるものであり、自然に任せた方がよい」の質問では、「そうは思わない」という回答がほぼ半数あり、Q2-5の「国が言葉遣い

についてゆるやかな基準を示すこと」の質問への回答は、賛否が46.5%と40.2%という結果となっている。「自然に任せた方がよい」と「国が言葉遣いのゆるやかな基準を示す」の2つは賛否が分かれるところであるが、ほか3つの質問に関しては、大部分の人が賛成していると言える。

「そう思う」「そうは思わない」

H7Q2-2 「学校における国語の教育をより充実させることが必要だ」 についてあなたはどう思いますか。	65.6%	23.0%
H7Q2-3 「国が日本語の正しさや美しさの保持に努めることが必要だ」についてあなたはどう思いますか。	71.5%	19.8%
H7Q2-4 「国は言葉遣いの大切さについて、国民の意識が高まるように努めることが必要だ」についてあなたはどう思いますか。	67.8%	22.1%
H7Q2-5 「国が言葉遣い（例えば敬語など）についてゆるやかな基準を示すことが必要だ」についてあなたはどう思いますか。	46.5%	40.2%
H7Q2-6 「新聞や放送などは、そこでの言葉遣いが子供などに与える影響を自覚することが必要だ」	88.4%	7.6%
H7Q2-7 「言葉は時代とともに変わるものであり、自然に任せた方がよい」についてあなたはどう思いますか。	38.7%	48.6%

これら6つの質問の回答を総括的に見ると、「日本語は時代とともに変わるものであるが、自然に任せるではなく、国は言葉遣いの基準などを示すことより、国民が日本語の正しさと美しさを保持するように日本語に関する意識を高めることに努め、国民の日本語力の向上のために学校での教育を充実させる必要がある。新聞や放送などは、社会に与える影響を自覚する必要がある」ということになる。

3. 外国人の日本語と日本人の日本語について

H7Q13の「外国人の話す日本語」に関する質問では、「どんな日本語でもかまわない」「多少変な日本語でもかまわない」の回答が4分の3以上を占める。しかし、H7Q14-2の「外国人が日本語を話せるようになるための教育を重視するべきである」については、「そう思う」と答えた人が約35%いる。また、Q14-2で「そうは思わない」と答えた人が約47%いるが、H7Q14-4の「日本に来た外国人は、日本語を話せるように努力するべきである」の質問に、約60%の人が「そう思う」と答えている。

H7Q13 「外国人の話す日本語は、どのような日本語が望ましいと思いますか。」		
外国人であっても、日本人と変わらない日本語を話すべきである。		12.7%
外国人だから、意思が通じさえすれば、多少変な日本語でもかまわない。		58.6%
外国人だから、意思が通じさえすれば、どんな日本語でもかまわない。		24.2%

「そう思う」「そうは思わない」

H7Q14-1 「外国人が日本語を話せるようになるための教育を重視するべきである。」	35.5%	47.2%
H7Q14-2 「日本人が外国語を話せるようになるための教育を重視するべきである。」	67.5%	21.3%

「そう思う」「そうは思わない」

H7Q14-1 「外国人が日本語を話せるようになるための教育を重視するべきである。」	35.5%	47.2%
H7Q14-2 「日本人が外国語を話せるようになるための教育を重視するべきである。」	67.5%	21.3%
H7Q14-3 「日本人が日本語を正しく使えるようになるための教育を重視するべきである。」	80.6%	12.7%
H7Q14-4 「日本に来た外国人は、日本語を話せるように努力するべきである。」	59.8%	27.7%

2 で見た H7Q2-2~7 と合わせて考えると、外国人の日本語については、外国語としてとらえて、日本人とのコミュニケーション（意思疎通）を図ることに視点があり、日本人の日本語については、母国の言葉として正しさや美しさなどの規範的な視点に立ってとらえていることが言える。

さらに、「外国人の話す日本語は、意思の疎通さえできれば、どんな日本語でもかまわない」「多少変な日本語でもかまわない」と答えた人のうち、「国が言葉遣いのゆるやかな基準を示すことが必要」に「そう思う」と答えている人は、半分以下である。

H7Q13 ①外国人であっても、日本人と変わらない日本語を話すべきである。		
②外国人だから、意思が通じさえすれば、多少変な日本語でもかまわない。		
③外国人だから、意思が通じさえすれば、どんな日本語でもかまわない。		
H7Q2-5 「国が言葉遣い（例えば敬語など）についてゆるやかな基準を示すことが必要だ」		
①に賛成で、かつ「そう思う」	53%	①に賛成で、かつ「そうは思わない」 35%

②に賛成で、かつ「そう思う」	47%	②に賛成で、かつ「そうは思わない」	41%
③賛成で、かつ「そう思う」	43%	③に賛成で、かつ「そうは思わない」	46%

4. 日本語の国際化について

H7 Q15「日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張すべき」という質問に「そう思う」が約42%、「そうは思わない」が約30%である。この約30%の人が、必ずしも「主張すべきではない」という意味で回答しているとは限らない。

「そう思う」「そうは思わない」

H7Q15「日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張すべきである」についてあなたはどのように思いますか。 42.0% 30.1%

2のH7 Q2と3のH7 Q14の回答と合わせてみると、「日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張する」前に、日本人の日本語や外国語の力の育成を重視し、その結果として「そう思わない」と答えた可能性がうかがえる。つまり、国際社会での日本人の英語等外国語によるコミュニケーション力というのが優先し、「日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張する」ことを否定したわけではないと考えられる。

H7 Q14-1「外国人が日本語を話せるようになるための教育を重視すべきである」に「そう思う」と答えた人（35.5%）の、H7 Q14-2「日本人が外国語を話せるようになるための教育を重視すべきである」での回答は、以下のとおりである。日本人と外国人間の意思疎通に、外国人の日本語教育を求める人にも、日本人の外国語教育を求める人が多い。

H7 Q14-2「日本人が外国語を話せるようになるための教育を重視すべきである」

「そう思う」	49.7%
「そうは思わない」	39.3%

5. おわりに

以下に、まとめを述べる。

(1) 言葉の教育と基準は密接な関係にあるにもかかわらず、言葉とその教育を重視

する人は多いが、基準には否定的な態度を示す人が多い。

(2) 「外国人が日本語を話せるようになるための教育を重視すべきである」の質問への否定的な回答の中には、日本人の言葉の問題を重視したという優先性からの回答が含まれている。

(3) 日本人と外国人双方に言葉の習得を求めている。特に、日本人の日本語と外国語についての問題認識がうかがえる。ただし、回答者の属性により回答に差異が見られるが、外国人との意思疎通という視点が加わってきたことは明瞭である。

(4) 約30%の人が外国人に対する日本語教育を重要視しているが、約60%の人が日本人の日本語力や外国語の力の育成を重視している。

(5) 日本語に対する言語意識は、外国人にはコミュニケーション重視の態度が、日本人には規範的な態度が見られる。

(柳澤好昭)

第3項 国際化にかかわる言葉意識の年齢特性

1. はじめに

「国語に関する世論調査」には、日本語や外国語についての意識や、姓名のローマ字表記についての意識を尋ねた問いがある。ここでは、それらの問いに対する回答を年齢差に注目して分析することを通じ、国際化にかかわる日本人の言葉意識の年齢特性について、その一端を明らかにすることとしたい。

2. 日本語や外国語についての意識

(1) 国際化と日本語にかかわる問題への関心や要望

H4調査のQ1で国語について関心があると答えた人を対象に、SQで国語のどのような点に関心があるかを尋ねた。

H4調査Q1SQ

では、国語のどのような点に関心がありますか。この中から3つまであげてください。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| (ア) 言葉の意味・由来や国語の歴史 | (イ) 日常の言葉づかいや話し方 |
| (ウ) 発音やアクセント | (エ) 文字や表記の仕方あるいは文章の書き方 |
| (オ) 敬語のつかい方 | (カ) 新語・流行語 |
| (キ) 外来語・外国語のつかい方 | (ク) 共通語や方言 |
| (ケ) ワープロなどの情報機器が国語に与える影響 | (コ) 国際化が国語に与える影響 |
| (サ) 国語の教育や国語に関する施策 | |

ここで「(コ) 国際化が国語に与える影響」を挙げた人の割合を年齢層別に見ると、20代では8.5%、以下30代5.8%、40代6.7%、50代6.1%、60歳以上3.7%と、おおむね若年層ほど挙げた人の割合が高かった(図1)。また、同調査のQ8で、国語の将来を考えて国や社会に望むことを尋ねた結果(10選択肢のうち三つまで選択)、「外国人に対する日本語の紹介や教育を充実させる」を挙げた人を年齢層別に見ると、20代では10.6%、以下30代7.3%、40代6.4%、50代5.6%、60歳以上4.4%と、若年層ほど割合が高かった(図2)。

両選択肢とも全体としての選択率は低く、国民全体の中では、日本語と国際化の関係に関心を寄せる人や、日本語を外国人に紹介・教育することを要望する人は多いとは言えないものの、若年層の方が選択率が高いという傾向ははっきりと読み取ることができる。

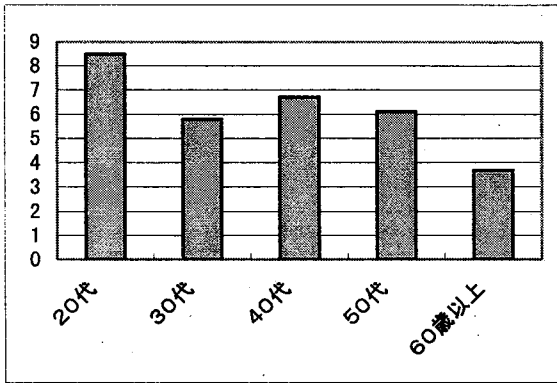


図1. 国際化が国語に与える影響に対する関心 (縦軸は%)

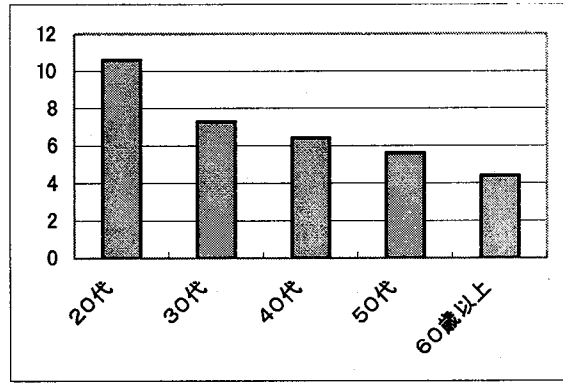


図2. 外国人に対する日本語紹介・教育の充実の要望 (縦軸は%)

(2) 日本語と外国語の教育や使用などに関する意識

H7 調査Q14

ここに挙げた(1)から(6)の日本語や外国語に関する意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。

この間で、以下の五つの意見に対して「そう思う」と答えた人の割合は次のとおりである。

A. 日本人が日本語を正しく使えるようになるための教育を重視すべきだ	80.6%
B. 日本人が外国語を話せるようになるための教育を重視すべきだ	67.5%
C. 外国人が日本語を話せるようになるための教育を重視すべきだ	35.5%

D. 日本人も外国に行くときはその国の言葉を話すよう努力すべきだ	80.1%
E. 日本に来た外国人は日本語を話すよう努力すべきだ	59.8%

以下、これらの回答に表れた年齢差について考察する。

(a) 日本語の教育を重視すべきか、外国語の教育を重視すべきか

上記A, B, Cについて、「そう思う」と答えた人の割合を年齢層別に見ると、図3のようになる。このグラフから、高年層は若年層に比べ、日本人及び外国人について、日本語の能力を付けるための教育を重視する人の割合が若干高く、日本人の外国語教育を重視する人の割合が若干低いことが分かる。

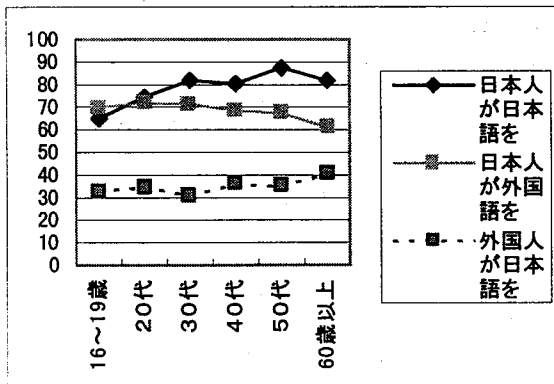


図3. 言語教育の重視支持率 (縦軸は%)

これを図2と併せ見ると、高年層は若年層に比べ、国語の将来を考えて「外国人に対する日本語の紹介や教育を充実させる」ことを要望する人の割合は若干低い、「外国人が日本語を話

せるようになるための教育を重視すべきだ」と思う人の割合は若干高いということになる。

(b) 外国に行ったらその国の言葉を使うべきか

上記D, Eについて年齢層別に見ると、図4, 5のようになる。

これらのグラフから、各年齢層とも、日本人も外国へ行ったらその国の言葉を、外国人も日本に来たら日本語を話すよう努力すべきだと思える人が、そうは思わない人を上回っている。

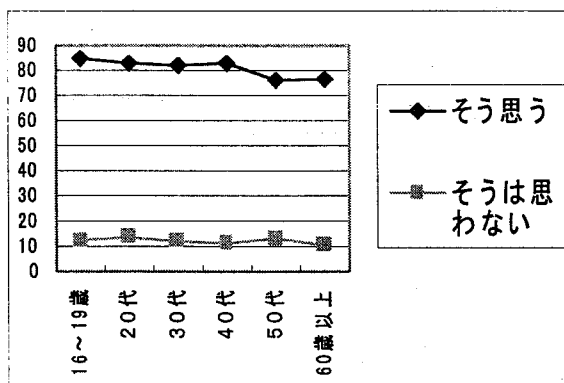


図4. 日本人も外国ではその国の言葉を使うべきか (縦軸は%)

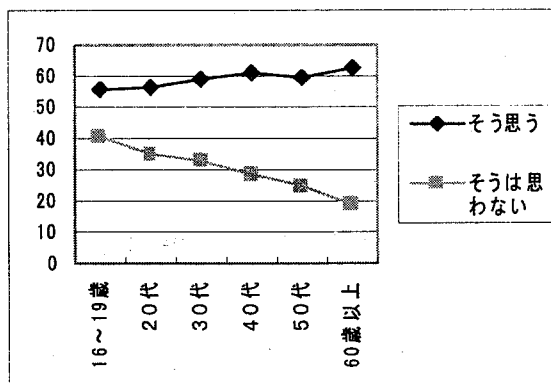


図5. 日本に来た外国人は日本語を話すべきか (縦軸は%)

るが、若年層では日本に来た外国人に日本語使用を求めない人の割合が比較的高いことが分かる。また50代以上の高年層では、日本人が外国でその国の言葉話すための努力をすべきだという意見に対して、やや消極的な傾向がうかがえる。これらのことは、H7調査Q12のSQ2とSQ3で、高年層の方が、国内で外国人に話し掛けられた時に「主に日本語で応じた」と答えた人や、もし外国人に話し掛けられたら「日本語で応じる」と答えた人の割合が高かったこととも関連しているであろう。

(c) 国際化にかかわるその他の調査項目から

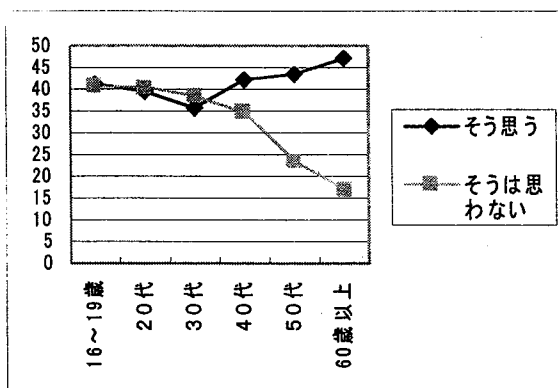


図6. 国際機関や国際会議などでの日本語使用を主張すべきだと思うか (H7 Q15) (縦軸は%)

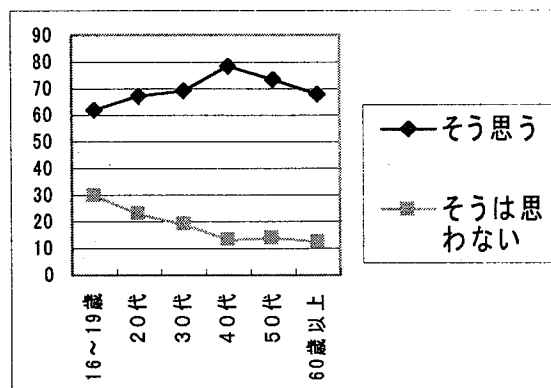


図7. アジアの言語にもっと関心を持つべきだと思うか (H7 Q14) (縦軸は%)

前ページの図6からは、国際機関や国際会議などの場でもっと日本語が使われるように主張すべきだという意見に対し、おおむね高年層になるほど「そう思う」という人の割合が高く、「そうは思わない」という人の割合が低いことが分かる。

図7からは、アジア言語重視の意識は40代を中心として全体的に高いが、若年層では「そうは思わない」がやや高く、アジアの言語に対してやや関心の低い傾向がうかがえる。

(3) 日本語や外国語についての意識に表れた年齢特性

以上の諸項目に表れた、日本語や外国語に関する意識の傾向を、年齢層に着目した相対的な比較としてまとめると、次のようになる。

- ① 若年層の方が、国際化が国語に与える影響に対する関心が高い。また、若年層の方が、外国人に対する日本語の紹介や教育を充実させることを望む人の割合が高いが、日本に来る外国人に日本語を話すことを求めない傾向が強い。
- ② 高年層の方が、日本人が日本語の能力を付けることを重視するとともに、外国人にも日本語を使うことを求める傾向が強く、国際機関や国際会議などでも日本語の使用を求める意識を持つ人の割合が高い。
- ③ アジアの言語に関心を持つべきだという意識を持つ人の割合は40代で高く、「そうは思わない」人の割合は若年層で比較的高い。

3. 姓名のローマ字表記についての意識

(1) 問題の所在と世論調査における設問

日本人の姓名をローマ字で表記する場合、「名姓」の順とすることが多い。これは、本来の日本人の姓名を逆転させて欧米式に直しているもので、明治期の欧化主義の時代に定着した慣習であると言われる。第20期国語審議会の審議経過報告(H7.11)は、「姓名をローマ字表記する場合、姓と名のどちらを先にするか、という問題については、今後、各方面で十分議論されることが必要である。」として、「これまでのような名を先にする習慣を是とする意見」と「これまでの習慣を見直すべきであるという意見」の双方について、主な論点を紹介している。

「国語に関する世論調査」では、H7調査とH10調査で日本人の姓名のローマ字表記の問題が扱われ、この問題に対する国民の意識が明らかになっている。ここでは、両調査の回答の集計結果を比較し、特に回答に表れた年齢差に焦点を当てて分析を加えることとする。両調査の問い文と選択肢は以下のとおりである。

H7調査Q17

あなたは、外国で使うためにローマ字書きの名刺を作る場合、その名刺には、御自分の姓と名のどちらを先に書くべきだと思いますか。

- (ア) 姓を先にする (イ) 名を先にする

H10調査Q22

英文の新聞や雑誌の中で、中国人や韓国人の名前は自国での呼び名と同じ「姓-名」の順で書かれることが多いのに、日本人の場合、例えば山田花子はHanako Yamadaのように、「名-姓」の順で書かれるのが普通です。しかし、近ごろでは、日本人の名前は「姓-名」の順なので、英文の中でも逆にするのはおかしいという意見も聞かれます。あなたは、このことについてどう考えますか。この中から、あなたの考えに近いものを選んでください。

- (ア) 日本人の名前は「姓-名」の順なのであり、英文の中でも「姓-名」の順で通すべきだと思う
(イ) 英文の中では英語圏の習慣に従って、日本人の名前でも「名-姓」の順に直すのがよいと思う
(ウ) どちらとも言えない

(2) H7, H10両調査の結果

H7調査では「姓名」支持24.6%、「名姓」支持62.3%、「どちらとも言えない」が5.5%、H10調査では「姓名」支持34.9%、「名姓」支持30.6%、「どちらとも言えない」が29.6%となった。これをまとめたのが図8である。

図8から分かるように、H10調査の回答では、H7調査に比べ、「名姓」支持がほぼ半減し、「姓名」支持が10ポイント増となって「名姓」支持を上回った。ただし、「どちらとも言えない」が5倍以上となり、3割を占めた。(H7調査では「どちらとも言えない」を選択肢としては立てず、(ア)か(イ)かと尋ねて「どちらとも言えない」と答えた人を集計したもので

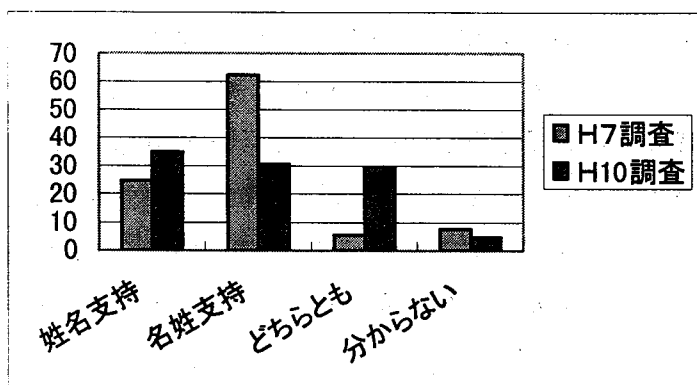


図8. H7, H10両調査の結果 (縦軸は%)

あり、H10調査では(ウ)として「どちらとも言えない」を立てているので、両年度の回答の比較には注意を要する。) この結果は以下のように分析できよう。すなわち、H7調査で「名姓」の割合が高かったのは、基本的に、従来の慣習を単純に反映した回答であったためであると思われる。H10調査では、問い文の中で回答者が予備知識を与えられ、「名姓」「姓名」両様の方式があり得ることや、自国の慣習とは逆に「名姓」の順に直すことが世界共通の約束事ではないことを意識した上で、各自の判断を下したものと考えられる。更に言えば、H7調査の問いにおける「外国で使うために」という限定が、外国人に合わせようとする意識を生んだことも推測さ

れ、また、7年度と10年度の間の3年間におけるこの問題に対する国民の意識の若干の変化が、両年度の数値の差に結び付いていると考えることもできよう。

以上のことから、姓名のローマ字表記について、隣国の情報などもある程度踏まえて考えた場合、「姓名」支持、「名姓」支持、「どちらとも言えない」の三者が拮抗するというのが、最近の国民の意識の現状だと言うことができるであろう。

(3) 回答に表れた年齢差

次に、両調査を通じて顕著に表れた、回答の年齢差について分析を加える。

前記集計を年齢層別に分けてまとめると表1のようになる。

表1. 姓名のローマ字表記についての意識——年齢層別の集計——（数値は%）

		16～19	20代	30代	40代	50代	60歳～	全体
姓名支持	H 7	16.0	16.2	21.7	28.5	25.1	29.4	24.6
	H10	16.9	26.8	27.6	35.5	39.0	44.2	34.9
名姓支持	H 7	80.2	77.3	70.9	63.2	58.8	45.2	62.3
	H10	46.8	38.4	35.0	30.2	28.0	22.7	30.6
どちらとも 言えない	H 7	1.5	3.6	4.5	4.9	6.6	8.1	5.5
	H10	35.5	32.1	35.5	31.2	28.0	23.5	29.6

まず、両年度とも若年層ほど「名姓」の順を支持する割合が高く、高年層ほど「姓名」の順を支持する割合が高い。H7調査においては、特に16～19歳及び20代で「名姓」支持が8割前後と圧倒的に高く、「姓名」支持は10%台半ばと低くなっている。

表2は、両年度における「名姓」支持と「姓名」支持の割合の差（「名姓」支持から「姓名」支持を引いた値）を年齢層別に見たものである。H7調査については、各年齢層とも「名姓」支持の割合が高いが、「姓名」支持との差は年齢が上がるに従って縮まることが分かる。また、H10調査については、30代と40代の間で「名姓」支持と「姓名」支持の優劣が逆転し、若年層又は高年層になるほど両者の差が広がることが読み取れる。

表2. 年齢層別に見た「名姓」支持と「姓名」支持の割合の差（数値はポイント）

		16～19	20代	30代	40代	50代	60歳～	全体
H 7	名姓－姓名	64.2	61.1	49.2	34.7	33.7	15.8	37.7
H10	名姓－姓名	29.9	11.6	7.4	- 5.3	-11.0	-21.5	- 4.3

先の表1を見ると、16～19歳ではH10調査の問いで隣国の情報などが与えられた場合、「名姓」支持はH7調査の値からほぼ半減するものの、「姓名」支持はほとんど増えず、その分は「どちらとも言えない」に回った計算になる（20代では、H10調査で「姓名」支持が10ポイント増える）。「どちらとも言えない」と答えた人の割合は、H7調査においては高年層ほど高

く、H10調査においてはおおむね若年層ほど高い。すなわち、H7調査の問い方では高年層の方が態度を決めかねる割合が高くなり、H10調査の問い方では若年層の方が態度を決めかねる割合が高くなることになる。

この理由としては、高年層では、「名姓」が有力な現状においてその慣習にやや疑問を持っている人の割合が若年層よりも高く、したがって「姓名」の順とすることに対する抵抗感が若年層よりも少ないこと、反対に、若年層では「名姓」の形になじみを持ち、「姓名」の順に抵抗感が強いことが考えられる。若年層の意識形成には、英語の授業における自己紹介の学習や、英語教材の中で使用される形式の頻度、また若者が多く接するメディアにおける使用頻度の影響などが想定できよう。

4. 国際化にかかわる日本人の言葉意識の年齢特性

以上の考察を通して、国際化にかかわる日本人の言葉意識には、年齢層による特徴的な傾向が指摘できることが明らかとなった。その傾向は、次のように大きくまとめられる。

- ① 若年層は開放的・積極的な態度で国際化に臨むが、その視野には限定的な面もうかがえる。
- ② 高年層は、外国人や国際社会に対して日本の習慣や日本語使用を主張していこうとする姿勢が強い。

上記の若年層の意識傾向における、国際化に臨む開放的ないし積極的な態度と限定的な視野との両側面を、要素的に示すと以下のようなものである。

①国際化に臨む開放的ないし積極的な態度

- ・国語の将来を考えるに際して、「国際化」の観点や外国人も視野に入れる。
- ・日本人が外国語を使うことに対して積極的である。
- ・日本語ができない外国人を受け入れる姿勢を持つ。
- ・姓名のローマ字表記に際して、本来の日本人の姓名の型にこだわらない。

②国際化についての限定的な視野

- ・アジア言語に対する関心が低い。
- ・姓名のローマ字表記に対する意識には学校教育の影響も想定し得る。

これに対し、高年層に見られる、外国人や国際社会に対して日本の習慣や日本語使用を主張していこうとする姿勢を、「国際化に臨む閉鎖的ないし消極的な態度」「外国人や国際社会に、日本に合わせることを求める意識」「日本人としてのアイデンティティー重視の意識」の3側面に分けて、要素的に示すと以下のようなものである。

①国際化に臨む閉鎖的ないし消極的な態度

- ・国語の将来を考えるに際して、「国際化」の観点や外国人を視野に入れない。
- ・日本人が外国語を使うことに対して消極的である。

②外国人や国際社会に、日本に合わせることを求める意識

- ・日本に来る外国人に日本語使用を求める意識が強い。
- ・国際機関や国際会議などで日本語使用を求める意識が強い。

③日本人としてのアイデンティティー重視の意識

- ・日本人が日本語の能力を高めることを重視する。
- ・姓名のローマ字表記において、日本人名本来の形式である「姓名」の順を支持する。

5. おわりに

以上のように、本項では国際化にかかわる日本人の言葉意識について、その年齢層による相対的な傾向を析出してみた。年齢層によって特徴的に認められるこれらの意識の傾向を、国際社会の現状に照らしてどう評価するかについては別途論じられる必要があるが、大きくは、いやおうなく押し寄せるグローバル化の波に対応するために、若年層、高年層のそれぞれに見られる特性を止揚した、主体的かつ柔軟な意識が求められると言えるであろう。

なお、ここでその一端が浮き彫りになったように、様々な問題に対する国民の意識は層別に把握できる幾つもの傾向を内包した複合体としてとらえられるものである。したがって、国際化にかかわる日本人の言葉意識の全体像を描き出すためには、本節の他項で述べられている観点も含め、様々な切り口から国民各層における意識を分析・把握し、それらを総合的にとらえていくことが必要であろう。

(野村敏夫)

第4節 「多様性」から見た調査結果の分析

1. 「多様性」のある項目とは

「国語に関する世論調査」は、調査時の日本で生活する人々の日本語に関する感じ方などについての平均的な姿を見るために、無作為に選ばれた回答者から回答を得ている。回答者に関する情報としては、都道府県（47区分、以下（ ）内数字は区分数を表す）・地域（9）・都市規模（5）・性（2）・年齢（7）・職業（13）についての質問をしており、このような情報を回答者の属性という。各質問項目に対する「全体」の回答傾向は、その調査における平均的な回答を表している。その「全体」の回答は、回答者の属性による多様性の少ない回答である可能性と、何らかの属性による多様性を持つ回答である可能性がある。ここでは、後者の何らかの属性による多様性を持つ項目に焦点を当てている。つまり、ある回答が全国において多数派の回答であったとしても、その回答は、ある地域あるいは、ある年代などによっては、多数派の回答ではない、という項目が少なからず存在していることを指摘しておくことを目的としている。そのような項目のことを「多様性」のある項目、と呼ぶことにしたい。

2. 「多様性」のある項目を探す方法

多様性のある項目は、言いかえると回答者の属性のいずれかによって、回答の傾向が説明できる項目ということが一つの観点となる。ここでは、1. で示した回答者の属性に関する六つの情報のいずれかが、「国語に関する世論調査」の各質問項目において回答傾向を説明する力を、統計的手法・CATDAP01（坂元慶行，統計数理研究所）を用いて算出した。

3. 「多様性」の現れ方

(1) どの属性による「多様性」が多いか

H7調査からH10調査の調査項目において、回答者のいずれかの属性が「説明力」を持つ場合、どのパターンが多いかについて示す。「説明力」は2. で示した統計的手法で得られた結果を、仮に以下の5段階で表すことにする。

0：説明力を持たない／1：やや説明力を持つ／2：説明力を持つ／

3：かなり説明力を持つ／4：きわめて説明力を持つ

大きな説明力を持つ（3：かなり説明力を持つ・4：きわめて説明力を持つ）属性があることが分かった項目について、調査年度ごとにまとめたものが表1。表1から、まずH7調査からH10調査の全項目において、回答者の属性が説明力を持たない項目がほとんどないことが分かる。「大きな説明力を持つ」項目も少なくない。これらが、「多様性」を非常に多く含む項目ということになる。

表1. 当該の属性が説明力の高い（3+4）項目数とすべての属性に説明力がない項目数と全項目数における百分比（百分比は（ ）内数字で表した項目数を百としたもの）

調査年度 (項目数)	都道府県	地域	都市規模	性	年齢	職業	回答者の属性 説明力なし
H7調査(73)	0(0)	2(2.7)	0(0)	1(1.4)	25(34.2)	18(24.7)	2(2.7)
H8調査(163)	7(4.3)	6(3.7)	0(0)	8(4.9)	23(14.1)	20(12.3)	17(10.4)
H9調査(91)	1(1.1)	1(1.1)	0(0)	4(4.4)	20(22.2)	19(20.9)	1(1.1)
H10調査(156)	0(0)	0(0)	0(0)	44(28.2)	77(49.4)	74(47.4)	4(2.6)

表1から、「年齢」と「職業」という属性がもっとも「多様性」に強く関わり、ついで「性」、場合によって「都道府県」「地域」が関わっていることが分かる。「都市規模」は大きな説明力を持たなかった。また、H10調査は「性」にかかわる項目が他の年度に比べ多いが、既婚者男女別に質問した配偶者の呼び方に関する項目を含むことによっている（その項目を除くと「性」に関する項目は2項目(1.3%)）。性差については、男女の言葉遣いに違いがなくなってきたことを質問として取り上げ、そのことをどう思うかという質問がなされている。

H7調査Q7

男女の言葉遣いに違いがなくなってきたと言われますが、このことについて、あなたのお考えに最も近いもの一つを選んでください。

- (ア) 違いがない方がよい (イ) 自然の流れであり、やむをえない
(ウ) 違いがある方がよい

「自然の流れであり、やむをえない」 41.2%

「違いがある方がよい」 44.1%

男女差がなくなってきたことに対して、4割が「やむをえない」としているが、「性」が大きな説明力を持つ項目があるということは、言葉遣いにおいて男女差の存在は否定されないことが分かる。

(2)「多様性」のパターン

「多様性」を作り出す属性は、回答者の六つの属性において等しい重みを持っているわけでない。ここでは、強い説明力を持つ属性同士の組み合わせについて検討する。組み合わせのパターンは、次の通り。

①四つの属性によって説明されるパターン

都道府県・地域・性・職業／都道府県・地域・年齢・職業／地域・性・年齢・職業

②三つの属性によって説明されるパターン

都道府県・地域・性／都道府県・性・職業／地域・性・職業／性・年齢・職業

③二つの属性によって説明されるパターン

都道府県・地域／都道府県・年齢／都道府県・職業／性・職業／年齢・職業

④一つの属性によって説明されるパターン

都道府県／地域／性／年齢／職業

このうち、もっとも該当する項目数が多いパターンは、④「年齢」と③「年齢・職業」である。「年齢・職業」というパターンが多い理由として、「年齢」の要因が強い項目は、若い世代には学生が多いことからセットとしてパターンに現れた、ということが考えられる。ここから、「年齢」という要因がもっとも大きな多様性を形成するパターンであることが推測できる。

(3)「社会方言社会」への移行

「多様性」を持つ項目とは、裏を返せば、いずれかの属性に偏りを持つ項目ということになる。表1にカウントされた項目は、地域差に基づく地域方言、年齢差・職業差・性差に基づく社会方言の存在を示したものと見える。そこから推測されることは、地域による偏りを示す地域方言的な多様性よりも、「年齢」・「職業」・「性」による偏りを示す社会方言的な多様性をより示していることが分かる。「国語に関する世論調査」の調査項目が「共通語」的な設問が多いということをおもいとして、地域方言から社会方言社会への移行、という実態の一端を示したものと見える。

以下では、まず、表1にカウントされた項目のうち、いくつかのトピックごとに述べていく。ただし、3.(2)から、もっとも多く項目において観察される「多様性」は「年齢」によるもので、「若年層」対「中高年層」という構造は、ほぼ調査項目全体に観察されるものであるため、ここでは詳述しない。「年齢・職業」が強い説明力を持つ項目についても、「職業」が「年齢」と平行的に現れたものが多いと考え、「年齢」と同様にここでは詳述しない。

さらに、2. で述べた CATDAP01 による解析の結果、回答者の属性としてあげた六つの観点以外にも、別途「多様性」を含むことを示唆する観点として、「ワープロ・パソコン使用の有無」が抽出された。この観点による「多様性」については後段で検討する。

4. 美化語にみられる「多様性」

(1) 「お～」を付けるのは、女性・主婦に多いが、若年男性にも付ける傾向

H8調査 Q1 において、ふだん「弁当・天気・皿・ビール・ソース・紅茶・酢・薬」の各語に「お」をつけるかどうか尋ねている。

H8調査 Q1

あなたは、ふだん、これから読み上げる言葉に「お」を付けて言いますか、それとも付けないで言いますか。

- (1) 弁当／お弁当 (2) 天気／お天気 (3) 皿／お皿 (4) ビール／おビール
(5) ソース／おソース (6) 紅茶／お紅茶 (7) 酢／お酢 (8) 薬／お薬

これらは、「上品な表現」にあたる美化語である。美化語における「お／ご」を付けるレベルには、性差が認められ、女性に使用が多いとされている。一方で、若年層にむけて女性が「お／ご」を使用しなくなっていることなども、指摘されている。CATDAP01 による解析から、程度の差はあるが8語全てにおいて「性」が説明力を持つことが認められた。

表2. 「お～」項目と回答者属性との関連性の有無

【凡例】 0：説明力を持たない／1：やや説明力を持つ／2：説明力を持つ
3：かなり説明力を持つ／4：きわめて説明力を持つ

	弁当	天気	皿	ビール	ソース	紅茶	酢	薬
都道府県	2	3	3	0	0	0	4	0
地域	3	2	3	0	0	1	4	2
都市規模	0	1	1	1	0	0	2	0
性	4	4	4	2	2	2	3	4
年齢	2	2	0	0	0	0	1	1
職業	4	3	3	0	0	0	2	2

H8調査 Q1 にかかわる部分からは Q1 全体として、「性」は女性、「職業」は主婦、「地域」は「関東」・「四国」・「近畿」・「中部」, 「都市規模」は「大都市」(とくに「東京都区部」), 「年齢」は20-30代が「お」を付ける傾向にあることが分かる。とくに30代以下の男性は、40代以上の男性に比べ「お」を付ける傾向が強くなっている。女性では10代において「お」離れが生じている一方、男性では若年層にむけて「お」使用が増加していることが分かる。これは、美化語である「お」使用が、男女による使用傾向の差というジェンダーの枠組みによる使い分けから、他の要因による使い分けに移行しつつあることを示唆していると考えられる。「性」以外の要因で説明力を持つものは、「地域」・「都市規模」であったが、「職業」においても、「主婦」について「商工サービス自由(家族従事者)」の使用が多い傾向にある。ここから、美化語が期待される対象として「商工サービス自由」という「職業」が推測される。「大都市」において、「商工サービス自由」という「職業」

には「性」にかかわらず、美化語が期待されるという現象は現代の状況から見て不自然ではないだろう。

(2) 「やる」か「あげる」か

本来、「やる」を用いる部分に「あげる」を使用するか否かについて尋ねたものが、H7調査Q10の(1)～(3)である。

H7調査Q10

(1)～(6) それぞれに挙げた二つの言い方のうち、あなたがふつう使うものはどちらですか。

- (1) 植木に水をやる／植木に水をあげる
- (2) うちの子におもちゃを買ってやりたい／うちの子におもちゃを買ってあげたい
- (3) 相手チームにはもう1点もやれない／相手チームにはもう1点もあげられない

これらの場合における「あげる」使用は、謙譲語的用法から美化語的用法への「ゆれ」を示すものである。それぞれの項目と回答者の属性との関連性を表3に示す。

表3. 「やる／あげる」と回答者属性との関連性

【凡例】 0：説明力を持たない／1：やや説明力を持つ／2：説明力を持つ／3：かなり説明力を持つ／4：きわめて説明力を持つ

	都道府県	地域	都市規模	性	年齢	職業
植木	0	2	1	2	3	2
うちの子ども	1	2	1	2	3	2
相手チーム	0	1	0	2	1	0

「あげる」は、「うちの子ども」35.8%・「植木」20.2%・「相手チーム」16.1%の順に多く選択されている。「うちの子ども」「植木」は「あげる」に偏る属性がほぼ共通しており、「関東」・「東京都区部」・「女性」・「若年層」・「学生」である。この場合、「学生」は若年層に多いため、現れたに過ぎないといえる。「相手チーム」については、「女性」・「若年」に偏ることについては、同様だが、「地域」は「四国」・「北陸」に偏っている。H7調査Q10(1)～(3)の結果を、都道府県を3章第1節第2項の方法に基づき、「方言敬語簡素地域」・「首都圏」・「方言敬語複雑地域」に分類したものが、表4～表6。首都圏における「あげる」使用が目立つ結果となっている。方言敬語複雑地域よりも方言敬語簡素地域において、首都圏的ともいえる「あげる」使用が受け入れられつつあるように見える。方言敬語の「手薄」な地域には、「共通語」的な価値が付加されやすい首都圏の用法が、入り込む余地の多いことを推測させる結果である。

表4. H7 Q10 (1) 「植木に水を～」 (数値は%)

	やる	あげる	どちらも使う	分からない	合計
簡素	76.5	17.9	5.1	0.3	26.9
首都圏	61.7	34.1	4.1	0	21.7
複雑	80.5	15.4	3.7	0.3	51.3
合計	75.3	20.2	4.2	0.2	

表5. H7 Q10 (2) 「うちの子どもにおもちゃを買って～」 (数値は%)

	やりたい	あげたい	どちらも使う	分からない	合計
簡素	56.6	35.8	5.6	1.8	26.9
首都圏	42.5	51.4	4.7	1.2	21.9
複雑	66.4	29.1	3.4	0.9	51.0
合計	58.5	35.8	4.3	1.2	

表6. H7 調査Q10 (3) 「相手チームにはもう1点も～」 (数値は%)

	やれない	あげられない	どちらも使う	分からない	合計
簡素	79.06	14.90	4.85	1.17	26.98
首都圏	76.54	20.37	2.05	1.02	21.97
複雑	80.95	14.96	2.74	1.32	51.03
合計	79.47	16.13	3.16	1.22	

この「あげる」使用についても、「性」の観点からみると、全体としては「女性」に偏る項目であったが、若年層にむけて男性側からの歩み寄りがみられる。3. (1)で述べた「お」が職業としては「主婦」に偏っていたことと比べると、「あげる」は「学生」に偏っている。つまり若年層全体に「あげる」使用が広まっていることを示しており、若年層における男性の美化語的表現の増加による「性差」の縮小傾向が観察できる。

5. 回答者属性が大きな説明力を持つ項目

3. (2)で示した項目と回答者属性との関連において、もっとも多いパターンであった「年齢・職業」以外のパターンを示した項目をトピックごとにまとめた上で、以下に示す。

(1) 気配り表現

H10 調査 Q8 では、14種類の「気配りなどを表す言葉」のうち、回答者が「使うことがある」という言葉をいくつでも回答することができる項目が設けられている。

H10 調査 Q8

ここに挙げた (ア) から (セ) は、いろいろな場面での気配りを表す言葉です。この中から、あなたが使うことがあると思う言い方 (似た言い方を含む) を幾つでも挙げてください。

- (ア) (頼みを断るとき) お役に立てなくて、すみません
- (イ) (食事を勧めるとき) お口に合うかどうか分かりませんが
- (ウ) (美術品などを見せてもらったとき) おかげさまで、目の保養になりました
- (エ) (誘いを断るとき) お伺いしたいのは山々ですが
- (オ) (腕前を褒められたとき) お恥ずかしゅうございます
- (カ) (人に贈物を渡すとき) つまらないものですが
- (キ) (料理を食べてもらった後で) お粗末でございました
- (ク) (歌や演奏を披露した後で) お粗末でございました
- (ケ) (上達を認められたとき) (先生・皆様の) おかげでございます
- (コ) (久しぶりで連絡するとき) 御無沙汰しております
- (サ) (会合などに誘うとき) よろしかったら (おいでになりませんか)
- (シ) (依頼を断られたとき) どうぞお気になさらないでください
- (ス) (電話で呼んでもらうとき) もし、お手すきでしたらお電話口までお願いしたいのですが
- (セ) (乾杯を指名されたとき) それでは、^{せんえつ} 僭越ではございますが御指名によりまして

この「気配り表現」が調査項目として取り上げられていること自体が、H10 調査の特徴となっている。これら「気配り表現」は、従来は「敬語」の枠外とされてきたものであるが、近年「敬語」のあらわれの一種として、取り上げられてきている。「気配り表現」は、全般に「年齢」・「職業」・「性」・「都市規模」・「地域」による多様性の認められる項目であった。

「年齢」については、全ての表現において若年層に向けて使用されなくなっており、ここで扱った14種類の「気配り表現」については、「使用する」ということが高い年代の「特徴」となっていることが分かる。「職業」においては、「商工サービス自由」・「管理専門技術」・「農林漁業」・「主婦」においてそれぞれ特徴的に用いられる表現があったのに対し(表7)、「学生」はほぼ一貫してすべての表現を用いない傾向にある。しかし、「学生」の不使用傾向は若年層において不使用傾向にあることと平行的な現象と考えられよう。

「性」では、基本的に「女性」に「気配り表現」の使用が多く認められたが、「僭越(せんえつ)ではございますが、御指名によりまして」のみ「男性」に使用が傾く結果となっている。「僭越(せんえつ)…」は、結婚式やパーティーにおいて、乾杯の音頭をとる・主賓としてのスピーチをするなど使用場面が限定されている。そのような限定的場面への遭遇度が、男性の「社会的役割」と重なる部分が多いため、「男性」に使用が傾いた「気配り表現」となったと考えられる。

「都市規模」は、おおまかに「東京都区部」タイプと「中都市(人口10万人未満)」タイプに分れている。前者には「お役に立てなくて、すみません」・「お口に合うかどうか分かりませんが」・「おかげさまで、目の保養になりました」、後者に「お粗末でございました(料理)」・「お粗末でございました(歌や演奏)」・「(先生・皆様の) おかげでございます」が該当する。「お粗末…(料理・演奏とも)」・「ご無沙汰しております」・「よろしかったら

「おいでになりませんか」は、「政令指定都市」において使用が多い傾向がみられた。地域は、多くの表現において「近畿」・「中国」に多く、「四国」・「九州」、場合によって「東北」に少ない傾向がみられた。

表7. 「気配り表現」の職業による偏り 【凡例】○：該当する職業に使用が偏る

	商工サービス自由	管理専門技術	農林漁業	主婦
「お役に立てなくて」	○	○		
「お口に合うか」	○			○
「目の保養」	○			
「お伺いしたいのは山々」		○		
「つまらないもの」			○	
「お粗末様（料理）」			○	
「おかげでございます」	○	○		
「ご無沙汰しております」		○		
「よろしかったら」		○		○
「お気になさらないで」	○	○		
「お手すきでしたら」				○
「僭越（せんえつ）では」		○	○	

14種類の「気配り表現」のうち、「職業」によってとくに強い偏りがみられたのは（表7）、「それでは、僭越（せんえつ）ではございますが御指名によりまして」・「お口に合うかどうかわかりませんが」であった。「僭越（せんえつ）…」は、「30代以上男性の農林漁業または管理専門技術職従事者」，「お口に合うか…」は、「30代以上女性の主婦または商工サービス自由業従事者」という使用層が浮かびあがってくる。

（2） 呼称

回答者の属性が大きな説明力を持つ項目として、呼称に関する項目もまとめたかたちで抽出された。配偶者のソトに対する呼び方・同じ会社の課長のソトに対する呼び方・あらたまった場における自分のことを指す呼び方についてである。

（a） 配偶者のソトに対する呼び方

配偶者をどう呼ぶかは、回答者のさまざまな背景が推測されるが、以下の設問における回答からは、年齢・職業による多様性を示すものであることが分かった。

（ア） 妻の呼び方

H10 調査Q10「家族以外の人と話しているとき、あなたの配偶者（結婚相手）のことをどう言い表しますか」（既婚男性を対象とした質問）という質問に対し、18種類の呼び方（「その他」を入れると19種類）から、複数選択する質問方法をとっている。これら18種類の呼称は、すべて年齢・職業が大きな説明力を持つ項目であった。

H10 調査Q10

〔結婚している男性に〕あなたは、家族以外の人と話しているとき、あなたの配偶者（結婚相手）のことを、どう言い表しますか。ここに挙げた（ア）から（テ）の中から、あなたが使うと思う言い方を幾つでも挙げてください。

- | | | | |
|---------------|-----------------|-------------|----------|
| （ア）家内 | （イ）女房 | （ウ）妻（つま） | （エ）妻（さい） |
| （オ）彼女 | （カ）うちの | （キ）うちのやつ | （ク）連れ合い |
| （ケ）ワイフ | （コ）かみさん | （サ）母さん・お母さん | |
| （シ）母ちゃん・お母ちゃん | （ス）嫁さん・嫁はん | （セ）ママ・ママちゃん | |
| （ソ）ばあさん・おばあさん | （タ）ばあちゃん・おばあちゃん | （チ）名前で言う | |
| （ツ）愛称で言う | （テ）その他 | | |

「妻称」が各年代ごとの呼び方があるのに対し、「母称」（（お）母さん・（お）母ちゃん・ママ（ちゃん））は、30代以降の年代に偏り、60代以降になると「祖母称」（（お）ばあさん・（お）ばあちゃん）が現れてくる。

大きな説明力ではないが、他に回答者属性による説明力を持つものをあげる。「家内」・「ワイフ」・「妻（つま）」は「都市規模」による偏りがみられた。「家内」・「ワイフ」は「東京都区部」で多く、「妻（つま）」は「大都市（東京都区部・政令指定都市）」に多くみられた。また、「地域」が説明力を持つものとして、「嫁さん（嫁はん）」・「うちのやつ」・「かみさん」がある。「嫁さん（嫁はん）」は「近畿」・「中国」に多く、「うちのやつ」は「北海道」に多く、「かみさん」は「関東」に多い。

以下に、各呼称が示した偏りを〔 〕内に記す。各呼称のあとの数字は選択率を表す。全体の選択率の高い順に並べた。

家内 51.1% [50代に多い]・女房 37.5% [農林漁業に少ない]・うちの 25.3% [20代に多い]・名前 24.1% [20代・農林漁業に多い]・妻（つま） 22.9% [30代以下・事務に多い]・うちのやつ 22.4% [農林漁業・商工サービス自由に少ない]・（お）母さん 20.6% [40-60代に多い]・嫁さん（嫁はん） 15.5% [20-30代・商工サービス自由に多い]・かみさん 14.9% [40代・商工サービス自由に多い]・（お）ばあさん 9.6% [60代以上・農林漁業に多い]・（お）母ちゃん 7.9% [農林漁業・商工サービスに多い]・（お）ばあちゃん 5.6% [60代以上・農林漁業に多い]・ワイフ 4.2% [60代・管理専門技術に多い]・愛称 4.2% [20-30代に多い]・連れ合い 4.1% [商工サービス自由に多い]・彼女 3.8% [20代・商工サービス自由に多い]・ママ（ちゃん） 2.9% [30代・商工サービス自由に多い]・妻（さい） 1.0% [商工サービス自由に多い]・その他 1.1%

「ワイフ」は東京都区部・60代以上の管理専門技術職層に特徴的な呼び方といえそうである。職業によって妻の呼び方はおおまかに、「農林漁業」系・「商工サービス自由」系・「事務・管理専門技術」系に分れていることが分かる。

(イ) 夫の呼び方

H10 調査Q11 (既婚女性を対象とした質問)「家族以外の人と話しているとき、あなたの配偶者(結婚相手)のことをどう言い表しますか」という質問に対し、18種類の呼び方(「その他」を入れると19種類)から、複数選択する質問方法をとっている。これら18種類の呼称も、夫の呼称と同様、すべて年齢・職業が大きな説明力を持つ項目であった。

H10 調査Q11

[結婚している女性に]あなたは、家族以外の人と話しているとき、あなたの配偶者(結婚相手)のことを、どう言い表しますか。ここに挙げた(ア)から(テ)の中から、あなたが使うと思う言い方を幾つでも挙げてください。

- | | | | |
|----------------|------------------|---------------|----------|
| (ア) 主人 | (イ) 旦那(だんな) | (ウ) 旦那(だんな)さん | |
| (エ) 夫 | (オ) 彼 | (カ) うちの | (キ) うちの人 |
| (ク) 連れ合い | (ケ) 亭主 | (コ) 宿六 | |
| (サ) 父さん・お父さん | (シ) 父ちゃん・お父ちゃん | (ス) パパ | |
| (セ) じいさん・おじいさん | (ソ) じいちゃん・おじいちゃん | | |
| (タ) 名字で言う | (チ) 名前で言う | (ツ) 愛称で言う | (テ) その他 |

夫のソトに対するもっとも優性な呼称は、「主人」で、全体の74.6%(H10 調査Q11)が「使う」と答えている。

以下に、各呼称が示した偏りを[]内に記す。各呼称のあとの数字は選択率を表す。全体の選択率の高い順に並べた。

主人 74.6% [30-40代に多い・農林漁業に少ない]・(お) 父さん 43.7% [40代・農林漁業に多い]・うちの人 23.1% [60代以上少ない・農林漁業多い]・旦那(だんな) 22.2% [20-30代に多く60代以上少ない・事務に多い]・名前 16.3% [30代以下・管理専門技術に多い]・夫 14.3% [60代以上少ない・管理専門技術に多い]・パパ 11.2% [20-30代・主婦・事務に多い]・愛称 7.3% [20-30代・事務に多い]・うちの 7.0% [20代・40代・事務に多い]・(お) じいちゃん 6.8% [60代以上・農林漁業に多い]・旦那(だんな)さん 5.5% [20代・商工サービス自由に多い]・名字 5.1% [60代以上少ない・商工サービス自由・事務に多い]・彼 4.1% [20代・事務に多い]・(お) 父ちゃん 3.9% [40代以下少ない・管理専門技術・農林漁業に多い]・(お) じいさん 3.9% [50代以下少ない・農林漁業に多い]・連れ合い 2.2% [農林漁業・商工サービス自由に多い]・亭主 1.9%・その他 1.1%・宿六 0.2%

妻の呼称が、若年層から中年層にかけて「母称」に移行するのと同様、夫の呼称も「父称」に移行している。比較的若い層が「パパ」、中年層にかけて「(お) 父さん」が使われている。

妻への「母称」:「(お) 母さん」20.6%・「(お) 母ちゃん」7.9%・「ママ(ちゃん)」2.9%に対して、夫への「父称」:「(お) 父さん」43.7%・「(お) 父ちゃん」3.9%・「パパ」11.2%の方が選択率が高い。一方で、さらに上の年層になると、「祖父称」が現れてくるが、「祖父称」は「祖母称」に比べ現れ方が少ない。妻に対する「祖母称」:「(お) ばあさん」9.6%・

「(お) ばあちゃん」5.6%に比べ、夫に対する「祖父称」:「(お) じいちゃん」6.8%・「(お) じいさん」3.9%となっている。

「夫称」・「妻称」などからの「父称」・「母称」, 「祖父称」・「祖母称」への移行は、たいていにおいては子供や孫の誕生といった家族形態の変化に伴うものであるが、必ずしも家族の形態変化に伴うものばかりでないことも推測できる。妻への「母称」より、夫への「父称」が多くみられることは、母親が子供の視点に立つことの多さによることをうかがわせるが、妻の「祖母称」が夫の「祖父称」より多いことは、夫がより「孫」の視点に立った呼称を用いていることによるとは考えにくい。妻に「祖母称」が多いことの理由として、「孫」が存在しなくとも、夫が対外的に妻の加齢を表すために「祖母称」を用いているケースが想像されるためである。夫の「祖父称」についても同様な推測が成り立つが、回答率からみると、妻の方に「孫」不在の「祖母称」が夫の「祖父称」よりも多く回答されたであろうことが推測される結果となっている。

夫の呼称については、「父称」・「祖父称」への移行のほかに、「20-30代の呼び方」(「旦那(だんな)」・「名前」・「パパ」・「愛称」・「旦那さん」・「彼」), 「60代以上には少ない呼び方」(「うちの人」・「旦那(だんな)」・「夫」・「名字」)があり、世代間のギャップを形成している可能性が高い。妻の呼称においても、「妻(つま)」・「嫁さん(嫁はん)」・「愛称」・「彼女」の使用層が若い年代に偏っており、同様である。

大きな説明力ではないが、他に回答者属性による説明力を持つものをあげる。「主人」・「パパ」・「(お) じいちゃん」において「地域」・「都市規模」が説明力をもち、「彼」において「都市規模」が説明力を持つ。「主人」は、「中国」・「近畿」・「四国」に多く、「東北」に少ない。「政令指定都市」に多く、中都市(人口10万人以下)以下に少ない。「パパ」は、「関東」・「東京都区部」に多い。「(お) じいちゃん」は、「東北」・「北陸」に多く、中都市(人口10万人以下)以下に多い。「彼」は、「関東」・「東京都区部」に目立つ呼び方である。

また、夫の呼び方も、おおまかに「職業」により、「農林漁業」系・「管理専門技術」系・「事務」系・「商工サービス」系・「主婦」系に分かれている。」

(b) 同じ会社の課長のソトに対する呼び方

H9調査Q12「会社の受付の人が外部の人に、自分の会社の鈴木課長の事を話す場合、「鈴木は…」と言うのと「鈴木さんは…」というのと「鈴木課長は…」と言うのでは、どれが一番よいと思いますか」は、性による説明力を持つ項目であった。女性は「鈴木は…」の方がよいとする回答が、「鈴木課長は…」に比べわずかながら多いが、男性は女性に比べると「鈴木課長は…」を小差だが支持している割合が高い。

(c) あらたまった場における自分を指す呼び方

H7調査Q8(複数選択可)「あらたまった場でそれほど親しくない相手に自分のことを言

うとき、どんな言葉を使いますか」において、「性」・「年齢」・「職業」が強い説明力を持ち、「地域」・「都市規模」も強くはないが説明力を持つ。

「自分」の呼称は、「わたし」・「わたくし」は男女いずれにおいても使用がみられ、「自分」・「ぼく」が男性に偏った使用となっている。職業では、「農林漁業」において「わたくし」が少なく、「自分」・「おれ」が多い。また、「学生」は「ぼく」が多く、社会化された「わたし」・「わたくし」に移行していない様子がうかがえる。

H7調査では、Q9において「あらたまった場でそれほど親しくない相手のことを言うとき」の言葉についても質問している。「相手」の呼称については、「性」・「年齢」・「職業」が強い説明力を、「地域」が説明力を持つ項目であった。

(3) 外来語

外来語関連の項目は、「地域」・「性」・「年齢」・「職業」による偏りを示すものが多かった。しかし、外来語に関しては、第3章第3節第1項において細かな分析がなされているため、ここでは項目と説明力の強い回答者属性を示すに留める。「年齢」については、高年層に接触率・理解率ともに低いという結果となっている。接触率・理解率については、第3章第3節第1項参照。

①H8調査Q20-4「パドック」接触率：

「関東」・「北海道」・「近畿」に高く、「九州」・「四国」・「東北」に低い。

②H8調査Q20-4「パドック」理解率：

「関東」・「北海道」で高く、「四国」・「九州」・「東北」で低い。

③H8調査Q20-5「マスカラ」接触率：

「女性」・「商工サービス自由」・「主婦」・「事務」に接触率高い。

④H8調査Q20-5「マスカラ」理解率：「女性」理解率高い。

⑤H9調査Q23-8「ODA」接触率：「男性」・「管理技術専門」に高い。

⑥H9調査Q23-8「ODA」理解率：「男性」・「管理技術専門」に高い。

⑦H10調査Q18-8「オンブズマン」接触率：「管理専門技術」・「事務」高い。

⑧H10調査Q18-8「オンブズマン」理解率：「管理専門技術」高い。

⑨H10調査Q19-5「リストラ」接触率：「管理技術専門」高い。

(4) その他

その他、回答者属性による説明力が高い項目を、特徴的に示す属性とともに記す。

(a) 敬語

①H8調査Q9-1目上に対して「テレビを見るか」

「見られますか」：「中国」・「近畿」・「九州」に多く、「東北」・「関東」・「中部」・「北海道」に少ない。

②H8 調査Q10-3 目上に対して「言いたいことがある」

「申し上げたい」：「関東」・「北海道」に多く、「四国」に少ない。

③H7 調査Q11-4 他者に対して「おりましたら」

「気になる」：「中国」・「九州」・「近畿」・「四国」・「中部」多く、「関東」・「東北」少ない。

(b) 発音のゆれ

①H9 調査Q24-1 「3階」の発音

「サンカイ」：「九州」多く、「近畿」・「四国」少ない。

(c) 新語・俗語

①H8 調査Q19-1 「すごく早い」

「すごい」：「四国」・「北海道」・「近畿」・「中部」・「中国」多く、「九州」・「東北」少ない。

(d) 外国人との接触場面

①H7 調査Q12 1～2年の間に「日本国内で、外国人に話しかけられた」経験

外国人との接触頻度：「関東」高く、「九州」・「四国」低い。「学生」高い。

②H7 調査Q12S Q1 外国人から話しかけられた言語

「英語」で話しかけられた：「管理専門技術」多

「日本語」で話しかけられた：「農林漁業」多

(e) その他

① H9 調査Q3-4 「会議で自分の考えをはっきり言う」：「男性」・「管理専門技術」に多い。

②H10 調査Q13 「ワープロなどがあっても、漢字学習はしっかりやるべきである」：

「事務」・「管理専門技術」・「学生」に多い。

6. ワープロ・パソコンの使用層と不使用層にみられる多様性

インターネットの発達などにより、ワープロ・パソコンが、生活の中において大きな比重を占めるような時代になりつつある。「国語に関する世論調査」においても、ワープロ・パソコンの使用経験の有無と頻度についての質問を、H7 調査とH10 調査において2回実

施している。

H7調査Q18 あなたは、ワープロやパソコンを使って文書を作成したことがありますか。
 H10調査Q14 あなたは、ふだん、文書作成のためにワープロやパソコンを使っていますか。

いずれも回答者属性の「年齢」・「職業」が強い説明力を持つ。

表8. H7調査Q18

「ワープロやパソコンを使って文書を作成したことがありますか」(数値は%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	合計
経験あり	57.2	63.5	55.4	47.9	27.0	17.1	7.01	39.8
経験なし	42.7	36.4	44.5	52.0	72.9	82.8	92.9	60.1
合計	5.9	12.5	17.2	22.2	18.5	15.7	7.73	

表9. H10調査Q14

「ふだん、文書作成のためにワープロやパソコンを使っていますか」(数値は%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	合計
毎日使う	9.6	25.2	17.5	19.5	9.9	2.4	0.4	12.8
週1回以上使用	15.3	16.5	11.1	9.3	8.1	4.3	1.7	9.1
月1回以上使用	12.1	10.6	10.6	10.6	7.6	4	1.7	8.1
年1回以上使用	4	3.9	9	7.8	4.7	2.1	0.4	5
以前使用使用	30.6	17.8	20.4	10.4	9.9	5.6	2.6	12.5
全く不使用	27.4	25.5	31.3	41.8	59.5	81.4	92.9	52.2
分からない	0.8	0	0	0.2	0	0	0	0.09
合計	5.6	13.7	17.1	17.9	18.3	16.9	10.3	

ワープロ・パソコンの使用と年代についてまとめたものが、それぞれ表8・表9である。H7調査の「経験なし」とH10調査「全く不使用」が半数を超えるのは、いずれも50代以上である。「経験あり」と「毎日使用」のピークが20代であることも共通している。「職業」は、H7調査では、「事務」・「管理専門技術」・「学生」において過半数に「経験あり」なのに対し、「農林漁業」・「商工サービス」・「労務」・「主婦」は過半数が「経験なし」であった。H10調査では「毎日使う」が過半数なのが「専門技術」、ついで「事務」41.5%・「管理」33.8%・「自由」25.0%・「学生」10.8%なのに対し、「全く不使用」が過半数なのが「農林漁業」・「商工サービス」・「労務」・「主婦」であった。ここから、「ワープロ・パソコン」使用層として、「40代以下」・「ホワイトカラー」・「学生」が浮かび上がる。

使用層の「年齢」・「職業」の特性とも考えられるが、今後「ワープロ・パソコンの使用／不使用」による差異があらたなギャップを形成する可能性から、この「ワープロ・パソコンの使用／不使用」が強い説明力を持つ項目がどのような項目であったかを知っておくことは無意味ではないと考え、以下に示す。

(1) H7 調査における項目

H7 調査においては、Q9（「それほど親しくない相手」を呼ぶ言葉）・Q12（「外国人から話しかけられた経験」の有無）・Q12SQ1（「何語」で話しかけられたか）・Q12SQ2（何語で応対するか）・Q12SQ3（望ましい「外国人の日本語」レベル）・Q20（ワープロ字体）の項目と強い関連性が認められた。

Q9においては、「経験あり」は「役職」で呼びかける人が多いのに対し、「経験なし」は「おたく」が多い。

Q20では、「常用漢字表」外字について、「ワープロ字体（A）」と「正字体（B）」を示した上で、「ワープロからAが出てくることはかまわない」・「ワープロからもBのような辞書と同じ形が出てくるほうがよい」を選択する質問がされている（表10）。

表10. H7 調査Q18 ワープロ経験の有無とQ20 ワープロ字体

	Aでかまわない	Bがよい	どちらとも言えない	分からない
経験あり	43.2%	49.5%	6.1%	1.1%
経験なし	41.2%	35.8%	10.2%	12.6%

(2) H10 調査における項目

H10 調査においては、Q11（家族以外の人間に対して夫をどう呼ぶか）・Q18（外来語：見聞きするか否か・意味がわかるか否か）・Q19（カタカナ略語：元の形が分かるか否か）・Q20（非外来語/外来語：どちらが分かりやすいか）・Q21（非外来語/外来語：どちらが親しみやすいか）などである。

Q11は、「毎日使用する」に特徴的な呼び方として「名字」が、「全く使用しない」は「連れ合い」・「(お)じいさん」・「(お)じいちゃん」を特徴的に使い、「主人」・「旦那(だんな)」・「彼」・「うちの」・「亭主」・「宿六」・「パパ」・「名字」・「名前」・「愛称」を使わないことに特徴がみられた。これは、夫を「名字」で呼ぶのは「管理専門技術」に多いこと、「毎日使う」が被庸者に多いことと関連が深いと推測される。13種類の「職業」区分を上位概念の「自営」・「家族」・「被庸」・「無職」で比較して、回答率に10%以上の開きがある呼称は、「主人」と「名前」であった。「主人」・「名前」とともに「自営」に少ないという結果となった。

Q18・Q19は、語によって程度の差はあるが、「毎日使う」に接触率・理解率ともに高く、「全く使わない」に接触率・理解率ともに低いという傾向がみられた。また、Q20・Q21において「毎日使う」は、全体では非外来語の方が「分かりやすい」・「親しみやすい」とされるものでも、一貫して外来語の方を「分かりやすい」・「親しみやすい」とする傾向がみられた。

また、Q16（「常用漢字表」外字の字体の不統一）においては、表11のような偏りがみられた。「毎日使用」は、「現状肯定」傾向にあるといえそうである。

表11. H10 調査Q14 ワープロ等の使用とQ16「常用漢字表」外字の字体が不統一な現状に対する態度

	望ましくない	かまわない	分からない
「毎日使用」	45.3%	52.1%	2.4%
「全く使用せず」	50.1%	34.01%	15.8%

付記

本節における CATDAP01 を用いた解析に際しては、統計数理研究所の坂元慶行氏・田村義保氏・桂康一氏の協力を得た。

(田中ゆかり)

付録 文化庁文化部国語課調査の集計結果

集計を見る上での注意事項

いずれも、日本全国を対象として層化二段無作為抽出法によって標本抽出した、調査員による面接聴取による調査である。層化二段無作為抽出法とは、母集団をいくつかの層に分け、各層から独立に標本をとり出す層化抽出法と、二段階の異なる抽出単位で抽出を行う二段抽出法とを組み合わせ、無作為抽出法である。標本として抽出した人数は、3,000人である。以下には、各調査の単純集計の結果を掲げる。集計を見る上での注意事項は以下のとおりである。

- ・ - は、回答者がいないもの。
- ・ 百分比は、小数点第2位を四捨五入してあるため、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- ・ n は、質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- ・ S. Q. は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行う質問（Sub-Question の略）。
- ・ M. A. は、一人の回答者が複数の回答をすることができる質問（Multiple Answers の略）。
- ・ 〔回答票〕は、回答の選択肢を列記した「回答票」を対象者に示して、その中から回答を選ばせる質問。
- ・ 都市規模区分は次のとおりである。

大都市（東京都区部・政令指定都市）	中都市（人口10万人以上の市）
小都市（人口10万人未満の市）	町村

- ・ 地域ブロック区分は次のとおりである。

北海道	——	北海道
東北	——	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	——	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北陸	——	新潟県、富山県、石川県、福井県
中部	——	山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	——	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	——	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	——	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	——	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

・調査結果の誤差の計算は、2段抽出法による標準偏差の計算式（信頼度 95%）

$$\pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}} \quad \text{で計算できる。}$$

N=母集団数 n=実回収数 P=回答率

なお、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ で計算できる。

1. 平成7年度調査（文化庁文化部国語課）

Q1 [回答票1] あなたは、よりよい言葉遣いのために、一人一人がどのようなことに心がければよいと思いますか。この中から三つまで挙げてください。(M. A.) n=2,212

- 7.7% (ア) 外来語・外国語はあまり使わないようにする
- 59.7% (イ) 心のこもった言葉を使うようにする
- 54.5% (ウ) 平易で分かりやすい言葉を使うようにする
- 3.9% (エ) ふだんから短歌や俳句、古典文学などに親しむようにする
- 59.8% (オ) 相手や場面にふさわしい敬語を使うようにする
- 34.2% (カ) 明瞭な発音、適当な速度で話すようにする
- 7.5% (キ) 国語辞典などで言葉の意味を確認して使うようにする
- 45.3% (ク) 話の筋道を立てて話すようにする
- 0.5% その他 ()
- 1.7% 分からない

Q2 [回答票2] ここに挙げた(1)から(7)のそれぞれの意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そう思わない」かでお答えください。 n=2,212

	(ア)		(イ)	
	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない	分からない
(1) 今の言葉は乱れている	73.6%	19.6%	5.6%	1.3%
(2) 学校における国語の教育をより充実させることが必要だ	65.6	23.0	7.2	4.2
(3) 国が日本語の正しさや美しさの保持に努めることが必要だ	71.5	19.8	6.0	2.6
(4) 国は言葉遣いの大切さについて、国民の意識が高まるよう努めることが必要だ	67.8	22.1	6.8	3.3
(5) 国は言葉遣い（例えば敬語など）についてゆるやかな基準を示すことが必要だ	46.5	40.2	8.4	4.9
(6) 新聞や放送などは、そこでの言葉遣いが子供などに与える影響を自覚することが必要だ	88.4	7.6	2.7	1.3
(7) 言葉は時代とともに変わるものであり、自然に任せた方がよい	38.7	48.6	10.7	2.1

Q 3 [回答票 3] 共通語と方言について、あなたのお考えはどちらに近いですか。 n=2,212

- 75.1% (ア) 相手や場面によって共通語と方言を使い分ければよい
- 17.9% (イ) 基本的には共通語を使い、方言はできるだけ使わない方がよい
- 5.7% どちらとも言えない
- 1.2% 分からない

Q 4 [回答票 4] あなたの敬語の使い方は、この中のどれに最も近いですか。 n=2,212

- 15.1% (ア) 適切に使っていると思う
- 52.2% (イ) 人並みに使っていると思う
- 29.2% (ウ) 使いたいと思うが、十分に使えていないと思う
- 2.4% (エ) 使う必要を認めないし、実際ほとんど使わない
- 1.1% 分からない

Q 5 [回答票 5] 敬語には、例えば「まことに恐れ入りますが、ペンをお貸しいただけませんでしょうか」のように非常に敬意の高いものから、「ちょっとペンを貸してください」のように簡素なものまで様々な言い方があります。あなたはこれらの言い方を相手や場面によって使い分ける方がよいと思いますか、それともそうは思いませんか。 n=2,212

- 78.3% (ア) 相手や場面によって使い分ける方がよいと思う
- 18.3% (イ) 相手や場面にかかわらず、簡素な言い方でよいと思う
- 2.5% どちらとも言えない
- 0.9% 分からない

Q 6 [回答票 6] ここに挙げた敬語に関する(1)から(4)の意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。 n=2,212

	(ア) そう思う	(イ) そうは 思わない	どちらとも 言えない	分から ない
(1) 親しい人(友人など)に敬語を使うのはよそよそしい感じがする	73.7%	21.0%	4.8%	0.4%
(2) あまり親しくない人には敬語を使う方がよい	62.3	26.5	10.2	1.0
(3) 目上の人には敬語を使う方がよい	91.3	5.0	3.3	0.4
(4) 年下の人にも場合によっては敬語を使う方がよい	71.4	18.1	9.4	1.0

Q7 [回答票7] 男女の言葉遣いに違いがなくなってきたと言われますが、このことについて、あなたのお考えに最も近いものを一つ選んでください。 n=2,212

- 9.8% (ア) 違いがない方がよい
- 41.2% (イ) 自然の流れであり、やむをえない
- 44.1% (ウ) 違いがある方がよい
- 4.0% どちらとも言えない
- 0.9% 分からない

Q8 [回答票8] あなたは、あらたまった場でそれほど親しくない相手に自分のことを言うとき、どんな言葉を使いますか。この中で、あなたが最も多く使うものを一つ選んでください。

n=2,212

- | | |
|----------------|--------------|
| 20.3% (ア) わたくし | 3.3% (カ) おれ |
| 58.0% (イ) わたし | 0.9% (キ) わし |
| 1.5% (ウ) あたし | 0.2% その他 () |
| 5.7% (エ) ぼく | 0.9% 分からない |
| 9.2% (オ) 自分 | |

Q9 [回答票9] あなたは、あらたまった場でそれほど親しくない相手のことを言うとき、どんな言葉を使いますか。この中で、あなたが最も多く使うものを一つ選んでください。 n=2,212

- | | |
|--|-----------------------|
| 18.5% (ア) あなた、あなたさま | 37.7% (オ) 名字+さん、名字+さま |
| 21.8% (イ) おたく、おたくさま | 1.2% (カ) あんた、あんたさん |
| 8.8% (ウ) そちら、そちらさま | 0.2% その他 () |
| 10.4% (エ) 役職名・職業名・相手の所属する組織
団体名 (課長・先生・〇〇銀行等),
それらの語+さん、それらの語+さま | 1.4% 分からない |

Q10 [回答票10] (1) ~ (6) それぞれに挙げた二つの言い方のうち、あなたがふつう使うものはどちらですか。 n=2,212

(1) 植木に水をやる／植木に水をあげる

- | | |
|--------------------|-------------|
| 75.3% (ア) 植木に水をやる | 4.2% どちらも使う |
| 20.2% (イ) 植木に水をあげる | 0.3% 分からない |

(2) うちの子におもちゃを買ってやりたい／うちの子におもちゃを買ってあげたい

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 58.5% (ア) うちの子におもちゃを買ってやりたい | 4.3% どちらも使う |
| 35.8% (イ) うちの子におもちゃを買ってあげたい | 1.3% 分からない |

- (3) 相手チームにはもう1点もやれない／相手チームにはもう1点もあげられない
 79.5% (ア) 相手チームにはもう1点もやれない 3.2% どちらも使う
 16.1% (イ) 相手チームにはもう1点もあげられない 1.2% 分からない
- (4) こんなにたくさんは食べられない／こんなにたくさんは食べれない
 67.3% (ア) こんなにたくさんは食べられない 5.0% どちらも使う
 27.2% (イ) こんなにたくさんは食べれない 0.5% 分からない
- (5) 朝5時に来られますか／朝5時に来れますか
 58.8% (ア) 朝5時に来られますか 6.3% どちらも使う
 33.8% (イ) 朝5時に来れますか 1.1% 分からない
- (6) 彼が来るなんて考えられない／彼が来るなんて考えれない
 88.8% (ア) 彼が来るなんて考えられない 3.1% どちらも使う
 6.7% (イ) 彼が来るなんて考えれない 1.4% 分からない

Q11 [回答票 11] ここに挙げた(1)から(11)の文中の下線の部分の言い方は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。 n=2,212

	(ア)		(イ)	
	気になる	気にならない	どちらも言えない	分からない
(1) 先生、こちらでお待ちしてください	55.6%	41.0%	2.4%	1.0%
(2) お客様が申されました	41.4	54.2	2.9	1.5
(3) <u>とんでもございません</u>	17.9	78.7	2.3	1.1
(4) ○○さん、 <u>おりましたらご連絡ください</u>	56.0	41.8	1.4	0.8
(5) 3時に <u>御出発される</u> 予定です	35.4	60.8	2.7	1.0
(6) お客様は <u>お帰りになりました</u>	23.6	73.2	2.3	0.9
(7) 先生が <u>おっしゃられた</u> ように	24.5	71.9	2.5	1.0
(8) お客様、 <u>どうぞいただき</u> てください	62.5	34.4	2.0	1.1
(9) <u>どうぞおめしあがり</u> ください	12.4	85.4	1.6	0.6
(10) 足元にお <u>気をつけて</u> ください	17.4	80.5	1.5	0.5
(11) 無料休憩室を <u>御利用</u> いただけます	20.4	76.0	2.4	1.1

Q12 [回答票 12] あなたは、この1～2年の間に日本国内で、外国人から話しかけられたことがありますか。 n=2,212

5.4%	11.6%	19.9%	63.1%
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
しばしばある	時々ある	1～2度ある	まったくない
	↓		↳ (SQ3へ)

SQ1 [回答票 13] あなたが、話しかけられたのは、何語でしたか。 n=817

30.0% (ア) 主に日本語	6.5% (エ) その他(英語以外の言葉)
36.2% (イ) 主に英語	0.7% 分からない
26.6% (ウ) 日本語と英語が半々ぐらい	

SQ2 [回答票 14] あなたが、外国人から話しかけられたとき、どのように対応しましたか。この中から一つ選んでください。 n=817

43.7% (ア) 主に日本語で応じた	2.2% (エ) なるべく応じないようにした
12.2% (イ) 主に英語で応じた	1.8% (オ) 応じなかった
39.3% (ウ) 状況次第で、日本語または英語で応じた	0.7% 分からない
(ここまで聞けばQ13へ)	

SQ3 [回答票 15] もし、あなたが、外国人から話しかけられた場合、どのように応じると思いますか。この中から一つ選んでください。 n=1,395

43.8% (ア) 日本語で応じる	12.8% (エ) なるべく応じないようにする
1.9% (イ) 英語で応じる	6.7% (オ) 応じない
28.2% (ウ) 状況次第で、日本語または英語で応じる	6.6% 分からない

Q13 [回答票 16] 外国人の話す日本語は、どのような日本語であるのが望ましいと思いますか。

あなたのお考えに最も近いものを一つ選んでください。 n=2,212

12.7% (ア) 外国人であっても、日本人と変わらない日本語を話すべきである
58.6% (イ) 外国人だから、意思が通じさえすれば、多少変な日本語でもかまわない
24.2% (ウ) 外国人だから、意思が通じさえすれば、どんな日本語でもかまわない
4.5% 分からない

Q14 [回答票 17] ここに挙げた(1)から(6)の日本語や外国語に関する意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。 n=2,212

	(ア)	(イ)		
	そう思う	そうは 思わない	どちらとも 言えない	分から ない
(1) 外国人が、日本語を話せるようになるための教育を重視すべきである	35.5%	47.2%	12.7%	4.6%
(2) 日本人が、外国語を話せるようになるための教育を重視すべきである	67.5	21.3	9.0	2.3
(3) 日本人が日本語を正しく使えるようになるための教育を重視すべきである	80.6	12.7	4.7	2.1
(4) 日本にきた外国人は、日本語を話すように努力すべきである	59.8	27.7	10.3	2.2
(5) 日本人も外国に行くときは、その国の言葉を話すように努力すべきである	80.1	11.7	6.2	2.1
(6) アジアの国々の言葉についても、日本人はもっと関心を持つべきである	71.0	16.3	8.5	4.2

Q15 「日本語が国際機関や国際会議などの場でもっと使われるように主張すべきである」という意見があります。このことについて、あなたはどのように思いますか。「そう思う」か「そうは思わない」かでお答えください。 n=2,212

42.0%	30.1%	19.2%	8.7%
そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない	分からない

Q16 [回答票 18] 最近、日常生活の中で外来語や外国語を見たり聞いたりすることが多くなったという意見があります。今以上に外来語や外国語が増えることについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお感じに最も近いものを一つ選んでください。 n=2,212

13.1% (ア) いくら増えてもよい	6.6% (エ) 減る方がよい
44.8% (イ) 多少は増えてもよい	5.0% 分からない
30.4% (ウ) 今以上には、増えない方がよい	

Q17 [回答票 19] あなたは、外国で使うためにローマ字書きの名刺を作る場合、その名刺には、御自分の姓と名のどちらを先に書くべきだと思いますか。 n=2,212

24.6% (ア) 姓を先にする	5.5%	どちらとも言えない
62.3% (イ) 名を先にする	7.6%	分からない

Q18 あなたは、ワープロやパソコンを使って文書を作成したことがありますか。 n=2,212

39.9%	60.1%
<u>あ</u> る	<u>な</u> い
↓	↳ (SQ3へ)

SQ1 [回答票 20] あなたは、現在ワープロやパソコンを使って文書を作成していますか。この中からお答えください。 n=882

27.6% (ア) 日常的に作成している	27.3% (ウ) ほとんど作成していない
45.1% (イ) 時々作成している	— 分からない

SQ2 [回答票 21] あなたは、ワープロやパソコンを使って文書を作成した経験から、どのような感想をお持ちですか。この中から三つまで選んでください。(M. A.) n=882

33.8% (ア) 漢字の知識が増えた	38.5% (カ) 漢字の書き方を忘れることが多くなった
25.4% (イ) 文章が書きやすくなった	48.4% (キ) 視力を使うので、疲労しやすい
9.3% (ウ) 文章が上手になった	18.3% (ク) 文章を作るのに時間がかかるようになった
22.1% (エ) 文章が速く作れるようになった	1.5% その他 ()
38.7% (オ) 文章の中で漢字を多く使うようになった	3.5% 分からない

(ここまで聞けばQ19へ)

SQ3 あなたは、将来ワープロやパソコンを使って文書を作成したいと思いますか、それともそうは思いませんか。 n=1,330

34.1%	60.3%	5.6%
そう思う	そうは思わない	分からない

Q19 [回答票 22] ここに挙げた下線の言葉の書き表し方についてお尋ねします。Aは「常用漢字表」に入っていない難しい漢字は使わないようにして、漢字と仮名を交ぜて書いたもの、Bは漢字で書いて振り仮名をつけたものです。あなたはA、Bのどちらがよいと思いますか。

n=2,212

A		B	
真相を知って <u>がく</u> 然とした		真相を知って <u>愕然</u> とした	
花模様の <u>刺しゅう</u>		花模様の <u>刺繡</u>	
動物の <u>はく製</u>		動物の <u>剥製</u>	
経営が <u>破たん</u> する		経営が <u>破綻</u> する	
35.2%	57.1%	5.8%	1.9%
(ア)	(イ)	(ウ)	
Aの方がよい	Bの方がよい	どちらとも言えない	分からない

Q20 [回答票 23] ここに挙げた漢字についてお尋ねします。これらはいずれも「常用漢字表」に入っていないものですが、ワープロを使って文書を作成（印刷）する場合、Aのような形をした漢字が出てくることがあります。これらはBのような辞書に用いられている形とは違っています。あなたは、このことについてどう思いますか。

n=2,212

A	B
鷗	鷗 (読み方)
掴む	掴む (かもめ・おう)
麵類	麵類 (つかむ)
黙禱	麵類 (めんるい)
	黙禱 (もくとう)
42.0% (ア) ワープロからAのような形の漢字が出てくることはかまわない	
41.3% (イ) ワープロからもBのような辞書に用いられているものと同じ形の漢字が出てくる方がよい	
8.6% どちらとも言えない	
8.0% 分からない	

2. 平成8年度調査（文化庁文化語部国語課）

Q1 [回答票1] あなたは、ふだん、これから読み上げる言葉に「お」を付けて言いますか、それとも付けずに言いますか。（まず「弁当／お弁当」ではどうでしょうか。以下(8)まで同様に聞く） n=2,240

	(ア) 「お」を 付けて言う	(イ) 「お」を 付けずに 言う	(ウ) 「お」を 付けることも 付けずに ある	分からない
(1) 弁当／お弁当	45.3%	41.5%	13.2%	0.0%
(2) 天気／お天気	30.1	54.3	15.6	—
(3) 皿／お皿	52.8	33.8	13.4	—
(4) ビール／おビール	2.5	94.7	2.6	0.2
(5) ソース／おソース	3.9	93.4	2.6	0.1
(6) 紅茶／お紅茶	3.4	93.1	3.4	0.0
(7) 酢／お酢	33.7	54.2	12.0	0.1
(8) 薬／お薬	17.5	67.3	15.1	0.1

Q2 [回答票2] ここに挙げた(1)から(8)の文中の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。 n=2,240

	(ア) 気になる	(イ) 気に ならない	どちらとも 言えない	分から ない
(1) (電車の車内放送で) ドアを閉めさせていただきます	18.8%	78.1%	2.1%	0.9%
(2) (会議で司会者が) これで会議を終了させていただきます	8.1	89.3	2.0	0.6
(3) (店の張り紙で) 明日は休業させていただきます	7.1	91.6	1.1	0.2
(4) (店で店員が) この商品は、値引きさせていただきます	18.3	78.5	2.7	0.4
(5) (店の会計で、店員が) お会計のほう、1万円になります	32.4	63.7	3.4	0.5
(6) (千円未満の買い物をしたとき、店の会計で店員が) 千円からお預かりします	38.4	58.0	2.7	0.8
(7) (千円ちょうどの買い物をしたとき、店の会計で、店員が) ちょうどからお預かりします	61.1	35.0	2.7	1.1
(8) (デパートの店員が) 白ワインは冷やしたほうが、おいしくいただけます	12.5	83.2	2.9	1.4

Q3 [回答票3] ここに挙げた(1)から(3)の文中の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。

n=2,240

	(ア)		(イ)	
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない
(1)あしたは休まさせていただきます	33.3%	64.6%	1.8%	0.4%
(2)きょうはこれで帰らせてください	46.3	50.0	3.2	0.5
(3)担当の者を伺わせます	38.7	58.7	2.0	0.7

Q4 [回答票4] ここに挙げた(1)から(5)の言い方は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。

n=2,240

	(ア)		(イ)	
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない
(1)スープは熱いやつと冷たいやつがございます	78.7%	19.0%	1.9%	0.4%
(2)イヤホンの使用はただでございます	48.3	47.3	3.6	0.8
(3)そこの茶店でコーヒーでもいかがですか	51.2	45.1	3.0	0.8
(4)でかいお皿を御用意ください	79.9	17.9	1.8	0.4
(5)きのうは一人で夕食をいただきました	47.4	48.5	3.6	0.5

Q5 [回答票5] 会社を訪ねてきたお客さんに対する敬語の使い方として、ここに挙げた(1)から(6)の文中の下線部分は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。

n=2,240

	(ア)		(イ)	
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない
(1)受付で聞いてください	51.2%	45.8%	2.8%	0.2%
(2)受付でお聞きください	8.8	89.6	1.3	0.4
(3)受付でお聞きしてください	53.3	43.5	2.7	0.4
(4)受付でお聞きになってください	20.4	76.1	2.8	0.7
(5)受付で伺ってください	44.1	52.4	2.5	0.9
(6)受付でお伺いしてください	56.0	40.2	2.8	1.0

Q 6 [回答票 6] 小学校や中学校の生徒に、先生が名字で呼び掛けるとき、どのような呼び方をするのが一番望ましいと思いますか。この中から選んでください。 n=2,240

- 15.4% (ア) 男子にも女子にも名字に「さん」を付ける
- 2.7% (イ) 男子にも女子にも名字に「くん」を付ける
- 52.6% (ウ) 男子には名字に「くん」、女子には名字に「さん」を付ける
- 6.1% (エ) 男子、女子とも名字を呼び捨てにする
- 0.4% (オ) その他の呼び方 (具体的に)
- 7.9% (カ) 男の先生か女の先生かによって違うと思うので、一概には言えない
- 13.7% (キ) 先生の年齢や生徒の学年、あるいはその場面によって違うと思うので、一概には言えない
- 1.1% 分からない

Q 7 [回答票 7] 小学校や中学校の生徒同士が、名字に「さん」や「くん」を付けて呼び合う場合、どのような呼び方をするのが一番望ましいと思いますか。 n=2,240

(1) 男子が呼び掛ける場合はどうですか。この中から選んでください。

- 12.0% (ア) 男子にも女子にも、名字に「さん」を付ける
- 3.5% (イ) 男子にも女子にも、名字に「くん」を付ける
- 72.9% (ウ) 男子には名字に「くん」を付け、女子には名字に「さん」を付ける
- 7.5% (エ) その他 (具体的に)
- 4.0% 分からない

(2) 女子が呼び掛ける場合はどうですか。この中から選んでください。

- 20.9% (ア) 男子にも女子にも、名字に「さん」を付ける
- 2.4% (イ) 男子にも女子にも、名字に「くん」を付ける
- 67.4% (ウ) 男子には名字に「くん」を付け、女子には名字に「さん」を付ける
- 5.1% (エ) その他 (具体的に)
- 4.2% 分からない

Q 8 [回答票 8] 会合の案内の返信用はがきなどに「御住所」「御芳名」などと印刷して送り、返信人は、ふつう、「御」や「芳」を線で消すという習慣があります。この習慣についてどう思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを選んでください。 n=2,240

- 49.4% (ア) 差出人と返信人の互いの礼儀を表す習慣なので、これでいいと思う
- 23.8% (イ) 返信する人に余計な手間を掛けさせないように、初めから「住所」「氏名」と印刷しておくほうがいいと思う
- 15.0% (ウ) その会合の種類によると思うので、一概には言えない
- 9.7% (エ) 特に何も思わない
- 2.1% 分からない

Q 9 目上の人にここに挙げた(1)から(5)のことを聞くと、下線部分について、あなたはどの言い方をしますか。言うと思うものを幾つでも選んでください。 n=2,240

- (1) [回答票 9] 「テレビを見るか」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)
- 30.5% (ア) 見ますか
 - 37.1% (イ) 見られますか
 - 47.7% (ウ) 御覧になりますか
 - 16.7% (エ) 御覧になられますか
 - 0.8% (オ) 見るか
 - 0.5% (カ) その他(具体的に)
 - 0.5% 分からない
- (2) [回答票 10] 「あの本をもう読んだか」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)
- 27.5% (ア) 読みましたか
 - 42.5% (イ) 読まれましたか
 - 42.8% (ウ) お読みになりましたか
 - 19.7% (エ) お読みになられましたか
 - 0.9% (オ) 読んだか
 - 0.4% (カ) その他(具体的に)
 - 0.5% 分からない
- (3) [回答票 11] 「今すぐ食べるか」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)
- 25.1% (ア) 食べますか
 - 29.9% (イ) 食べられますか
 - 16.9% (ウ) お食べになりますか
 - 35.8% (エ) 召し上がりますか
 - 24.3% (オ) お召し上がりになりますか
 - 7.1% (カ) お上がりになりますか
 - 0.7% (キ) 食べるか
 - 0.5% (ク) その他(具体的に)
 - 0.4% 分からない
- (4) [回答票 12] 「あしたは仕事をするか」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)
- 27.7% (ア) しますか
 - 45.9% (イ) されますか
 - 45.8% (ウ) なさいますか
 - 1.1% (エ) するか
 - 0.5% (オ) その他(具体的に)
 - 0.6% 分からない

(5) [回答票 13] 「あしたの会議で意見を言うか」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)

20.2% (ア) 言いますか

41.7% (イ) 言われますか

37.9% (ウ) おっしゃいますか

15.2% (エ) おっしゃられますか

10.8% (オ) 申されますか

0.5% (カ) 言うか

0.4% (キ) その他(具体的に)

1.0% 分からない

Q10 それでは、目上の人にここに挙げた(1)から(3)のことを言うとき、下線部分について、あなたはどの言い方をしますか。言うと思うものを幾つでも選んでください。 n=2,240

(1) [回答票 14] 「その目上の人をここで待っている」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)

22.8% (ア) 待っています

11.0% (イ) 待ってます

52.4% (ウ) お待ちしています

16.6% (エ) お待ちしてます

32.2% (オ) お待ちしております

0.8% (カ) 待っている

0.4% (キ) その他(具体的に)

0.3% 分からない

(2) [回答票 15] 「その目上の人のお話を聞きたいと思う」ということについては、どうでしょうか。(M. A.)

15.0% (ア) 聞きたい(と思います)

45.7% (イ) お聞きしたい(と思います)

30.0% (ウ) 伺いたい(と思います)

33.5% (エ) お伺いしたい(と思います)

7.1% (オ) 承りたい(と思います)

0.2% (カ) その他(具体的に)

0.4% 分からない

(3) [回答票 16] 「その目上の人に言いたいことがある」ということについては、どうでしょうか。

(M. A.)

26.8% (ア) 言いたい (ことがあります)

15.8% (イ) 申したい (ことがあります)

63.7% (ウ) 申し上げたい (ことがあります)

0.9% (エ) その他 (具体的に)

1.3% 分からない

Q11 [回答票 17] 会社の課長に部下が呼び掛けるとき、どの呼び方が一番望ましいと思いますか。

n=2,240

59.7% (ア) 課長

27.2% (イ) 課長さん

8.8% (ウ) 名字に「さん」を付ける

1.2% (エ) その他の呼び方 (具体的に)

3.2% 分からない

Q12 [回答票 18] 会社で部長に対して、自分の上司である課長が、今、部屋にいないということ
を、社員が言うとしたら、どう言うのが一番望ましいと思いますか。 n=2,240

10.9% (ア) 課長は今いません

48.0% (イ) 課長は今おりません

24.2% (ウ) 課長は今いらっしゃいません

13.1% (エ) 課長は今おいでになりません

0.3% (オ) 課長は今いない

1.0% (カ) その他 (具体的に)

2.5% 分からない

Q13 [回答票 19] ここに挙げた(1)から(5)の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、
それとも気になりませんか。 n=2,240 (ア) (イ)

	気になる	気に ならない	どちらとも 言えない	分から ない
(1)きょうは <u>寒い</u> です	9.9%	88.6%	1.3%	0.2%
(2)きょうは <u>寒うござ</u> います	44.8	48.6	5.9	0.7
(3)きのうは <u>寒い</u> でした	77.0	20.6	1.8	0.6
(4)きのうは <u>寒か</u> ったです	9.1	89.1	1.6	0.3
(5)きのうは <u>寒うござ</u> いました	41.4	51.7	6.1	0.8

Q14 [回答票 20] それでは、ここに挙げた(1)から(6)の下線部分の言い方について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。 n=2,240

	(ア)		(イ)	
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない
(1)きょうは <u>寒くない</u> です	21.8%	75.6%	2.2%	0.4%
(2)きょうは <u>寒くありません</u>	8.8	90.1	0.8	0.3
(3)きょうは <u>寒くありません</u> です	82.7	14.8	2.0	0.5
(4)きのうは <u>寒くない</u> でした	80.9	16.9	1.7	0.6
(5)きのうは <u>寒く</u> なかったです	14.5	83.1	2.0	0.4
(6)きのうは <u>寒くありません</u> でした	15.7	82.4	1.4	0.5

Q15 [回答票 21] だれかを尊敬したり、自分が謙遜したり、ものごとを丁寧に言ったりするときに使う言葉を敬語と言います。あなたは、ここに挙げる(1)から(10)の下線部分が敬語だと思いますか、それとも敬語だとは思いませんか。 n=2,240

	(ア)		(イ)	
	敬語だと思う	敬語だとは思わない	分からない	
(1)私は野菜を <u>食べます</u>	10.9%	85.3%	3.8%	
(2)あしたは <u>晴れてほしい</u>	2.9	93.8	3.3	
(3) <u>お茶を飲み</u> ましょう	24.1	72.7	3.2	
(4)よろしく <u>お願い</u> 申し上げます	89.2	9.3	1.5	
(5)あの方は何でも <u>御存じ</u> だ	62.9	32.4	4.7	
(6)あの方にはとても <u>感謝</u> している	19.7	76.4	3.9	
(7)そこに <u>座りなさい</u>	4.3	93.0	2.7	
(8)そこに <u>座ってもらえる</u> ?	8.3	87.1	4.6	
(9) <u>すまない</u> が、その鉛筆を取ってくれないか	11.3	85.0	3.7	
(10)社会のために <u>微力を尽く</u> したい	16.6	77.9	5.5	

Q16 [回答票 22] あなたが敬語を使うのは、どんなときですか。この中から幾つでも選んでください。(M. A.) n=2,240

57.7% (ア) 知らない人(たとえ同年輩でも)と話するとき

79.2% (イ) 年上の人と話するとき

86.0% (ウ) 目上の人と話するとき

44.2% (エ) 意識的に改まった感じを出したいとき

69.7% (オ) 尊敬する人と話するとき

42.1% (カ) ものを頼みたいとき

20.6% (キ) 上品さを表したいとき

0.8% (ク) その他(具体的に)

1.8% (ケ) 敬語は使わない

0.3% 分からない

Q17 [回答票 23] あなたは、今まで敬語をどのような機会に身に付けてきたと思いますか。この中から幾つでも選んでください。(M. A.) n=2,240

54.5% (ア) 家庭でのしつけ

54.6% (イ) 学校の国語の授業

27.4% (ウ) 国語の授業以外での、学校の先生の指導

21.1% (エ) 学校のクラブ活動

51.4% (オ) 職場(アルバイト先を含む)の研修など

8.9% (カ) 話し方教室や作法教室、自治体や民間の講習会など

17.7% (キ) テレビやラジオで、敬語を扱った番組を視聴して

19.2% (ク) テレビやラジオで、出演者の話し方を聞いて

9.1% (ケ) 敬語について書かれた本を読んで

3.3% (コ) その他(具体的に)

4.1% 分からない

Q18 [回答票 24] あなたは、ここに挙げた(1)から(4)の意見について、そう思いますか、それともそうは思いませんか。 n=2,240

	(ア)		(イ)	
	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない	分からない
(1)学校で、敬語について十分指導することが大切だ	77.2%	15.5%	6.3%	1.1%
(2)敬語は、家庭でのしつけが大切だ	84.4	9.4	5.2	1.0
(3)学校で教えるための、敬語の基準が必要だ	54.1	28.1	12.1	5.8
(4)一般の人が敬語を使うための、敬語の目安が必要だ	45.0	34.0	13.8	7.2

Q19 [回答票 25] あなたは、ここに挙げた(1)から(7)の下線部分の言い方をすることがありますか、それともありませんか。 n=2,240

	(ア)		(イ)	
	ある	ない	分からない	
(1)「あの人は走るのが <u>すごく</u> 速い」ということを、 「あの人は走るのが <u>すごい</u> 速い」と言う	43.1%	55.5%	1.4%	
(2)「あの人 <u>みたい</u> になりたい」ということを、 「あの人 <u>みた</u> くになりたい」と言う	16.8	82.2	1.0	
(3)「 <u>なにげなく</u> そうした」ということを、 「 <u>なにげ</u> にそうした」と言う	8.8	90.3	0.9	
(4)「あの人は私より <u>1歳上</u> だ」ということを、 「あの人は私より <u>1コ上</u> だ」と言う	41.7	57.4	0.8	
(5)「 <u>とても</u> きれいだ」ということを、「 <u>チョー</u> きれいだ」と言う	12.0	87.4	0.6	
(6)「 <u>腹が立</u> つ」ということを、「 <u>むか</u> つく」と言う	43.2	56.0	0.8	
(7)「寝る前に歯を <u>磨</u> きます。その時に……」というのを、 「寝る前に歯を <u>磨く</u> じゃないですか、その時に……」と言う	13.1	85.1	1.8	

Q20 [回答票 26] あなたは、ここに挙げた(1)から(8)の言葉を聞いたこと、または見たことがありますか。(見たことがあると答えた者に) それでは、その言葉の意味が分かりますか。

n=2,240

	(ア) → (イ)		(ア) → (イ)		(ウ)
	ある	ない	分かる	何となく分かる	分からない
(1) スタンバイ	88.2%	11.8%	77.2%	8.5%	2.5%
(2) ボランティア	99.2	0.8	95.4	3.3	0.4
(3) アイデンティティー	44.7	55.3	25.5	11.3	7.9
(4) パドック	48.8	51.2	33.3	8.5	7.1
(5) マスカラ	80.0	20.0	70.9	6.1	3.0
(6) ブティック	91.8	8.2	84.8	5.2	1.8
(7) バーチャル・リアリティー	52.4	47.6	26.6	13.3	12.5
(8) インフォームド・コンセント	40.5	59.5	19.1	9.0	12.5

Q21 [回答票 27] あなたは、新聞やテレビに出てくるカタカナ語の意味が分からなくて困ることがありますか。この中から選んでください。 n=2,240

17.1% (ア) よくある	34.6% (ウ) たまにある
37.5% (イ) 時々ある	10.2% (エ) ない
	0.6% 分からない

3. 平成9年度調査（文化庁文化語部国語課）

Q1 [回答票1] あなたは、ふだん、あなた自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っていますか。この中から選んでください。 n=2,190

- 7.9% (ア) 非常に気を使っている
- 59.4% (イ) ある程度気を使っている
- 29.4% (ウ) 余り気を使っていない
- 3.3% (エ) 全く気を使っていない
- 0.1% 分からない

Q2 [回答票2] ここに挙げた(1)から(3)について、あなたは(a)と(b)のどちらに当てはまると思われますか。 n=2,190

(1) (a) 自分の考えや意見を積極的に表現する方だ

(b) 自分の考えや意見を表現することには消極的な方だ

- 40.1% (ア) (a)に当てはまると思う
- 35.1% (イ) (b)に当てはまると思う
- 24.3% (ウ) 場合によると思う
- 0.5% 分からない

(2) (a) 人と意見が食い違っているときには、納得がいくまで議論したい方だ

(b) 人と意見が食い違っているときには、なるべく事を荒立てないで収めたい方だ

- 27.1% (ア) (a)に当てはまると思う
- 50.7% (イ) (b)に当てはまると思う
- 21.9% (ウ) 場合によると思う
- 0.4% 分からない

(3) (a) 人に話をするときには、筋道を立てて分かりやすく話すことを心掛ける方だ

(b) 人に話をするときには、相手の気持ちになじむように、やわらかく話すことを心掛ける方だ

- 40.7% (ア) (a)に当てはまると思う
- 41.6% (イ) (b)に当てはまると思う
- 16.3% (ウ) 場合によると思う
- 1.4% 分からない

Q3 [回答票3] あなたは、ふだん、ここに挙げた(1)から(4)のようにしますか。それぞれについて、「する」「しない」でお答えください。

n=2,190

	(ア)	(イ)	(ウ)	分から ない
	する	しない	場合による と思う	
(1) 人に贈物をするときには、「つまらないものですが」 などと謙遜する	51.4%	26.0%	22.0%	0.5%
(2) 人に贈物をするときには、「苦勞して選びました」「と てもおいしいんですよ」などと、その物の良さを表す 言葉を添える	18.4	57.9	22.9	0.8
(3) 会議などで提案をするときには、「もし皆さんがよろし かったら……したいと思いますが」などと言い、自分 を強く出さないようにする	47.6	20.3	26.9	5.2
(4) 会議などで提案をするときには、「私はこうすべきだと 思います」などと、自分の考えをはっきり言う	33.7	27.0	35.2	4.1

Q4 [回答票4] あなたは、ふだん、人と話すときに、ここに挙げた(1)から(6)のようなことをし
ますか。それぞれについて、「する」「しない」でお答えください。

n=2,190

	(ア)	(イ)	(ウ)	分から ない
	する	しない	場合による と思う	
(1) 冗談を言ったりして、話しやすい雰囲気を作ろうと する	60.5%	15.3%	23.9%	0.3%
(2) 相手の立場や事情に気を使って、思いやりのある言 葉を言う	68.8	7.4	23.2	0.6
(3) 自分や自分の側のことは謙遜して話す	56.4	16.3	26.5	0.8
(4) 相手自身や、相手の持ち物などを褒める	36.5	29.8	33.2	0.6
(5) 相手の言うことが間違っていると思っても、一応理 解を示しておく	47.5	17.5	33.6	1.3
(6) 自分が悪いと思っていなくても、一応謝っておく	27.7	34.2	36.7	1.4

Q 5 [回答票 5] ここに挙げた(1)から(10)で、aにとってbは敬語を使って話すべきだと思いますか。それとも、そうは思いませんか。「まず、子にとって親は敬語を使って話すべき相手だと思いますかについては、どうですか。」 n=2,190

		(ア)	(イ)	(ウ)	
		敬語を使っ て話すべき 相手だと思 う	敬語を使っ て話すべき 相手だとは 思わない	場合に よると 思う	分から ない
(1)	a. 子 → b. 親	22.9%	42.3%	33.9%	0.8%
(2)	a. 年下のきょうだい → b. 年上のきょうだい	15.0	57.7	26.1	1.2
(3)	a. 学生・生徒 → b. 教師	83.7	4.8	10.8	0.7
(4)	a. 学校のクラブの後輩 → b. 同じクラブの先輩	60.4	14.1	22.9	2.6
(5)	a. 年下の人 → b. 年上の人	68.5	6.3	24.7	0.5
((6)~(10)は、a・bの年齢は同じくらいとします)					
(6)	a. 店の人 → b. 店の客	75.9	8.7	14.6	0.9
(7)	a. 店の客 → b. 店の人	26.5	36.8	35.4	1.3
(8)	a. 患者 → b. 医師	74.7	10.3	14.2	0.9
(9)	a. 医師 → b. 患者	42.7	23.2	32.4	1.7
(10)	a. ものを頼む立場の人 → b. ものを頼まれる立場の人	75.8	4.2	19.1	0.8

Q 6 [回答票 6] 中学生や高校生が、担任の先生に対して、ここに挙げた(1)から(5)の場面で敬語を使って話すべきだと思いますか。それとも、そうは思いませんか。 n=2,190

		(ア)	(イ)	(ウ)	
		敬語を使っ て話すべき だと思う	敬語を使っ て話す必要 はないと思 う	話題に よると 思う	分から ない
(1)	授業中	69.1%	14.5%	14.8%	1.5%
(2)	クラブ活動で指導を受けているとき	67.3	14.6	16.0	2.1
(3)	休み時間に職員室で話すとき	69.1	11.0	18.2	1.6
(4)	休み時間に学校の廊下で話すとき	56.6	17.1	24.7	1.6
(5)	放課後、道で出会ったとき	61.1	14.2	22.8	1.8

Q7 [回答票7] 会社に勤めている人が、上司である課長に対して、ここに挙げた(1)から(4)の場面で敬語を使って話すべきだと思いますか。それとも、そうは思いませんか。 n=2,190

	(ア)	(イ)	(ウ)	分から
	敬語を使っ	敬語を使っ	話題に	分から
	て話すべき	て話す必要は	よると	ない
	だと思っ	ないと思っ	思う	
(1) 会社での工作中	85.9%	5.8%	7.0%	1.3%
(2) 社員旅行に行つて、ほかの社員もいる部屋で話すとき	52.6	19.2	26.4	1.8
(3) 仕事の後、二人で飲みに行った酒場で話すとき	36.2	29.5	31.6	2.7
(4) 買物先の店で出会つたとき	57.2	18.6	22.1	2.1

Q8 [回答票8] 近所の小売店に、店員の親しい友人が買物に来たとき、店員は敬語を使ってその人と話すべきだと思いますか。それとも、ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思いませんか。 n=2,190

- 23.0% (ア) 敬語を使って話すべきだと思う
- 65.5% (イ) ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思う
- 10.3% どちらとも言えない
- 1.1% 分からない

Q9 [回答票9] デパートに、店員の親しい友人が買物に来たとき、店員は敬語を使ってその人と話すべきだと思いますか。それとも、ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思いませんか。 n=2,190

- 43.7% (ア) 敬語を使って話すべきだと思う
- 44.0% (イ) ふだんどおりの打ち解けた話し方でよいと思う
- 11.1% どちらとも言えない
- 1.1% 分からない

Q10 [回答票 10] あなたは、相手が自分と同じ性（つまり男性）／（つまり女性）であるか違う性（つまり女性）／（つまり男性）であるかによって、自分の言葉遣いの丁寧さが変わると
 思いますか。それとも、そうは思いませんか。この中から選んでください。 n=2,190

【調査員注：質問文は、男性か女性かによって、読み方を変える】

34.6%	56.2%	8.4%	0.7%
(ア)	(イ)		
<u>変わると思う</u>	<u>変わらないと思う</u>	<u>どちらとも言えない</u>	<u>分からない</u>
↓		↳ (Q11へ)	

SQ [回答票 11] それでは、あなたは、自分の言葉遣いの丁寧さがどう変わると思いますか。こ
 の中から選んでください。 n=758

14.6% (ア) 同性と話すときの方が、異性と話すときより丁寧な言葉遣いになると思う
 80.5% (イ) 異性と話すときの方が、同性と話すときより丁寧な言葉遣いになると思う
 4.9% 分からない

Q11 あなたは、お勤めをなさっていますか。 n=2,190

45.6%	54.4%	—
<u>勤めている</u>	<u>勤めていない</u>	<u>分からない</u>
↓		↳ (Q12へ)

SQ 1 [回答票 12] あなたの職場では、地位による序列の意識が強いと思いますか、それとも、
 弱いと思いますか。 n=998

41.7% (ア) 地位による序列の意識が強いと思う
 41.9% (イ) 地位による序列の意識が弱いと思う
 14.6% どちらとも言えない
 1.8% 分からない

SQ 2 [回答票 13] あなたは、職場に自分よりも地位が下で年上の人がいる場合、その人に対し
 て敬語を使いますか。この中から選んでください。 n=998

61.9% (ア) 敬語を使う
 21.4% (イ) 敬語は使わない
 14.5% どちらとも言えない
 2.1% 分からない

S Q 3 [回答票 14] あなたは、職場に自分よりも地位が上で年下の人がいる場合、その人に対して敬語を使いますか。この中から選んでください。 n=998

- 62.5% (ア) 敬語を使う
- 19.0% (イ) 敬語は使わない
- 15.8% どちらとも言えない
- 2.6% 分からない

Q12 [回答票 15] 会社の受付の人が外部の人に、自分の会社の鈴木課長のことを話す場合、「鈴木は…」と言うのと「鈴木さんは…」と言うのと「鈴木課長は…」と言うのでは、どれが一番よいと思いますか。 n=2,190

- 48.4% (ア) 「鈴木は…」
- 5.3% (イ) 「鈴木さんは…」
- 43.0% (ウ) 「鈴木課長は…」
- 1.4% どれがよいとも言えない
- 2.0% 分からない

Q13 [回答票 16] 学校の先生が生徒の保護者に、同僚の田中先生のことを話す場合、「田中は…」と言うのと「田中さんは…」と言うのと「田中先生は…」と言うのでは、どれが一番よいと思いますか。 n=2,190

- 10.8% (ア) 「田中は…」
- 3.8% (イ) 「田中さんは…」
- 83.6% (ウ) 「田中先生は…」
- 0.8% どれがよいとも言えない
- 1.0% 分からない

Q14 [回答票 17] 病院の医師が大人の患者に、同僚の木村医師のことを話す場合、「木村は…」と言うのと「木村さんは…」と言うのと「木村先生は…」と言うのでは、どれが一番よいと思いますか。 n=2,190

- 9.2% (ア) 「木村は…」
- 3.6% (イ) 「木村さんは…」
- 85.5% (ウ) 「木村先生は…」
- 0.8% どれがよいとも言えない
- 0.9% 分からない

Q15 [回答票 18] 日ごろ親しくしている友人の山田さんの家に電話を掛けるときの言い方として、
 この中ではどれが一番よいと思いますか。 n=2,190

- 76.9% (ア) 山田さんのお宅ですか
- 9.5% (イ) 山田さんのお宅でございますか
- 12.4% (ウ) 山田さんのお宅でいらっしゃいますか
- 1.1% どれがよいとも言えない
- 0.1% 分からない

Q16 [回答票 19] 学生時代にお世話になった山田先生のお家に電話を掛けるときの言い方として、
 この中ではどれが一番よいと思いますか。 n=2,190

- 28.8% (ア) 山田先生のお宅ですか
- 32.4% (イ) 山田先生のお宅でございますか
- 37.6% (ウ) 山田先生のお宅でいらっしゃいますか
- 0.8% どれがよいとも言えない
- 0.4% 分からない

Q17 [回答票 20] ここに挙げた(1)から(8)の下線部分では、敬語が正しく使われていると思いますか。それとも、正しく使われていないと思いますか。 n=2,190

	(ア)		(イ)	
	正しく使 われてい ると思う	正しく使 われてい ないと思 う	どちらと も言えな い	分から ない
(1) この商品の使い心地を是非ともお試 <u>し</u> ください	82.4%	11.4%	3.2%	3.0%
(2) あの方は、昨年東京に <u>ま</u> いりまして、大学で教えてい らっしゃいます	22.4	68.1	4.6	5.0
(3) 先ほど中村さんがお話しされたように、この本はとて も役に立ちます	72.6	21.7	3.2	2.4
(4) (高校生が担任の先生に) あす父が <u>ま</u> いりますが、 <u>お</u> <u>目</u> に掛かっていただけませんか	42.4	51.8	3.0	2.8
(5) ただいま会長が <u>申</u> されたことに賛成いたします	56.7	36.5	3.5	3.2
(6) 間もなく先生が <u>お見</u> えになります	85.8	10.4	2.1	1.7
(7) この電車には <u>御乗</u> 車できません	63.2	30.5	3.0	3.2
(8) 総務課の武田さんは、どちらに <u>お</u> られますか	64.4	30.0	3.3	2.4

Q18 [回答票 21] ここに挙げた(1)から(3)で、a と b の言い方ではどちらの方が改まった感じがしますか。 n=2,190

- | | | | | |
|---|------|-----------|--|--|
| (1) (a) あしたお届けします / (b) 明日お届けします | | | | |
| 7.6% (ア) (a)の方が改まった感じがする | 3.3% | どちらとも言えない | | |
| 88.7% (イ) (b)の方が改まった感じがする | 0.4% | 分からない | | |
| (2) (a) そのことなら知っております / (b) そのことなら存じております | | | | |
| 6.8% (ア) (a)の方が改まった感じがする | 2.1% | どちらとも言えない | | |
| 90.7% (イ) (b)の方が改まった感じがする | 0.4% | 分からない | | |
| (3) (a) 申し訳ございません / (b) すみませんでした | | | | |
| 89.5% (ア) (a)の方が改まった感じがする | 2.1% | どちらとも言えない | | |
| 8.0% (イ) (b)の方が改まった感じがする | 0.3% | 分からない | | |

Q19 [回答票 22] ここに挙げた(1)から(4)のような表現をすることは、()内の人に対して失礼だと思いませんか。それとも、そうは思いませんか。 n=2,190

- | | | | | |
|--|-------|--------|-------|------|
| | (ア) | (イ) | | |
| | 失礼だと思 | 失礼だとは思 | どちらとも | 分から |
| | う | わない | 言えない | ない |
| (1) 会社で、社員が上司である部長に対して、「コーヒーがお飲み
になりたいですか」と尋ねること (部長に対して) | 52.0% | 38.3% | 6.0% | 3.7% |
| (2) 会社で、社員が上司である部長に対して、「いい
時計ですね。幾らしましたか」と尋ねること
(部長に対して) | 77.5 | 16.5 | 3.8 | 2.1 |
| (3) テレビのレポーターが、高齢の女性に「おばあちゃん」
と呼び掛けること (呼び掛けられた女性に対して) | 55.2 | 34.0 | 9.5 | 1.3 |
| (4) 広告に「このカメラは女性でも簡単に扱えます」
と書くこと (女性一般に対して) | 47.5 | 42.9 | 7.4 | 2.2 |

Q20 [回答票 23] あなたは、これからの時代の言葉遣いはどうあるべきだと思いますか。ここに挙げた意見の中から、特に大切だと思うものを二つ選んでください。(M. A.) n=2,190

- | | |
|--|--|
| 23.9% (ア) 話す人の主張を論理的に伝えるものであるべきだ | |
| 63.7% (イ) 話す人の気持ちを、分かりやすく飾らずに伝えるものであるべきだ | |
| 42.4% (ウ) 相手への気配りを表すものであるべきだ | |
| 7.3% (エ) 話す人の品の良さを表すものであるべきだ | |
| 46.6% (オ) 人間関係を滑らかにするものであるべきだ | |
| 2.4% 分からない | |

Q21 [回答票 24] あなたは、これからの時代の敬語はどうあるべきだと思いますか。ここに挙げた(1)と(2)について、あなたの考えが(a)と(b)のどちらに近いかをお答えください。 n=2,190

- (1) (a) 敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ
(b) 敬語は美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ
- 41.4% (ア) (a)の考え方に近い
46.9% (イ) (b)の考え方に近い
10.2% (ウ) どちらとも言えない
1.4% 分からない

- (2) (a) 敬語は伝統的な言い方をできるだけ守っていくべきだ
(b) 新しい時代にふさわしい敬語を考えていくべきだ
- 33.5% (ア) (a)の考え方に近い
48.1% (イ) (b)の考え方に近い
16.5% (ウ) どちらとも言えない
1.8% 分からない

Q22 [回答票 25] あなたは、ここに挙げた(1)と(3)の下線部分の言い方について、どんな感じがしますか。あなたの感じ方に近いものをこの中から一つ選んでください。「(オ) その他」の場合、具体的にお答えください。 n=2,190

- (1) (店員に反論して) 広告には5割引きと書いてあるじゃないですか。

- 39.2% (ア) 普通の言い方だと感じる
2.8% (イ) 親しみのある言い方だと感じる
33.5% (ウ) 押し付けがましい言い方だと感じる
19.8% (エ) 唐突な言い方だと感じる
1.8% (オ) その他(具体的に)
2.9% 分からない

- (2) (近所の人との会話で) 年末はどこの店も込むじゃないですか。

- 58.7% (ア) 普通の言い方だと感じる
16.9% (イ) 親しみのある言い方だと感じる
13.7% (ウ) 押し付けがましい言い方だと感じる
6.7% (エ) 唐突な言い方だと感じる
0.9% (オ) その他(具体的に)
3.2% 分からない

(3) (初対面の人に) 私ってコーヒーが好きじゃないですか。

10.2% (ア) 普通の言い方だと感じる

5.8% (イ) 親しみのある言い方だと感じる

26.0% (ウ) 押し付けがましい言い方だと感じる

45.9% (エ) 唐突な言い方だと感じる

3.2% (オ) その他(具体的に

8.9% 分からない

Q23 [回答票 26] あなたは、ここに挙げた(1)から(8)の言葉を聞いたこと、又は見たことがありますか。(聞いたこと・見たことがあると答えた人に) それでは、その言葉の意味が分かりますか。

n=2,190

	→				
	(ア) ある	(イ) ない	(ア) 分かる	(イ) 何となく 分かる	(ウ) 分からない
(1) アイテム	62.4%	37.6%	31.2%	18.0%	13.2%
(2) ディベート	40.8	59.2	24.9	9.6	6.3
(3) エコロジー	76.6	23.4	39.1	23.6	13.8
(4) ボーダーレス	47.9	52.1	26.7	12.9	8.3
(5) Tゾーン	55.0	45.0	35.4	11.6	8.0
(6) JA	82.1	17.9	71.9	6.5	3.7
(7) ISDN	31.7	68.3	15.6	8.3	7.9
(8) ODA	47.5	52.5	23.2	13.5	10.8

Q24 [回答票 27] あなたはふだん、ここに挙げた(1)から(3)の言葉を、(ア)と(イ)のどちらで発音

していますか。どちらの場合もある人は、発音することの多い方を教えてください。 n=2,190

(1) 3階

26.2% (ア) さんかい 2.5% どちらとも同じくらいの割合で言う

71.1% (イ) さんがい 0.1% 分からない

(2) 着替える

6.1% (ア) きかえる 0.8% どちらとも同じくらいの割合で言う

92.9% (イ) きがえる 0.2% 分からない

(3) あり得る

35.6% (ア) ありうる 4.4% どちらとも同じくらいの割合で言う

58.8% (イ) ありえる 1.1% 分からない

4. 平成 10 年度調査（文化庁文化語部国語課）

Q 1 [回答票 1] 人との付き合いを滑らかに進めるために、私たちは、相手や場面に応じていろいろと気配りをしています。あなたは、ここに挙げた(1)から(4)の下線部分の言い方に気配りを感じますか。それとも、特に気配りは感じませんか。又は、かえって煩わしいと感じますか。

n=2,200

	(ア)	(イ)	(ウ)	分から
	気配りを 感じる	特に気配り は感じない	かえって 煩わしい と感じる	ない
(1) <u>悪いけど</u> 、この本貸してくれない？	39.1%	53.0%	5.6%	2.3%
(2) (5回以上ベルが鳴った後、電話に出た鈴木さんが) <u>お待たせいたしました。鈴木でございます。</u>	75.7	20.2	3.1	1.0
(3) (夜遅く電話を掛けてきた友達の林さんが) <u>夜分すみ ません。林ですが、太郎君お願いします。</u>	78.8	17.7	2.4	1.1
(4) (友達を家に誘うとき) <u>もしよかったら、あした私 (僕)の家に来ない？</u>	49.2	44.5	4.4	1.9

Q 2 [回答票 2] あなたは、ふだん、ここに挙げた(1)から(3)のようなとき、周囲の人に対してどのような行動をとりますか。 n=2,200

- (1) 食堂で空いた席を見付けて座るとき、隣の席の人に対して
- 75.5% (ア) 「ここ、いいですか」などと尋ねる
3.6% (イ) 無言で座る
20.2% (ウ) 場合によって、尋ねることも尋ねないこともある
0.6% 分からない
- (2) 込んだ電車を降りるとき、入り口の方にいる人に対して
- 61.7% (ア) 「すみません、降ります」などと声を掛ける
9.4% (イ) 無言で入り口の方に進む
28.0% (ウ) 場合によって、声を掛けることも掛けないこともある
1.0% 分からない
- (3) 劇場や映画館などで、中央にある自分の席まで行こうとするとき、途中の席に座っている人に対して
- 73.7% (ア) 「前を失礼します」などと声を掛ける
5.7% (イ) 無言で自分の席まで進む
19.0% (ウ) 場合によって、声を掛けることも掛けないこともある
1.7% 分からない

Q 3 [回答票 3] ここに挙げた(1)から(5)について、あなたはそう思いますか。それとも、そうは
 思いませんか。 n=2,200

	(ア)	(イ)	(ウ)	分から ない
	そう思う	そうは 思わない	どちらとも 言えない	
(1) 行き届いた言葉遣いができる人に接していると、 気持ちがよい	89.0%	3.6%	7.1%	0.3%
(2) 乱暴な言葉ばかり使って生活していると、その 人の心に潤いがなくなる	69.2	15.1	14.7	1.0
(3) 日ごろ良い言葉遣いを心掛けて生活していると、 その人の人柄が良くなる	63.5	18.1	17.3	1.1
(4) 敬語を使うべきときに敬語を使わないで話すのは、 感じが良くない	80.8	8.6	10.0	0.6
(5) 必要以上に敬語を多く使って話すのは、感じが良く ない	77.3	10.0	12.2	0.5

Q 4 [回答票 4] 規模の大きな小売店や飲食店などでは、店員が接客の手引（マニュアル）に基づ
 いて対応しているところがあるようです。手引どおりの言葉遣いをする結果生じたと思われる
 (1)から(3)のような状況について、あなたは気になりますか、それとも気になりませんか。

n=2,200

	(ア)	(イ)	(ウ)	分から ない
(1) ファーストフード店へ一人で行って、食べ物を 10 人前注文しても、店員が「こちらでお召し 上がりですか」と尋ねる	41.7%	43.8%	11.1%	3.4%
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	
(2) 何度もその店に行って顔なじみになっているのに、店員が初めての客に接するときと同じ言葉 遣いをする	31.5%	54.1%	13.0%	1.3%
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない
(3) 初めて来た客に対して、店員が「毎度ありがとうございます」と言う	10.3%	81.5%	7.5%	0.8%
	気になる	気にならない	どちらとも言えない	分からない

Q 5 [回答票 5] ここに挙げた(1)から(4)で、それぞれに掲げた(a)と(b)の二つの言い方を比べると、あなたはどちらの方が、より丁寧な言い方だと感じますか。 n=2,200

- (1) (a) きのお伺いしました
(b) 昨日お伺いしました
13.6% (ア) (a)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
68.6% (イ) (b)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
16.9% (ウ) どちらも丁寧さに差はないと思う
0.8% 分からない

- (6) (a) これは、山田さんの荷物ですか
(b) これって、山田さんの荷物ですか
89.7% (ア) (a)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
2.4% (イ) (b)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
6.8% (ウ) どちらも丁寧さに差はないと思う
1.1% 分からない

- (7) (a) 貸してくれますか
(b) 貸してくれませんか
15.8% (ア) (a)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
67.3% (イ) (b)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
15.6% (ウ) どちらも丁寧さに差はないと思う
1.3% 分からない

- (8) (a) 御旅行はどちらへ行かれたのですか
(b) 御旅行はどちらへおいでになったのですか
31.9% (ア) (a)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
51.9% (イ) (b)の方が、より丁寧な言い方だと感じる
15.2% (ウ) どちらも丁寧さに差はないと思う
1.0% 分からない

Q 6 [回答票 6] ふだんの生活の中で、間違った言い方やふさわしくない言い方として、人の言葉が気になることがあると思いますが、ここに挙げた(1)から(8)の文中の下線部分の言い方は、あなたにとって気になりますか、それとも気になりませんか。 n=2,200

	(ア) 気になる	(イ) 気に ならない	どちらとも 言えない	分から ない
(1) 先生は心配しておられたよ	43.1%	51.8%	4.5%	0.6%
(2) 御安心してお使いください	33.3	63.4	2.8	0.5
(3) 電車がまいります	24.7	72.0	3.0	0.3
(4) 鈴木さんはおいでになられますか	26.2	69.9	3.6	0.3
(5) 先生は講義がお上手ですね	27.5	68.1	3.7	0.7
(6) どうぞ <u>ごゆっくり</u> してください	15.5	82.4	1.8	0.3
(7) <u>お歩きやすい靴</u> を御用意ください	75.4	22.3	2.1	0.3
(8) 誠に申し訳なく、深く <u>反省</u> させていただきます	41.4	53.4	4.5	0.7

Q 7 [回答票 7] ここに挙げた(1)から(5)について、あなたは、ふだん(a)と(b)のどちらの言い方をしますか。両方するという人は、多いと思う方を答えてください。 n=2,200

- (1) (a) (この本,) 難しいんじゃないですか?
 (b) (この本,) 難しいんじゃないありませんか?
 70.6% (ア) (a)の言い方をする
 17.2% (イ) (b)の言い方をする
 7.0% (ウ) どちらの言い方も同じくらいする
 4.5% (エ) どちらの言い方もしない
 0.7% 分からない
- (2) (a) 一緒に行きませんか?
 (b) 一緒に行かないですか?
 86.4% (ア) (a)の言い方をする
 6.0% (イ) (b)の言い方をする
 4.8% (ウ) どちらの言い方も同じくらいする
 2.6% (エ) どちらの言い方もしない
 0.2% 分からない

- (3) (a) 今日は特に予定がありません
(b) 今日は特に予定がないです
67.3% (ア) (a)の言い方をする
21.6% (イ) (b)の言い方をする
8.6% (ウ) どちらの言い方も同じくらいする
2.2% (エ) どちらの言い方もしない
0.3% 分からない

- (4) (a) 見掛けませんでしたか？
(b) 見掛けなかったですか？
64.3% (ア) (a)の言い方をする
22.0% (イ) (b)の言い方をする
10.8% (ウ) どちらの言い方も同じくらいする
2.5% (エ) どちらの言い方もしない
0.4% 分からない

- (5) (a) (目上の人に対して) はい, 元気です
(b) (目上の人に対して) ええ, 元気です
86.6% (ア) (a)の言い方をする
6.4% (イ) (b)の言い方をする
5.7% (ウ) どちらの言い方も同じくらいする
1.2% (エ) どちらの言い方もしない
0.1% 分からない

Q 8 [回答票 8] ここに挙げた (ア) から (セ) は, いろいろな場面での気配りなどを表す言葉です。この中から, あなたが使うことがあると思う言い方 (似た言い方を含む) を幾つでも挙げてください。(M. A.) n=2,200

- 72.0% (ア) (頼みを断るとき) お役に立てなくて, すみません
55.0% (イ) (食事を勧めるとき) お口に合うかどうか分かりませんが
41.9% (ウ) (美術品などを見せてもらったとき) おかげさまで, 目の保養になりました
35.0% (エ) (誘いを断るとき) お伺いしたいのは山々ですが
18.3% (オ) (腕前を褒められたとき) お恥ずかしゅうございます
67.8% (カ) (人に贈物を渡すとき) つまらないものですが
36.5% (キ) (料理を食べてもらった後で) お粗末でございました
20.1% (ク) (歌や演奏を披露した後で) お粗末でございました

- 53.2% (ケ) (上達を認められたとき) (先生・皆様の) おかげでございます
- 85.5% (コ) (久しぶりで連絡するとき) 御無沙汰しております
- 64.3% (サ) (会合などに誘うとき) よろしかったら (おいでになりませんか)
- 41.4% (シ) (依頼を断られたとき) どうぞお気になさらないでください
- 27.7% (ス) (電話で呼んでもらうとき) もし、お手すきでしたらお電話口までお願いしたいのですが
- 37.8% (セ) (乾杯を指名されたとき) それでは、僭越ではございますが御指名によりまして
- 3.0% 分からない

Q9 [回答票9] ここに挙げた(1)から(4)のような言い方を聞いたとき、あなたはどのように感じますか。(ア)、(イ)のうち、あなたの感じ方に近いと思う方を答えてください。 n=2,200

- (1) あなたの友人が、自分の知り合いのことを話すのに、「私の知り合いで、会社の社長さんなんですけど、今度御本をお書きになってね、出版記念会をなさるっておっしゃっているんですよ。」のように、敬語を使って話したとき。(ただし、あなたは、この「社長さん」を知りません。)
- 40.2% (ア) どんなに偉い社長かは知らないが、私とは関係ない人に敬語を使うのは不適切な言い方だと感じる
- 50.6% (イ) 友人にとって偉い社長なのだろうから、自然な言い方だと思う
- 9.2% 分からない
- (2) (あなたが会社員であると仮定して) あなたの同僚があなたに、「部長はきのう相撲を見に行っただって」と、上司である部長本人のいないところで言ったとき。
- 30.4% (ア) 上司なのだから、たとえそこにいなくても「相撲を見にいらした(行かれた)んだって。」ぐらいの言い方はすべきだと思う
- 64.0% (イ) 本人がいないのだから、この言い方でよいと思う
- 5.5% 分からない
- (3) あなたが交通事故でけがをして寝ているところに、看護婦さんが「あ、加害者の方がお見えになりました。」と言ったとき。
- 19.2% (ア) 加害者を敬っているような言い方で、不適切だと思う
- 75.5% (イ) 看護婦の立場なら、この言い方でよいと思う
- 5.4% 分からない
- (4) テレビで司会者が、「さあ、次は〇〇さんに歌っていただきましょう。」と歌手を紹介したとき。
- 18.4% (ア) 司会者が歌手を敬う言い方をするのはおかしい。「〇〇さんの歌をお聞きいただきましょう」などと、視聴者を敬う言い方をするのがよいと思う
- 75.1% (イ) 司会者が歌手を敬う立場をとるのは自然なので、この言い方でよいと思う
- 6.5% 分からない

【男性に聞く】

Q10 次の質問は現在結婚している男性の方への質問なので、お伺いしますが、あなたは現在結婚されていますか。(いいえの場合Q12へ) n=1,022

74.7%

25.3%

はい

いいえ (現在結婚していない)

↓

↳ (Q12へ)

[回答票 10] あなたは、家族以外の人と話をしているとき、あなたの配偶者（結婚相手）のことを、どう言い表しますか。ここに挙げた（ア）から（テ）の中から、あなたが使うと思う言い方を幾つでも挙げてください。(M. A.) n=763 (%)

51.1 (ア) 家内	4.1 (ク) 連れ合い	9.6 (ソ) ばあさん・おばあさん
37.5 (イ) 女房	4.2 (ケ) ワイフ	5.6 (タ) ばあちゃん・おばあちゃん
22.9 (ウ) 妻(つま)	14.9 (コ) かみさん	24.1 (チ) 名前で言う
1.0 (エ) 妻(さい)	20.6 (サ) 母さん・お母さん	4.2 (ツ) 愛称で言う
3.8 (オ) 彼女	7.9 (シ) 母ちゃん・お母ちゃん	2.4 (テ) その他
25.3 (カ) うちの	15.5 (ス) 嫁さん・嫁はん	(具体的に)
22.4 (キ) うちのやつ	2.9 (セ) ママ・ママちゃん	0.5 分からない

【女性に聞く】

Q11 次の質問は現在結婚している女性の方への質問なので、お伺いしますが、あなたは現在結婚されていますか。(いいえの場合Q12へ) n=1,178

76.0%

24.0%

はい

いいえ (現在結婚していない)

↓

↳ (Q12へ)

[回答票 11] あなたは、家族以外の人と話をしているとき、あなたの配偶者（結婚相手）のことを、どう言い表しますか。ここに挙げた（ア）から（テ）の中から、あなたが使うと思う言い方を幾つでも挙げてください。(M. A.) n=895 (%)

74.6 (ア) 主人	2.2 (ク) 連れ合い	6.8 (ソ) じいちゃん・おじいちゃん
22.2 (イ) 旦那(だんな)	1.9 (ケ) 亭主	5.1 (タ) 名字で言う
5.5 (ウ) 旦那(だんな)さん	0.2 (コ) 宿六	16.3 (チ) 名前で言う
14.3 (エ) 夫	43.7 (サ) 父さん・お父さん	7.3 (ツ) 愛称で言う
4.1 (オ) 彼	3.9 (シ) 父ちゃん・お父ちゃん	1.1 (テ) その他
7.0 (カ) うちの	11.2 (ス) パパ	(具体的に)
23.1 (キ) うちの人	3.9 (セ) じいさん・おじいさん	0.2 分からない

【全員に聞く】

Q12 [回答票 12] あなたは、漢字や平仮名、片仮名など、ふだん使っている文字について、どの程度関心を持っていますか。この中から選んでください。 n=2,200

12.5%	53.3%	30.1%	3.5%	0.6%
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
非常に関心を 持っている	ある程度関心を 持っている	余り関心を 持っていない	全く関心を 持っていない	分からない

Q13 [回答票 13] あなたは、漢字についてどのような意識を持っていますか。この中から、当てはまるものがあれば、幾つでも選んでください。(M. A.) n=2,200

72.8% (ア) 日本語の表記に欠くことのできない大切な文字である
12.2% (イ) 日本語の表記を難しくしている文字である
3.7% (ウ) 漢字を覚えるのは大変なので、なるべく使わない方がよい
61.7% (エ) 漢字を見るとすぐに意味が分かるので便利である
52.0% (オ) ワープロなどがあっても、漢字学習はしっかりとやるべきである
9.3% (カ) ワープロなどがあるので、これからは漢字を書く必要は少なくなる
11.9% (キ) 漢字の使い方についてはかなり自信がある
42.4% (ク) 漢字の使い方については余り自信がない
2.3% 分からない

Q14 [回答票 14] あなたは、ふだん、文書作成のためにワープロやパソコンを使っていますか。

n=2,200

12.8%	9.1%	8.1%	5.0%	12.6%	52.2%	0.1%
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	
ほとんど 毎日使う	週に1回 以上使う	月に1回 以上使う	年に1回 以上使う	以前使ったことがある が、今は使っていない	全く使った ことがない	分からない

Q15 [回答票 15] ワープロやパソコンの普及によって簡単に漢字が打ち出せるために、最近の文書では漢字を多く使う傾向が目立つという指摘があります。このことについて、あなたはどうか考えますか。(ア)、(イ)のうち、あなたの考えに近いと思う方を答えてください。 n=2,200

39.4% (ア) ワープロなどによって漢字が簡単に打ち出せるのだから、漢字をどんどん使っていくことは望ましい
45.0% (イ) ワープロなどで漢字が簡単に打ち出せるからといって、必要以上に漢字を多く使うのは望ましくない
15.6% 分からない

Q16 [回答票 16] 常用漢字表（一般社会における漢字使用の目安）に入っていない漢字には、これまで標準の字体が決められていませんでした。そのために、「かもめ」に対して「𠂔」と「鷗」, 「ぼうとく」の「とく」に対して「冒𠂔」と「冒𠂔」のように、一部の漢字に異なった二つの字体が使われています。このような印刷文字の字体の不統一について、あなたはどのように思いますか。 n=2,200

49.8%	39.4%	10.8%
(ア)	(イ)	(ウ)
不統一は望ましくない	不統一でも構わない	分からない

Q17 [回答票 17] この中の(1)から(12)の漢字について、あなたは、ふだん、(a)と(b)のどちらの形を見掛けることが多いと思いますか。(1)から(12)のそれぞれについて聞く) n=2,200

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)			
	(a)の形 が多い	(b)の形 が多い	(a)の形と (b)の形が 半々ぐらい	(a)の形、(b)の形 とも余り見掛け ない	分から ない		
	(a)	(b)					
(1) うさぎ	(兔 / 兎)		3.2%	92.2%	1.2%	1.8%	1.6%
(2) だえん	(橢円 / 橢円)		6.6	77.8	1.9	8.0	5.8
(3) めん	(麵 / 麵)		24.5	61.8	11.6	0.7	1.4
(4) あふれる	(溢れる / 溢れる)		24.5	59.8	8.2	4.2	3.2
(5) みそ	(味噌 / 味噌)		57.3	31.6	8.8	1.1	1.1
(6) ぼうとく	(冒𠂔 / 冒𠂔)		35.0	34.3	2.6	18.7	9.4
(7) へそ	(臍 / 臍)		40.7	30.6	4.7	17.0	7.0
(8) あめ	(飴 / 飴)		28.5	54.3	13.7	1.9	1.6
(9) きゅうしゃ	(廐舎 / 厩舎)		7.2	69.3	2.0	13.9	7.6
(10) きとう	(祈禱 / 祈祷)		40.3	41.7	9.5	5.4	3.1
(11) さかだる	(酒樽 / 酒樽)		47.9	35.0	11.6	3.2	2.3
(12) うかい	(迂回 / 迂回)		24.5	56.0	11.4	3.3	4.8

Q18 [回答票 18] あなたは、ここに挙げた(1)から(8)の言葉を聞いたこと、又は見たことがありますか。(聞いたこと・見たことがあると答えた人に) それでは、その言葉の意味が分かりますか。 n=2,200

	(ア) ある	(イ) ない	(ア) 分かる	(イ) 何となく 分かる	(ウ) 分からない
(1) ストレス	99.5%	0.5%	87.7%	11.0%	0.8%
(2) カジュアル	92.9	7.1	74.3	14.2	4.4
(3) コミュニケーション	97.0	3.0	85.4	10.0	1.6
(4) アスリート	35.7	64.3	18.5	8.6	8.7
(5) リテラシー	7.9	92.1	3.4	2.2	2.4
(6) インターネット	96.0	4.0	73.2	17.9	4.9
(7) アメニティー	63.5	36.5	31.5	17.7	14.3
(8) オンブズマン	66.3	33.7	38.3	16.6	11.4

Q19 [回答票 19] 例えば、「パソコン」という言葉は「パーソナルコンピュータ」を略したものですが、あなたは、ここに挙げた(1)から(5)が何という言葉を略したものか分かりますか。

n=2,200

	(ア) 分かる	(イ) 何となく分かる	(ウ) 分からない
(1) ワープロ	59.6%	14.7%	25.7%
(2) リハビリ	60.7	16.1	23.2
(3) セクハラ	68.4	13.1	18.5
(4) エアコン	65.5	14.5	20.0
(5) リストラ	38.3	21.1	40.6

Q20 [回答票 20] ここに挙げた(1)~(8)で、(a)の言葉と(b)の言葉は同じ意味で使われますが、あなたは、(a)と(b)ではどちらの方が意味が分かりやすいと思いますか。((1)~(8)のそれぞれについて聞く。) n=2,200

		(ア)	(イ)	(ウ)	
		(a)の方が、意味 が分かりやすい と思う	(b)の方が、意味 が分かりやすい と思う	どちら とも言 えない	分から ない
(a)	(b)				
(1) (必要性 / ニーズ)		62.8%	24.2%	12.1%	0.9%
(2) (催し / イベント)		33.0	51.2	15.1	0.6
(3) (利点 / メリット)		30.7	54.5	13.7	1.0
(4) (合意 / コンセンサス)		86.7	6.8	4.5	1.9
(5) (計画 / スキーム)		94.1	2.0	2.1	1.9
(6) (危険性 / リスク)		56.0	27.5	15.2	1.3
(7) (展望 / ビジョン)		60.7	24.7	12.9	1.7
(8) (説明責任 / アカウンタビリティ)		88.0	2.3	5.0	4.6

Q21 [回答票 21] それでは、(a)と(b)ではどちらの方が親しみやすい言葉だと感じますか。((1)~(8)のそれぞれについて聞く。) n=2,200

		(ア)	(イ)	(ウ)	
		(a)の方が、親し みやすい言葉だ と感じる	(b)の方が、親し みやすい言葉だ と感じる	どちら とも言 えない	分から ない
(a)	(b)				
(1) (必要性 / ニーズ)		54.7%	36.4%	8.0%	0.9%
(2) (催し / イベント)		33.8	58.2	7.4	0.6
(3) (利点 / メリット)		33.6	57.9	7.5	1.0
(4) (合意 / コンセンサス)		81.9	9.0	7.2	1.9
(5) (計画 / スキーム)		90.3	3.5	4.2	2.0
(6) (危険性 / リスク)		53.1	35.5	10.0	1.4
(7) (展望 / ビジョン)		57.1	30.7	10.5	1.6
(8) (説明責任 / アカウンタビリティ)		82.7	3.6	8.4	5.3

Q22 [回答票 22] 英文の新聞や雑誌の中で、中国人や韓国人の名前は自国での呼び名と同じ「姓一名」の順で書かれることが多いのに、日本人の場合、例えば山田花子は Hanako Yamada のように、「名一姓」の順で書かれるのが普通です。しかし、近ごろでは、日本人の名前は「姓一名」の順なので、英文の中でも逆にするのはおかしいという意見も聞かれます。あなたは、このことについてどう考えますか。この中から、あなたの考えに近いものを選んでください。

n=2,200

34.9% (ア) 日本人の名前は「姓一名」の順なのであり、英文の中でも「姓一名」の順で通すべきだと思う

30.6% (イ) 英文の中では英語圏の習慣に従って、日本人の名前でも「名一姓」の順に直すのがよいと思う

29.6% (ウ) どちらとも言えない

4.8% 分からない

後 記

本報告書は、「国立国語研究所『国語に関する世論調査』分析のための調査研究協力者会議」が編集・執筆した。会議に加わった委員は、次の通りである。(五十音順)

甲斐 睦朗	所長, 主査
笹原 宏之	言語体系研究部
陣内 正敬	関西学院大学総合政策学部
杉戸 清樹	言語行動研究部
田中 牧郎	国語辞典編集室, 事務局
田中ゆかり	日本大学文理学部
野村 敏夫	文化庁国語課
柳澤 好昭	日本語教育センター
横山 詔一	情報資料研究部
吉岡 泰夫	言語変化研究部

なお、会議のなかで、次の方から講義を受けた。

井上 史雄	東京外国語大学外国語学部
江川 清	情報資料研究部
坂元 慶行	統計数理研究所

平成 12 年 5 月

国立国語研究所長

甲斐 睦朗

「国語に関する世論調査」問題別分析報告書
平成 12 年 5 月
編集 国立国語研究所「国語に関する世論調査」分析
のための調査研究協力者会議
〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14
電話 03-3900-3111